B's Recorder
シリーズマニュアル

「B's Recorder」をお買上げいただきありがとうございます。本書は、「B's Recorder」の詳細な使い方について説明したものです。本製品ご利用の前にぜひご一読いただくことをおすすめします。

●目 次

Part.1 環境設定について ····· 7

1-1 起動と終了 8
- B's Recorderを起動するには 8
- B's Recorderを終了するには 9
- B's スタートパネルについて 10

1-2 画面構成 11
- 補助メニュー 11
- メインウィンドウ 11
- メインウィンドウの画面構成 12
- 編集モードとウェル 14
- 編集モードを切り替えるには 15

1-3 書き込み履歴ビューアーについて 16
- 「書き込み履歴ビューアー」とは 16

1-4 プロジェクトの保存と読み出し 17
- プロジェクトの保存 17
- プロジェクトの読み出し 18
- プロジェクトの新規作成 18

1-5 環境設定 19
- 「環境設定のプロパティ」の起動の仕方 19
- 「環境設定のプロパティ」の設定項目について 19
- 「環境設定」タブ 20
- 「ドライブ設定」タブ 21
- 「インターネット設定」タブ 22
- 「機能の制限」タブ 23
- 「ファイルシステム設定」タブ 24
- 「書き込み履歴」タブ 25
- 「メディア情報設定」タブ 26
- 「トラック設定」タブ 27
- 「音楽フィルタ設定」タブ 28
- 「ドライブ検索設定」タブ 28
- 「容量表示設定」タブ 29
- 「キャッシュ設定」タブ 30
- 「メール送信設定」タブ 31
- 「ファイルフィルタ設定」タブ 31
- 「Evernote設定」タブ 32

Part.2 データメディア 作成編 ····· 33

2-1 B's Recorderの データメディア作成機能について 34
- データメディア機能一覧 34

2-2 補助メニューを使用して データメディアを作成する 35
- データメディアの作成手順 35
  - Column 作成したデータメディアの参照方法について 38

2-3 ウェルを使用してデータメディアを作成する 39
- データメディアの作成手順 39
  - Column 書き込んだデータメディアの参照方法について 46

2-4 データの追記を行なうには 47
- データメディアの作成手順 48

2-5 オートランメディアを作るには 50
- オートランメディアの作成 50

2-6 シンプルセキュリティプラスについて 54
- シンプルセキュリティプラス使用時の注意点 55

2-7 セキュリティ機能付きデータメディアを作成するには 56
- メディア全体に暗号化を施したデータメディアの作成手順 56
- ファイル/フォルダに暗号化を施したデータメディアの作成手順 59

2-8 コピー禁止機能付きデータDVDを作成するには 62

2-9 データメディア作成後に元データを消去するには 64
- 完全消去の使用手順 64
- 完全消去のオプション設定について 65

2-10 シンプルセキュリティプラスで作成したメディアを読み出すには 66
- Security Driverのインストールについて 67
- シンプルセキュリティプラスの設定について 68

2-11 ISO9660イメージファイルの使用について 70
- データメディア作成に使用できるイメージファイルの形式 70
- データウェルに登録したデータからイメージファイルを作成するには 70
- ISO9660イメージファイルからのデータメディアの作成手順 71

2-12 複数のディスクを1枚にまとめるには 72
- 複数のディスクを1枚にまとめるには 72
  - Column データメディアのリッピング 73

Part.3 音楽CD作成・音楽関連機能編 ····· 75

3-1 B's Recorderの 音楽関連機能について 76
- B's Recorderに搭載されている音楽関連機能一覧 76

3-2 リッピング機能について 77
- リッピング機能で作成できる音楽ファイルについて 77
- リッピングの手順 78
  - Column 音楽トラック圧縮を選択したときの設定について 81

3-3 補助メニューを使用して音楽CDを作成する 82
- 音楽CDの作成手順 82
  - Column 作成した音楽CDの確認方法について 85

3-4 ウェルを使用して音楽CDを作成する 86
- 音楽CD作成手順 86
  - Column 作成した音楽CDの確認方法について 87

3-5 CD TEXT付きの音楽CDを作るには 88
- CD TEXT情報を直接入力して作成する 88
- CD TEXT情報ファイルから作成する 90
- CD TEXT情報ファイルを保存するには 91

3-6 無音部分のない音楽CDを作るには ～ギャップサイズの設定 92

3-7 ダイレクトカット機能を使うには 94
- CD-Rに直接書き込むには 94
- ダイレクトカットを使った音楽ファイルの作成手順 96
  - Column ダイレクトカットに対応している音楽ファイルの形式は？ 97
- 無音分割について 98
  - Column 手動で分割ポイントを設定するには 99

3-8 データと音楽の混在したCDを作るには 100
- CD-Extraを作成するには 100
- ミックスモードCDを作成するには 103

Part.4 バックアップ 機能を使う ····· 107

4-1 各種メディアをコピーするには 108
- 各種メディアのコピー手順 108

4-2 各種メディアをコピーする際の詳細設定について 110
- コピーの設定 110
- 受け側ドライブの設定（コピー属性） 112

4-3 CD TEXT付きの音楽CDとしてコピーするには 113
- CD TEXT情報の設定方法 113

4-4 HDDバックアップを行なうには 115
- Column HDDバックアップ、ファイルバックアップの活用例 115
- HDDバックアップの手順 116

4-5 バックアップしたHDDを リストア（復元）するには 122
- リストアの方法 122
- リストアの手順 122

4-6 HDDをコピーするには 125

4-7 ファイルバックアップを使用するには 126
- カスタムバックアップでバックアップするには 129
- プリセットを編集する 132

4-8 バックアップしたファイルを リストア（復元）するには 133

Part.5 DVD-Video / ビデオCD作成編 ····· 135

5-1 ビデオCDを作るには 136
- ビデオCDの作成について 136

5-2 ビデオCD作成の手順－その１ 簡単作成編 137

5-3 再生メニュー付きのビデオCDを作るには 139

5-4 MPEG変換機能を使うには 141

5-5 DVD-Videoを作成するには 144

Part.6 リファレンス ····· 145

- 書き込み履歴ビューアーの使い方について 146
- 書き込み履歴ビューアーの起動について 146
- 書き込み履歴ビューアーの画面構成 147
- メディアの情報を手動で書き込み履歴ビューアーに登録するには 148
- ファイルから情報を登録するには 149
- 書き込み履歴ビューアーで検索するには 151
  - Column 検索されたファイル/フォルダの操作について 153
- 書き込み履歴ビューアーを使用したファイル/フォルダのコピーについて 155
- 書き込み履歴ビューアーの操作について 155
- 書き込み履歴ビューアーの環境設定について 156
- リッピングの画面構成について 157
- メディア情報の取得 158
- CD TEXT情報の表示 158
- メディアの消去について 159
- ファイルブラウザの表示の変更 160
- ドライブの再検索 160
- ファイル名の互換性について 161
  - Column DVD、BD、HD DVDを作成する場合 162
- DVD-R/RW/-R DLの対応について 163
- DVD+RW/+R/+R DLの対応について 164
- DVD-RAMの対応について 166
- BD-Rの対応について 168
- BD-REの対応について 169
- HD DVD-R/-R DL/-RWの対応について 170
- メディアのコピーの可否について 171
- バージョン情報の確認 176
- サポートサービスについて 177

●本書は、本書作成時のソフトおよびハードウェアの情報に基づき作成されています。その後のソフトウェアのバージョンアップなどにより、記載内容とソフトに搭載されている機能が異なる場合があります。適宜、補足マニュアルや補足説明文が追加されますので、そちらもあわせてご覧ください。また、本書の内容は、将来予告なく変更することがあります。

●本製品の一部またはすべてを無断で複写、複製、改変することはその形態を問わず、禁じます。

●MPEG 1/2, MPEG4 and H.264 Encoding/Decoding by MainConcept GmbH. Copyright(c) 1999-2017 MainConcept GmbH

●Portions utilize Microsoft Windows Media Technologies.Copyright (C) 1999-2002 Microsoft Corporation. All Rights Reserved.

●HighMAT and the HighMAT logo are trademarks or registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

●AVC
THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM

●MPEG-4
THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE MP.EG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO (i) ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE MPEG-4 VISUAL STANDARD ("MPEG-4 VIDEO") AND/OR (ii) DECODING MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE MPEG-4 VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, LLC. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM

●記載されている会社名および製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

本書の表記について

パソコン	使用しているコンピュータのことを指します
Windows	Windows 7/8.1/10を総称して「Windows」と呼んでいます
メディア	CD-R/RWメディアや記録型DVD用メディアのことを総称してメディアと呼んでいます。また、特に断りのない限り、メディアは、何も書かれていない状態（ブランク）のものを指します
ドライブ	CD-R/RWドライブや記録型DVDドライブなどを総称して「ドライブ」と呼んでいます
初期値	B's Recorderをインストール後、設定の変更を全く加えていない初期設定状態を「初期値」と呼んでいます
クリック/ダブルクリック	アイコンやボタンなどにポインタ（カーソル）を合わせ、左ボタンを1回押すことを「クリック」、すばやく2回押すことを「ダブルクリック」と呼びます
オン/オフ	チェックボックス■やラジオボタンをクリックし、☑や◉の状態にすることを「オン」、何も表示されてない状態にすることを「オフ」と呼んでいます
パッケージ版	店頭などで購入していただいた製品（ソフトウェア）を指します。 B's Recorderにはすべての機能がご使用いただける製品や、一部の機能を制限した製品などがあります
OEM版	CD/DVDドライブなどをご購入の際に、付属のライティングソフトとして同梱されている製品（ソフトウェア）を指します

※このマニュアルに記載されているドライブの名称は仮名です。ソフトウェア上では実際にお客様がご使用中のドライブの名称が表示されます。

動作環境

対応OS	Windows 7/8.1/10（それぞれ32/64ビット）が正常に動作するパソコン
グラフィック	800×600ピクセル（1024×768 ピクセル推奨）、最低24ビット色(True Color)以上。小さいフォント推奨。
サウンドカード	マザーボード上/拡張スロットに関わらずシステムにサウンドデバイスが搭載されている必要があります
ハードディスク空き容量	約200MB（別途作業に応じて、空き容量が必要） ＊DVDメディアへの記録をオンザフライ方式で行なわない場合は上記容量に加え、5GB以上（DLメディアについては10GB以上）、CDメディアの場合は800MB以上の空き容量が必要となります。また、BDメディアへの記録をオンザフライ方式で行なわない場合はBD1層メディアの場合で約30GB、2層メディアの場合で約60GBの空き容量が必要となります。HD DVDメディアへの記録をオンザフライ方式で行なわない場合はHD DVD1層メディアの場合で約20GB、2層メディアの場合で約40GBの空き容量が必要となります
動作確認済みドライブ	動作確認済みドライブは弊社webページにてご案内しております http://rd.snxt.jp/21756にアクセスしてください
その他	DirectX 9.0以上

Part 1

環境設定について

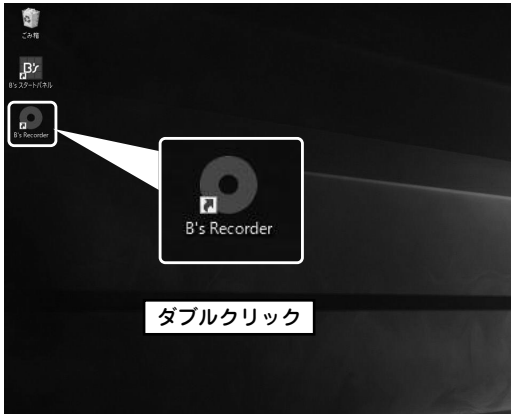
ここでは、B's Recorderの画面構成、各種ウィンドウの働き、環境設定の方法などについて説明しています。

1-1　起動と終了 ……8
1-2　画面構成 ……11
1-3　書き込み履歴ビューアーについて ……16
1-4　プロジェクトの保存と読み出し ……17
1-5　環境設定 ……19

1-1 起動と終了

ここでは、B's Recorderの起動方法や終了方法について説明しています。

B's Recorderを起動するには



デスクトップ上にある「B's Recorder」のショートカットアイコンをダブルクリックすると、B's Recorderが起動します。

B's Recorderを終了するには

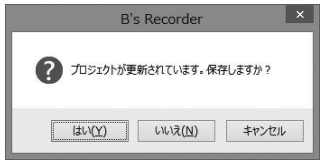
B's Recorderを終了するには、[ファイル]→[終了]を選択するか、[閉じる]ボタンをクリックします。

●ファイルメニューから終了する場合

●閉じるボタンで終了する場合

Point

作業中のプロジェクトがある場合にB's Recorderを終了しようとすると、プロジェクトの保存を行なうかどうかを確認するダイアログが表示されます。プロジェクトの保存の詳細については、17ページを参考にしてください。



B's スタートパネルについて

B's スタートパネルについては作成したいメディアの形式や作業を選択することで、それに適したアプリケーションを起動できるランチャです。
デスクトップ上のB's スタートパネルアイコンをダブルクリック、またはスタートメニューからB's スタートパネルを選択して起動します。

1-2 画面構成

B's Recorderを使用した各種メディアの作成方法には、「補助メニュー（ウィザード）」と「メインウィンドウ」の2つがあります。

補助メニュー

補助メニューは、B's Recorder起動直後に表示される各種メディア作成用のウィザードです（初期値の場合）。画面の指示に従って操作を進めていくことで、目的のメディアを作成できます。

Point

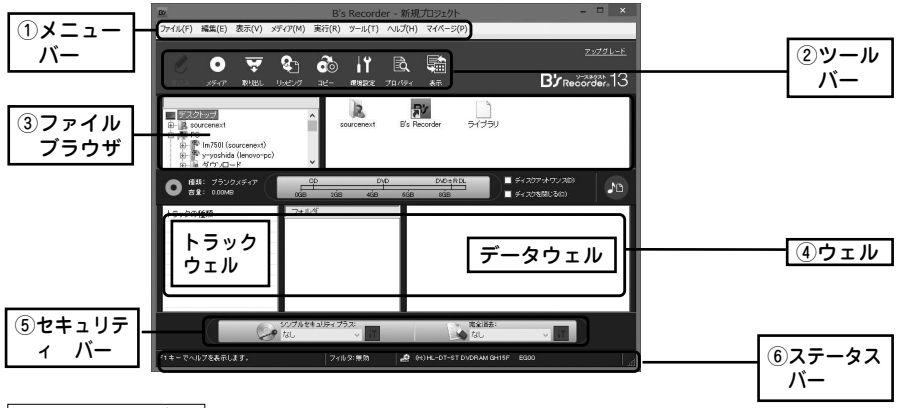
補助メニューは、B's Recorder起動直後に表示しないように設定することもできます。この場合は、[次回の起動時にも表示]のチェックボックスを「オフ」にします。

メインウィンドウ

メインウィンドウでは、B's Recorderに搭載されたすべての機能を使用して各種メディアを作成できます。詳細な設定が行なえ、柔軟な作成機能を提供します。

■ メインウィンドウの画面構成

B's Recorderのメインウィンドウは、①メニューバー、②ツールバー、③ファイルブラウザ、④ウェル、⑤セキュリティバー、⑥ステータスバーから構成されています。



① メニューバー

メニューバーは、各種機能のショートカットを項目別にまとめたメニューリストです。次のような機能が使用できます。

ファイル	プロジェクトファイルの保存/読み込みや環境設定などを行なう項目です。補助メニューの起動もここから行なえます。
編集	各種メディア作成に必要なファイルやフォルダをウェルに登録/削除したり、詳細な設定を行なう項目です。
表示	メインウィンドウ上のステータスバーや、ウェルの表示に関する設定、各種のメディアの情報などに関する設定を行なう項目です。
メディア	ドライブにセットされた各種メディアに関する各種情報や音楽CDのリッピング、メディアの消去など、メディアに関する操作を行なう項目です。
実行	書き込みの開始や各種メディアのコピーなどの操作を行なう項目です。
ツール	B's Recorderが搭載する、各種ツールの起動を行なう項目です。
ヘルプ	B's Recorderの各種ヘルプやバージョン情報を表示する項目です。弊社webサイトへジャンプすることもできます。

② ツールバー

ツールバーは、各種メディア作成時によく使う機能のショートカットアイコンが配置されています。「書込み」は、メディアへの書き込みを行なうときに使用します。「メディア」は、ドライブにセットされたメディアの情報を表示します。「取り出し」は、ドライブにセットされたメディアをイジェクトします。「リッピング」は、メディアの書き込まれているデータをパソコンに保存するときに使用します。「環境設定」は、B's Recorderの各種設定を行なうときに使用します。「プロパティ」は、ファイルやフォルダの情報を表示するときに使用します。「表示」は、ファイルブラウザやウェルのアイコン表示モードを設定できます。「補助」は、補助メニュー（ウィザード）を起動します。

③ ファイルブラウザ

ファイルブラウザは、各種メディアの作成に使用するファイルやフォルダを登録するときに使用します。これを使用して、ファイルやフォルダを、画面下にあるウェルに登録します。

④ ウェル

ウェルは、各種メディアの作成に使用するファイルやフォルダを登録する場所です。トラックウェルとデータウェルの2つが準備されています。

トラックウェル	音楽CDやビデオCDなどの作成に使用します。ISO9660イメージからメディアを作成する時も使用します。また、データウェルにファイルやフォルダを登録すると自動的にトラックが登録されます。
データウェル	パソコンで使用できるデータ（ファイルやフォルダなど）が記録されたメディアを作成するときに使用するウェルです。

⑤セキュリティバー

セキュリティバーは、機密保持などのセキュリティを施したメディアの作成に使用します。セキュリティバーを使用すると、セキュリティ機能付きのメディアを簡単に作成できます。

⑥ ステータスバー

ステータスバーは、書き込みに使用するドライブや選択中のボタンの意味など各種情報を表示します。また、ラベル印刷ソフト「labelFOLiO」、音楽ファイル編集ソフト「soundFOLiO」、ビデオ編集ソフト「movieFOLiO」、静止画ファイル編集ソフト「pictureFOLiO」がパソコンにインストールされている場合、クイック起動ボタンが表示されます。

注意　**OEMバージョンなど一部の製品では、FOLiOが付属していない場合があります。**

■ 編集モードとウェル

B's Recorderは、データウェルとトラックウェルの2種類のウェルを利用して各種メディアの作成を行ないます。ウェルの表示モードには、①汎用編集モード、②データ編集モード、③トラック編集モードの3種類があります。

① 汎用編集モード

汎用編集モードは、データウェルとトラックウェルの両方を表示するモードです。

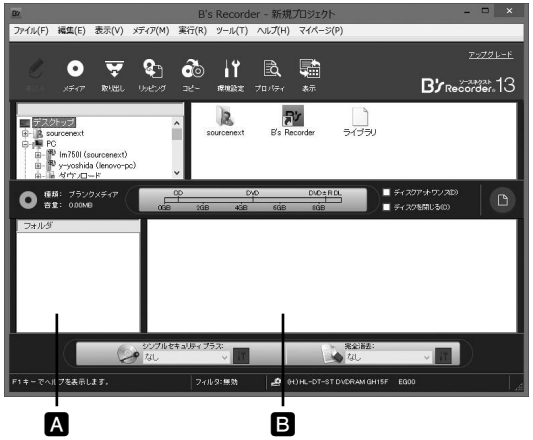
A トラックウェルには、トラックイメージファイルや音楽CDの書き込みに対応した音楽ファイル（注意1）、動画ファイルを登録します。

パソコンなどで使用するファイルやフォルダが記録されたメディアを作成するときは、C右のデータウェルに登録します。

B中央の「フォルダ」（フォルダツリー）では、データフォルダの作成や指定が行なえます。

注意1　**登録できる音楽ファイルについては86ページまたはヘルプをご参照ください。**

② データ編集モード



Aフォルダツリーと B データウェルのみが表示されるモードです。パソコンで使用できるファイルやフォルダが記録されたメディアを作成するときに便利です。（注意2）

注意2　**このモードでは、音楽CDやビデオCDなどは作成できません。トラックイメージや音楽CDに対応した音楽ファイルを登録しても、強制的にデータメディアが作成されます。**

③ トラック編集モード

トラックウェルのみが表示されるモードです。音楽CDやビデオCDなどの作成に適したモードです。このモードでは、トラックイメージファイルと音楽ファイル、動画ファイル（ビデオCD規格に準拠したMPEG1ファイル）のみが登録できます。

■ 編集モードを切り替えるには

編集モードの切り替えは、[表示]メニューで編集モードを選択するか、[編集モード切替]ボタンをクリックすることで行ないます。[編集モード切替] ボタンを使って切り替える時は、クリックする度に、汎用編集モード、データ編集モード、トラック編集モードの順番でモードが変化します。

1-3 書き込み履歴ビューアーについて

B's Recorderには、メインウィンドウで作成したデータメディア作成履歴を保存閲覧する「書き込み履歴ビューアー」を搭載しています。

■「書き込み履歴ビューアー」とは

書き込み履歴ビューアーは、メインウィンドウで作成したデータメディアの情報をデータベースとして保存する機能です。次のような特徴があります。

Point

書き込み履歴ビューアーの詳細な使い方については、146ページをご参照ください。また、書き込みビューアーの設定については156ページをご参照ください。

書き込みデータのデータベース化	B's Recorderのメインウィンドウで作成したデータメディアのデータベースを作成できます。ファイル/フォルダ名を保存するだけでなく、コメントやラベル名などの入力もできます。また、すでに作成済みのメディアの情報も登録することができ、書き込み済みのメディアデータベースを簡単に作成できます。
ファイルやフォルダの検索	目的のファイルやフォルダを書き込んだメディアの検索が行なえます。検索キーワードは、複数指定でき、日時を使用した検索も行なえます。例えば、大切なファイルを各種メディアに保存しておいた場合などで便利に使用できます。
ファイルやフォルダのコピー	検索結果で表示されたファイルやフォルダを簡単な操作でHDDにコピーできます。また、メディア単位でのHDDへのコピーも行なえます。 **注意** **HDDへのコピーを行なうには、コピーしたいファイル/フォルダが書き込まれたメディアが必要になります。**

注意

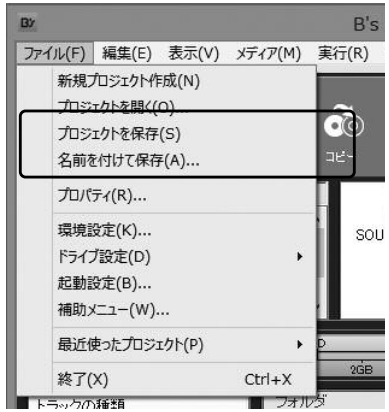
- **書き込み履歴で保存できる情報はデータメディアのみです。**
- **音楽CDやビデオCDの情報は登録されません。また、HDDバックアップで作成したメディアの情報も登録されません。**
- **検索結果などで表示されたファイル/フォルダを読み出すには、それを書き込んだメディアが必要です。**
- **B's Recorder起動中に書き込み履歴を使用する場合は、ファイルやフォルダの検索のみが行なえ、HDDにコピーすることはできません。また、ディスクの登録もできません。**

1-4 プロジェクトの保存と読み出し

B's Recorderは、作成中または作成するメディアの情報を「プロジェクト」と呼ばれる単位で管理します。ここでは、その保存と読み出しについて説明します。

プロジェクトは、各種メディアのレイアウト情報を記録したもので、例えば、データメディアを作成する場合なら、ウェルに登録したファイルやフォルダ情報などのことを指します。B's Recorderは、これをファイルとして保存でき、必要に応じて読み出し、再編集を行なえます。プロジェクトの保存と読み出しは、次の手順で行ないます。

■プロジェクトの保存



1 [ファイル]メニューから[名前を付けて保存]または[プロジェクトを保存]を選択します。

Point

すでに保存済みのプロジェクトの編集を行なっている時は、[プロジェクトを保存]を選択すると、上書き保存が行なえます。

2 「プロジェクトファイルの保存」ダイアログが開いたら、保存先とファイル名を入力し、[保存]ボタンをクリックします。

■ プロジェクトの読み出し

1 ［ファイル］メニューから［プロジェクトを開く］を選択します。

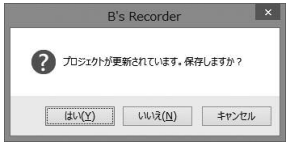
2 「プロジェクトファイルの選択」ダイアログが開いたら、読み出したいプロジェクトを選択し、［開く］ボタンをクリックします。

■ プロジェクトの新規作成

編集中のプロジェクトの情報を破棄し、はじめから作業をやり直したいときは、［ファイル］メニューから［新規プロジェクト作成］を選択します。

Point

編集中のプロジェクトを破棄し、新規プロジェクトを作成したり、編集中のプロジェクトを保存しないでB's Recorderを終了しようとすると、プロジェクトの保存を行なうかどうかのダイアログが表示されます。保存する場合は、［はい］ボタンをクリックしてください。「プロジェクトファイルの保存」ダイアログが表示されますので、プロジェクト名を入力し、［保存］ボタンをクリックします。



1-5 環境設定

B's Recorderは、「環境設定のプロパティ」で、各種メディア作成時の設定を行なえます。

■ 「環境設定のプロパティ」の起動の仕方

「環境設定のプロパティ」の起動は、ツールバーの［環境設定］ボタンをクリックすることで行ないます。また、ファイルメニューから［環境設定］を選択することでも起動できます。

Point

「環境設定のプロパティ」は、補助メニューの下にある［環境設定］ボタンをクリックすることでも起動します。

■ 「環境設定のプロパティ」の設定項目について

「環境設定のプロパティ」では、次の項目について設定できます。

環境設定	作業用フォルダやデータ保存するときに使用するフォルダの初期値の設定が行なえます。
ドライブ設定	使用しているドライブの機能や固有の設定などが行なえます。
インターネット設定	インターネット上に設置されたCDデータベースサーバーへの接続設定が行なえます。
機能の制限	書き込み、リッピングなど機能の使用を制限できます。
ファイルシステム設定	ブランクメディアに記録する場合のファイルシステムを設定できます。
書き込み履歴	メインウィンドウで作成したデータメディアの作成履歴に関する設定が行なえます。
メディア情報設定	音楽CDからリッピングを行なったり、コピーを作成する時など、メディアからの情報の読み出しに関する設定が行なえます。
トラック設定	データトラックや音楽トラックなどに関する初期設定が行なえます。
音楽フィルタ設定	現在使用可能な音楽フィルタの確認と設定が行なえます。
ドライブ検索設定	パソコンに接続されているドライブの検索方法についての設定が行なえます。
容量表示設定	メインウィンドウ中央のメディア容量ステータスバーの表示色などの設定が行なえます。
キャッシュ設定	メディアの書き込みに使用するキャッシュ（作業用の一時メモリ）の容量などの設定が行なえます。
メール送信設定	書き込み後のメール送信先の設定を行ないます。
ファイルフィルタ設定	ファイル登録時のフィルタ設定を行ないます。
Evernote設定	データ書込み後、書き込まれたファイル名の一覧をEvernoteのクライアントソフトへ記憶することができます。

「環境設定」タブ

①作業用フォルダ	ここでは、B's Recorderが、書き込み時に使用する作業ファイル（一時ファイル）を作成するフォルダを指定します。できるだけ空き領域が大きいドライブを指定してください。[フォルダの参照]ボタンをクリックすると、保存先を変更できます。
②データ管理フォルダ	ここでは、B's Recorderを使用して、音楽ファイルやビデオファイルなどを作成した時の保存先を変更できます。[フォルダの参照]ボタンをクリックすると、保存先を変更できます。
③「初期値」ボタン	このボタンをクリックすると、作業用フォルダとデータ管理フォルダをB's Recorderをインストールした時の状態に戻します。
④プロジェクトファイル	ここでは、プロジェクトファイルを読み込んだ時に、ウェルには登録されているものの、HDD上には存在しないファイルに対する処理方法を設定します。[読み込み時、存在しないファイルはスキップ]のチェックボックスを「オン」に設定すると、存在しないファイルを無視して処理を続行します。ただし、「プロジェクトファイルの読み込みエラー一覧」ダイアログを表示し、読み込めなかったファイルは確認できます。この設定を「オフ」にすると、読み込みエラーのダイアログを表示し、プロジェクトファイルの読み込みを中止します。

「ドライブ設定」タブ

① 使用中のドライブ

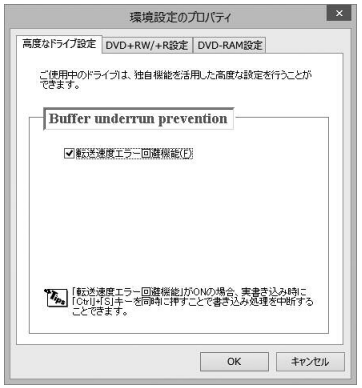
複数のドライブがパソコンに接続されている場合は、作成に使用するドライブを選択できます。下の欄には、ドライブの性能や使用できるメディアの一覧が表示されます。

② 書き込み直後に、メディアをイジェクトする

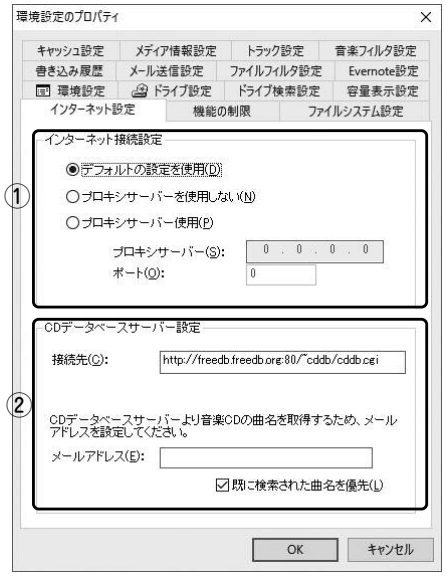
このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後、自動的にメディアをイジェクトします。

Point

[高度なドライブ設定]ボタンをクリックすると、ドライブごとに搭載されている独自機能（例えば、バッファーアンダーラン防止機能など）の設定が行なえます。ここで設定できる内容は、ドライブごとに異なります。詳細は、ドライブガイドをご参照ください。



■「インターネット設定」タブ



① インターネット接続設定

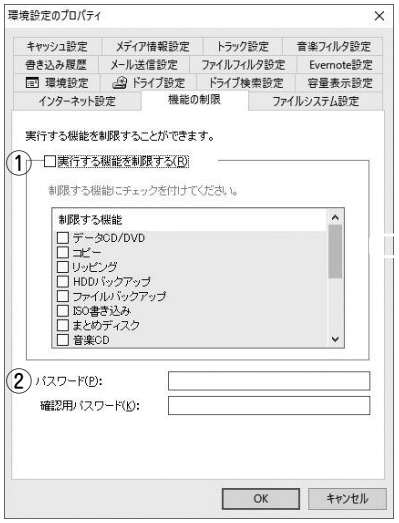
インターネットの接続に関する設定を行ないます。設定は、次の3種類から選択できます。

デフォルトの設定を使用	Windowsに設定されている初期値のインターネット接続方法を利用して、CDデータベースサーバーに接続します。
プロキシサーバーを使用しない	CDデータベースサーバーに接続する時にプロキシサーバーを使用しません。
プロキシサーバー使用	CDデータベースサーバーに接続する時にプロキシサーバーを使用します。プロキシサーバーのIPアドレスと、接続に使用するポート番号を入力してください。

② CDデータベースサーバー設定

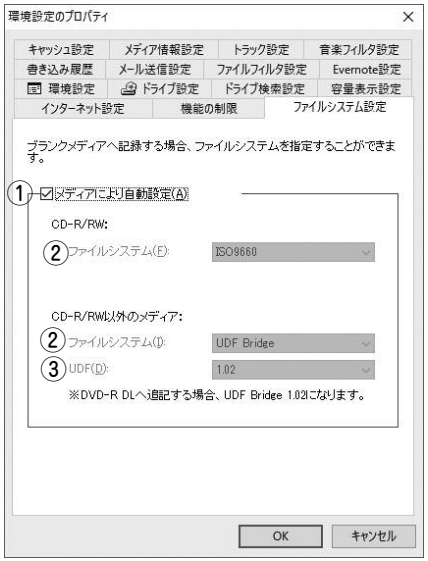
CDデータベースサーバーに接続し、音楽CDのアルバム名やアーチスト名、曲名などの情報を取得する時にCDデータベースサーバの接続先、メールアドレスの設定を行ないます。また、「既に検索された曲名を優先」のチェックボックスを「オン」に設定すると、CD TEXT情報や以前CDデータベースサーバーで検索した結果を優先的に使用します。

■「機能の制限」タブ



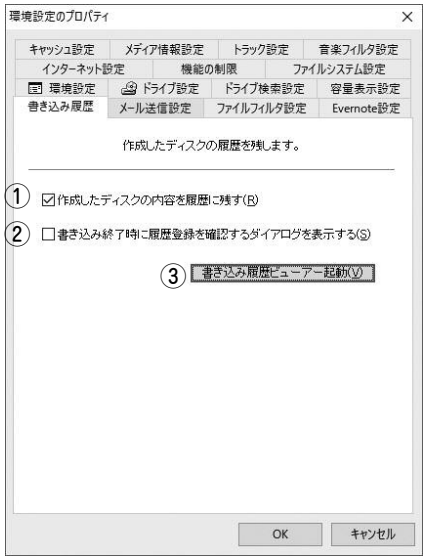
① 実行する機能を制限する	このチェックボックスを「オン」にすると、制限する機能を選択できます。この画面からチェックをはずさない限り、選択した機能は使用できません
② パスワード	制限を解除、変更する際に入力します。

■「ファイルシステム設定」タブ



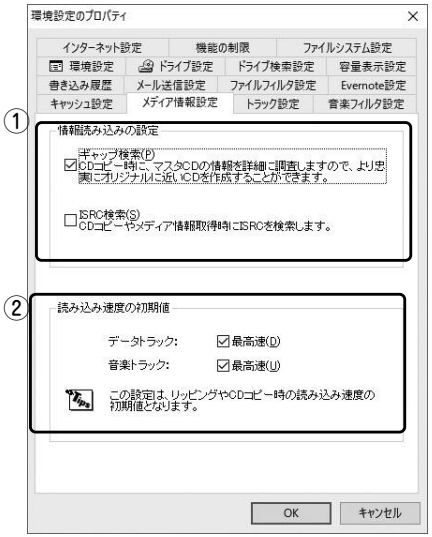
①メディアによる自動設定	この設定をオンにすると自動的にCD-R/RWメディア、DVDメディアを判別し、最適な設定を行ないます。 ※通常はこの設定を使用してください。 ■CD-R/RWメディア：ISO9660 ファイルシステムで記録します。 ■CD-R/RW以外のメディア：UDFファイルシステム（リビジョン1.02）で記録します。
②ファイルシステム	■CD-R/RW：ISO9660、ISO9660（MODE2 XA）から選択します。 ■CD-R/RWメディア以外のメディア：ISO9660、ISO9660（MODE2 XA）、UDFから選択します。
③UDF	CD-R/RW以外のメディアでUDF Bridge、UDFを選択した場合のみ設定が行なえます。 設定可能なUDFのリビジョンは"1.02"、"2.50"です。

■「書き込み履歴」タブ



① 作成したディスクの内容を履歴に残す	このチェックボックスを「オン」にすると、メインウィンドウで作成したデータメディアの履歴情報を保存し、データベースを作成します。「オフ」に設定するとデータベースを作成しません。
② 書き込み終了時に履歴登録を確認するダイアログを表示する	このチェックボックスを「オン」にすると、書き込み終了後に「登録情報」ダイアログを表示し、登録情報の入力や履歴登録を行なうかどうかを設定できます。この設定は、「作成したメディアの内容を履歴に残す」の設定が「オン」になっている時のみ有効になります。
③ 書き込み履歴ビューアー起動	このボタンをクリックすると「書き込み履歴ビューアー」が起動します。

「メディア情報設定」タブ



① 情報読み込みの設定

リッピングやコピーなどの操作を行なう際、メディアから情報を読み込む時の設定を行ないます。

ギャップ検索	このチェックボックスを「オン」にすると、プリギャップとポストギャップの時間を詳細に調査して書き込みます。CDによってはギャップの時間を独自に設定しているものがありますが、そうしたCDでもコピーを作成する時に忠実にギャップを再現できます。
ISRC検索	このチェックボックスを「オン」に設定すると、メディアにISRC（International Standard Recording Code）が書き込まれているか確認し、書き込まれている時は、それを取得します。コピーを作成する時は、それを忠実に再現します。

Point

各トラック固有の識別コードをISRC（International Standard Recording Code）と呼びます。ISRCは音楽CDの作成に必ずしも必要ではありません。必要な時のみ「オン」に設定してください。

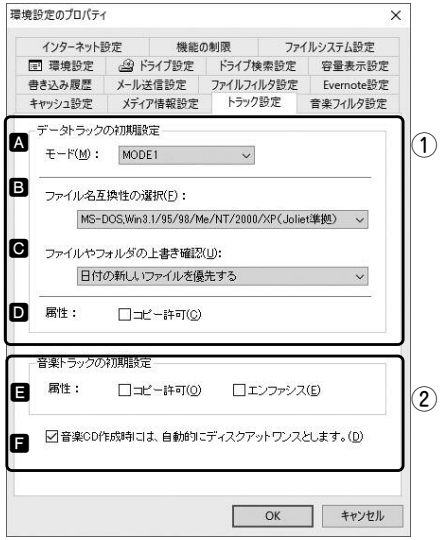
② 読み込み速度の初期値

CDメディアの読み込み速度の初期値をデータトラック/音楽トラックごとに設定します。「最高速」のチェックボックスを「オン」に設定すると、ドライブのもつ最高速度が初期値に設定されます。「オフ」にすると最低速に設定されます。

Point

DVD、BD、HD DVDメディアからの読み込みは、設定に関わらず常に「最高速」に設定されています。

「トラック設定」タブ



① データトラックの初期設定

Aモード	データCDを作成する時に使用する物理フォーマットの初期設定を「MODE1」と「MODE2 XA」の中から選択できます。通常は、「MODE1」で問題ありません。
Bファイル名互換性の選択	データCDを作成する時に使用するファイルシステムの初期設定を行ないます。初期値では、Windowsに適したモード(Joliet準拠)が選択されています。
Cファイルやフォルダの上書き確認	作成したデータメディアに追記を行なう時に、同じ名称のファイルやフォルダを登録した時の処理の初期値を設定します。「日付の新しいファイルを優先する」と、問合せを行なう「上書き時に確認する」の中から選択できます。
D属性	「コピー許可」のチェックボックスを「オン」に設定すると、CDに準備されている「コピー禁止ビット」をオフにして書き込みを行ないます。通常、「オフ」で問題はありません。

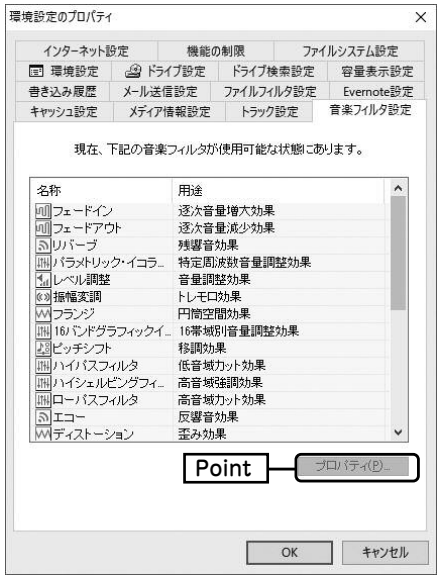
② 音楽トラックの初期設定

E属性	音楽トラックの属性の初期設定を行ないます。「コピー許可」のチェックボックスを「オン」に設定すると、CDに準備されている「コピー禁止ビット」をオフにして書き込みを行ないます。「エンファシス」のチェックボックスを「オン」に設定すると、エンファシスが有効になります。
F音楽CD作成時には、自動的にディスクアットワンスとします。	このチェックボックスを「オン」に設定すると、音楽CDの書き込み時に自動的にディスクアットワンスで書き込みを行ないます。

Point

ここで設定した値はすべて初期値となります。この設定は、「トラックのプロパティ」から一時的に変更できます。

■「音楽フィルタ設定」タブ



現在使用可能な音楽フィルタを確認できます。

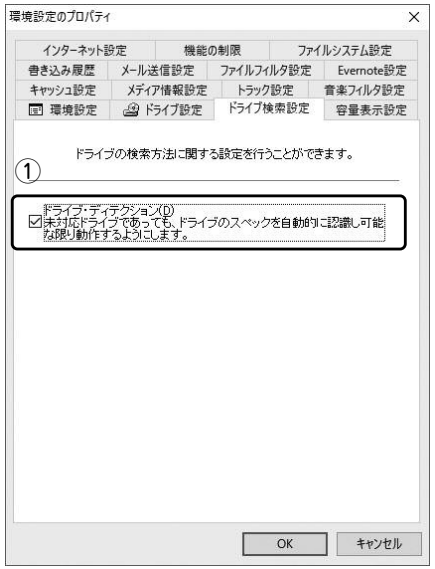
Point

リスト上の表示をダブルクリックするか、選択した後に[プロパティ]ボタンをクリックすることで、それぞれの音楽フィルタの設定を行なうことができます。詳細な設定は、音楽フィルタのヘルプをご参照ください。

注意

B's Recorder（GOLDは除く）でご使用いただけるフィルタは「フェードイン」、「フェードアウト」のみです。

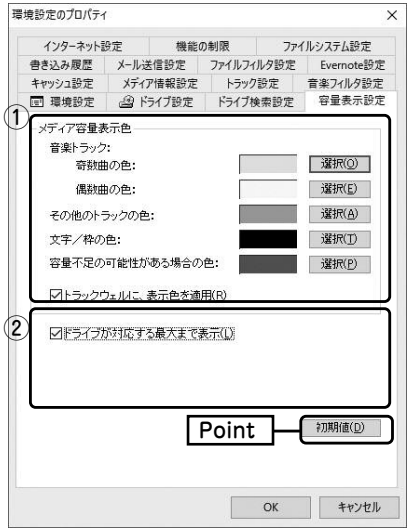
■「ドライブ検索設定」タブ



① ドライブ・ディテクション

このチェックボックスを「オン」に設定すると、ドライブのスペックを自動認識し、未対応のドライブであっても可能な限り動作するようにします。

■「容量表示設定」タブ



① メディア容量表示色

メインウィンドウ中央のメディア容量ステータスバーの表示色を設定します。音楽トラックの場合は奇数／偶数トラックで色分けできます。また、[トラックウェルに、表示色を適用]のチェックボックスを「オン」に設定すると、トラックウェルに同じ色を適用することもできます。

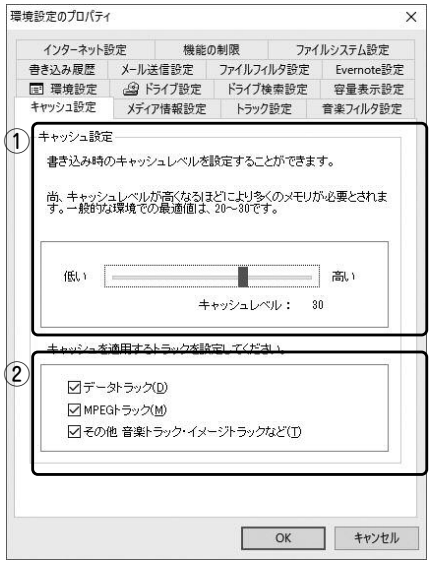
② ドライブが対応する最大まで表示

このチェックボックスを「オン」にすると、使用しているドライブの最大サイズがメディア容量ステータスバーの上限になります。

Point

[初期値]ボタンをクリックすると、B's Recorderをインストールした時の状態に戻します。

■「キャッシュ設定」タブ



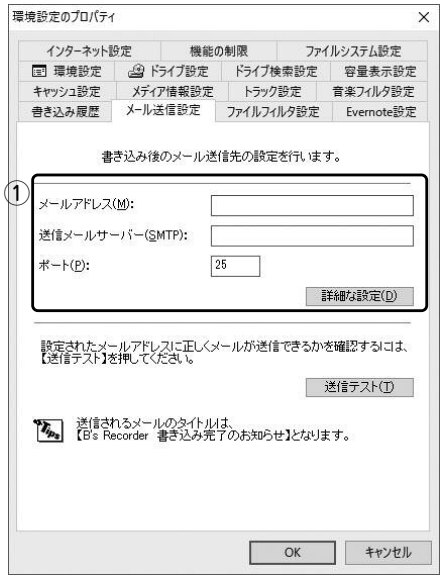
① キャッシュ設定

メディアの書き込みに使用するキャッシュ(作業用の一時メモリ)のレベル（値）を設定します。スライドバーを「高い」に近づけるほど多くのキャッシュが割り当てられ、より確実に作成を行なえますが、それだけ大きな容量のメインメモリを必要とします。通常は、初期値（30）で問題ありません。書き込みが不安定になる時にのみ設定を変更してください。

② キャッシュを適用するトラックを設定してください

キャッシュを適用するトラックの設定を行ないます。設定は、「データトラック」、「MPEGトラック」、「その他　音楽トラック・イメージトラックなど」、それぞれのチェックボックスを「オン/オフ」することで行なえます。初期状態では、すべて「オン」に設定されており、通常、この設定を変更する必要はありません。

■「メール送信設定」タブ

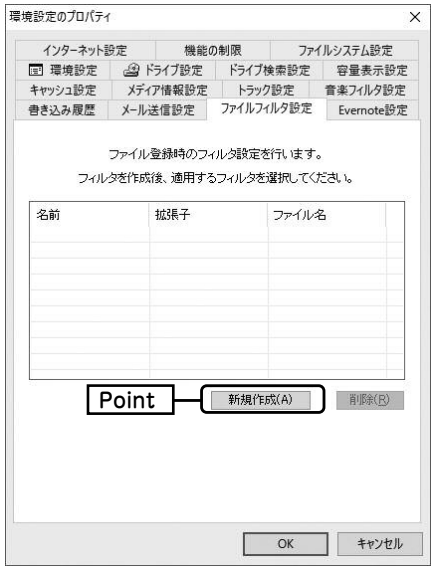


① メール設定

設定したメールアドレスに書き込み完了のメールを送信します。
送信先のメールアドレスと送信時に使用するSMTPサーバー、ポートを指定します。
詳細な設定を行なう場合は「詳細な設定」ボタンをクリックしてください。

- **ポート**
  プロバイダによっては、ポートの設定が必要な場合があります。その場合、設定資料を確認してポートを入力してください。
- **メールがSSL有効の場合**
  本機能はSSL有効のメールには非対応です。SSL有効の有無に関しては、お使いの各プロバイダなどにお問い合せください。

■「ファイルフィルタ設定」タブ

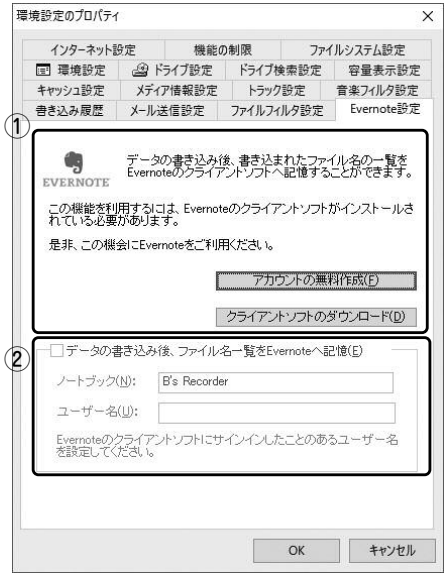


書き込み時に除外する拡張子やファイル、フォルダを指定します。

Point

［新規作成］ボタンをクリックすることで書き込み時に対象としないファイルを設定することができます。

「Evernote設定」タブ



① アカウントの作成

Evernoteに書き込んだファイルの一覧をアップロードするにはEvernoteのクライアントソフトとアカウントの作成が必要です。

② データの書込み後、ファイル名一覧をEvernoteに記憶

このチェックボックスをオンにすると、「ノートブック」を作成し、書き込んだファイル名の一覧をアップロードします。

Part 2 データメディア作成編

ここでは、B's Recorderを使用したデータメディアの作成方法について説明しています。また、その他の便利な機能、オートランメディアやブータブルメディア、シンプルセキュリティプラスなどについても説明します。

2-1　B's Recorderの データメディア作成機能について ……34
2-2　補助メニューを使用してデータメディアを作成する ……35
2-3　ウェルを使用してデータメディアを作成する ……39
2-4　データの追記を行なうには ……47
2-5　オートランメディアを作るには ……50
2-6　シンプルセキュリティプラスについて ……54
2-7　セキュリティ機能付きデータメディアを作成するには ……56
2-8　コピー禁止機能付きデータDVDを作成するには ……62
2-9　データメディア作成後に元データを消去するには ……64
2-10　シンプルセキュリティプラスで作成したメディアを読み出すには ……66
2-11　ISO9660イメージファイルの使用について ……70
2-12　複数のディスクを1枚にまとめるには ……72

2-1 B's Recorderの データメディア作成機能について

B's Recorderには、データメディアを活用するさまざまな機能が搭載されています。

データメディア機能一覧

マルチセッション/マルチボーダー	追記機能は、1度書き込みを行なったメディアに対して、新しいデータをメディアの空き領域に後から書き込む（追記する）機能です。CD-R/RWやDVD+R、BD-Rでは「マルチセッション」、DVD-R、HD DVD-Rでは「マルチボーダー」と呼びます。マルチセッション/マルチボーダーを使用すれば、メディアの空き領域がなくなるまで、データの追記を行なえ、メディアを効率よく使用できます。詳細は、47ページをご参照ください。(注意1)
オートランメディア	Windowsには、メディアをドライブに挿入した場合に指定したプログラムが自動的に実行されるオートラン機能が搭載されています。B's Recorderでは、簡単な操作でオートランメディアの作成を行なえます。詳細は、50ページをご参照ください。
シンプルセキュリティプラス	シンプルセキュリティプラスは、読み出し時にパスワードを入力しない限り書き込まれたデータを読み出すことができないセキュリティ機能付きデータメディアです。データを暗号化して書き込むこともできますので、他人に簡単に読み出されては困るようなデータを保存する時に便利な機能です。詳細は、56ページをご参照ください。(注意2)
イメージファイルからのメディア作成機能	B's Recorderには、ISO9660イメージファイルの作成機能およびそれを使用したデータメディア作成機能を搭載しています。拡張子「.ISO」またはその互換形式、B's Recorderで作成した拡張子「.IMG」ファイルを使用することができます。詳細は、70ページをご参照ください。

注意1　**B's Recorderは、DVD±RWメディアやDVD-RAM、BD-RE、HD DVD-RWメディアに対しても追記を行なえます。その時は、マルチセッション/マルチボーダーではなく、シングルセッション/シングルボーダーで書き込まれたDVDと互換性がある形式で追記が行なわれます。詳細は、47ページをご参照ください。**

注意2　**シンプルセキュリティプラスは、書き込み方式に「ディスクアットワンス」を選択する必要があります。また、DVD-RAM/BD-RE/HD DVD-RWディスクには対応していません。**

注意　**記録型DVDメディアおよびBDメディア、HD DVDメディアに書き込む場合、初期値のファイルシステム「UDF Bridge」では、ファイルサイズが、4GB以上のファイルを書き込むことはできません。4GB以上のファイルを書き込む時は、ファイルシステムにUDFのみが使用されます。UDFのみで作成されたメディアの読み出しには、別途ソフトウェア（UDFリーダー）をインストールしなければならない場合があります。また、記録型DVDメディア/BDメディア、HD DVDメディアに書き込む時の初期値のファイルシステムは、「環境設定のプロパティ」の「UDF設定」タブで設定できます。詳細は、24ページをご参照ください。**

2-2 補助メニューを使用して データメディアを作成する

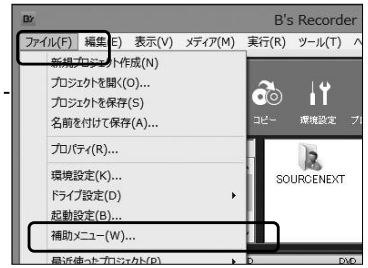
B's Recorderは、補助メニューを使用することで簡単にデータメディアを作成できます。ここでは、その手順を紹介します。

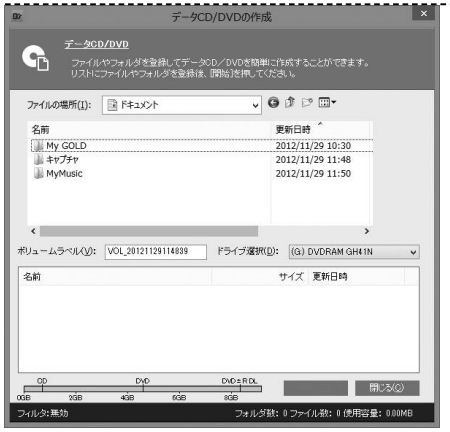
データメディアの作成手順

1 B's Recorderを起動します。補助メニューが表示されたら、[データCD/DVD]ボタンをクリックします。

Point

補助メニューが表示されない時は、ツールバーに配置されている[補助]ボタンをクリックするか、[ファイル]メニューから[補助メニュー]を選択してください。





2 データメディア作成用の補助メニューが起動します。

3 画面上段のファイルブラウザまたはエクスプローラを使用して画面下段のウェルに書き込みたいデータをドラッグ＆ドロップして登録します。

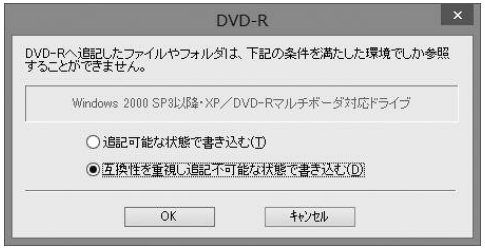
4 書き込み準備を行ないます。

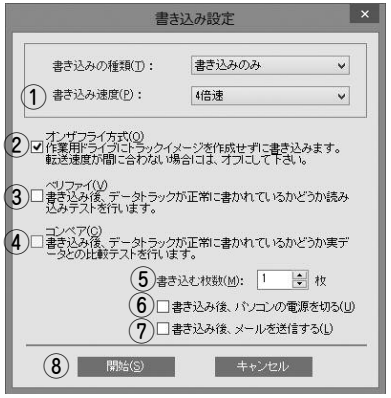
①ボリュームラベルを入力します。ボリュームラベルは、作成したメディアをドライブにセットした時にここで入力した名称が表示されます。

②ドライブにメディアをセットして、[開始]ボタンをクリックします。

Point

DVD/BD/HD DVDメディアの種類によっては、書き込み方式に関する確認ダイアログが表示されます。互換性を重視し、追記不可な状態で書き込みを行なうか、追記可能な状態で書き込みを行なうかを選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。DVD/BDメディアの追記に関する詳細は、47ページをご参照ください。





5 「書き込み設定」ダイアログが表示されますので、各種設定を行ない、書き込みを開始します。

①書き込み速度

書き込み速度を設定します。ただし、メディアの状態をチェックし、書き込み速度を自動設定する機能を搭載したドライブでは、ここで設定した書き込み速度で必ず書き込まれるというわけではありません。

②オンザフライ方式

このチェックボックスを「オン」に設定すると、作業領域にイメージを作成することなく、ダイレクトに書き込みます。

③ベリファイ

このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後にエラーなくメディアが読み込めるかどうかチェックを行ないます。

④コンペア

このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後に、書き込み済みデータと実データとの比較テストを行ないます。

⑤書き込む枚数

作成するメディアの枚数を設定できます。

⑥書き込み後、パソコンの電源を切る

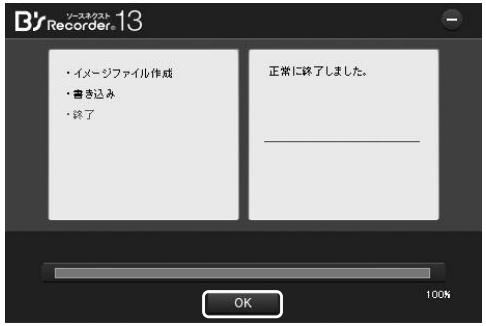
このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後にパソコンの電源を切ります。

⑦書き込み後、メールを送信する

このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後にメールを送信します。

⑧開始

すべての設定が終了したら、書き込みを開始します。[開始]ボタンをクリックします。



6 書き込みが終了したら、[OK]ボタンをクリックします。

Point

「環境設定のプロパティ」の「書き込み履歴」タブで、「作成したメディアの内容を履歴に残す」の設定を「オン」に設定し、かつ「書き込み終了時に履歴登録を確認するダイアログを表示する」の設定を「オン」にしている時は、 手順6終了後に「登録情報」ダイアログが表示されます。書き込み履歴を登録する時は、ラベル名やコメントなどを入力し、[登録]ボタンをクリックします。登録しない時は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

7 データメディア作成用の補助メニューに戻ります。[閉じる]ボタンをクリックします。

Column

作成したデータメディアの参照方法について

作成したデータメディアは、パソコン上では市販のCD-ROMやDVD-ROMと同じように扱われます。書き込んだ内容を参照するには、「B's Recorder」を終了し、Windowsのマイコンピュータやエクスプローラなどから開いてください。

2-3 ウェルを使用してデータメディアを作成する

B's Recorderは、メインウィンドウを使用することでデータメディア作成時に詳細な設定を行なえます。ここでは、メインウィンドウを使用したデータメディア作成の手順を紹介します。

データメディアの作成手順

データメディアの作成は、B's Recorderを起動後、書き込みを行ないたいファイルやフォルダを登録することから始まります。その後、各種設定を行ないます。

1 起動と書き込みたいファイル/フォルダの登録

①B's Recorderを起動します。

Point

初期値では、補助メニュー（ウィザード）が起動しますので、[閉じる] ボタンをクリックして補助メニューを終了します。また、「次回の起動時にも表示」のチェックボックスを「オフ」にすると、次回から補助メニューは表示されません。

②書き込みたいフォルダ/ファイルを画面上段に配置されたファイルブラウザ、またはエクスプローラを使用してデータウェルにドラッグ&ドロップで登録します。

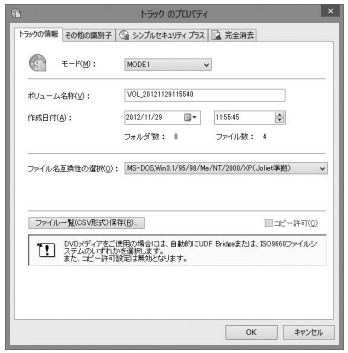
注意

記録型DVD/BD/HD DVDメディアに書き込む場合、4GB以上のファイルを書き込む時は、ファイルシステムにUDFのみが使用されます。詳細は、24ページをご参照ください。

2 「トラックのプロパティ」の設定を行なう

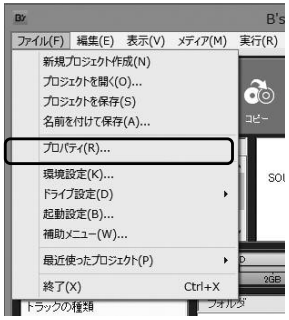
データメディアを作成する時に必要な各種設定を行ないます。設定は、「トラックのプロパティ」ダイアログを開いて行ないます。

①「トラックのプロパティ」ダイアログを開きます。表示方法は、トラックウェル内に登録されたトラックをダブルクリックするか、トラックを選択して、[プロパティ]ボタンをクリックします。



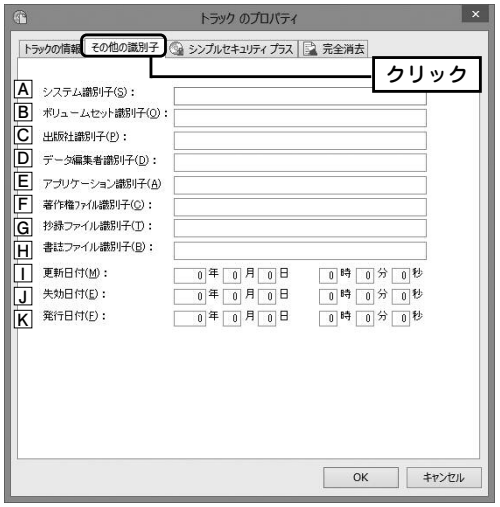
Point

「トラックのプロパティ」画面は、トラックウェル内に登録されたトラックを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択、あるいは[ファイル]→[プロパティ]を選択することでも表示できます。



②「トラックの情報」タブをクリックし、トラック情報の設定を行ないます。設定項目には、次の項目があります。

A モード	モードは、データCD作成時に使用される「セクタ（フレーム）フォーマット」の設定です。通常は、初期値の「MODE1」で問題ありません。「MODE2 XA」は、CD Extraを作成する時に使用します。(注意1) **注意1　ここで行なう設定は一時的なものです。初期値の設定は、環境設定のプロパティの中にある[トラック設定]で行なえます。**
B ボリューム名称	作成したいデータメディアに付ける「名称」を入力します。作成したメディアをドライブに挿入した時に、ここで設定した名称が表示されます。ボリューム名称で使用できるのはd文字で32文字以内となります。ファイル名互換性の選択でISO9660以外を選択している場合には、日本語を使用することができます。
C 作成日時	作成日時は、このデータメディアを作成した日時の設定です。通常、初期値のままで問題ありません。
D ファイル名互換性の選択	データCD作成時に使用できるファイル名の長さや文字種に関する設定（ファイルシステムの選択）を行ないます。通常は、最大64文字のファイル名が使用でき、日本語も使用できる「MS-DOS、Win3.1/95/98/Me/NT/2000/XP（Joliet準拠）」でご使用ください。詳細については、161ページをご参照ください。(注意2) **注意2　記録型DVD/BD/HD DVDメディアに書き込みを行なう時は、初期値ではUDF Bridgeが自動的に選択され、ファイル名の互換性は、「MS-DOS、Win3.1/95/98/Me/NT/2000/XP（Joliet準拠）」に設定されます。この設定は「環境設定のプロパティ」ダイアログの「UDF設定」で変更できます。詳細は24ページをご参照ください。**
E ファイル名一覧（CSV形式）保存	このボタンをクリックすると、データウェルに登録されたファイルやフォルダ名すべてをCSV形式のテキストファイルに保存します。



③「その他の識別子」タブをクリックし、ISO9660準拠のメディアで採用されているさまざまな識別子の情報を必要に応じて設定します。設定が終了したら[OK]ボタンをクリックしてください。この情報は、主に公的な出版物などで使用されているもので、通常の個人使用などでは設定を行なう必要はありません。設定できる項目には次のものがあります。

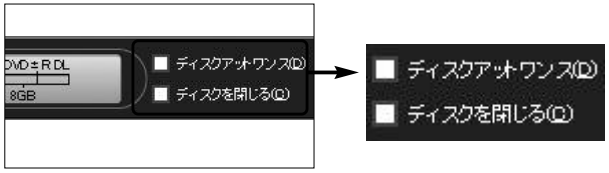
A システム識別子	ディスクを使用するOSを32文字以下のa文字で設定します。
B ボリュームセット識別子	ディスクがボリュームセットに登録されている場合、ボリュームセットの名称を128文字以内のd文字で設定します。a文字、d文字については162ページをご参照ください。
C 出版社識別子	ディスクの出版社の名称を128文字以内のa文字で設定します。設定したい出版社名があるファイルを設定する時は、“_（アンダーバー）”を入力し、次に8文字以下のd文字のファイル名と、3文字までのd文字の拡張子を入力します。
D データ編集者識別子	データの編集者の名前を128文字以下のa文字で設定します。編集者の名前があるファイルを指定する場合は、“_（アンダーバー）”を入力し、次に8文字以下のd文字のファイル名と、3文字までのd文字の拡張子を入力します。
E アプリケーション識別子	ディスク上のデータを使用できるアプリケーションに関する情報を128文字以下のa文字で設定します。アプリケーションに関する情報があるファイルを指定する場合は、“_（アンダーバー）”を入力し、次に8文字以下のd文字のファイル名と、3文字までのd文字の拡張子を入力します。
F 著作権ファイル識別子	著作権表記があるファイルを「ファイル名（8文字以下のd文字）.拡張子（3文字までのd文字）;ファイルバージョン（1～32767）」のように指定します。
G 抄録ファイル識別子	ディスクの内容の要約があるファイルを「ファイル名（8文字以下のd文字）.拡張子（3文字までのd文字）;ファイルバージョン（1～32767）」のように指定します。
H 書誌ファイル識別子	書誌情報があるファイルを「ファイル名（8文字以下のd文字）.拡張子（3文字までのd文字）;ファイルバージョン（1～32767）」のように指定します。
I 更新日付	ボリュームを最後に更新した日時を指定します。
J 失効日付	ボリュームに有効期限がある場合、その日時を指定します。
K 発行日付	ボリュームがある日時以降に有効になる場合、その日時を指定します。

3 書き込み方式を設定する

書き込み方式に関する設定を行ないます。B's Recorderは、追記を行なえない「ディスクアットワンス」と「追記可能な書き込み方式」の2種類から選択できます。

ディスクアットワンス	この方式は、メディアに対して１回だけ書き込みを行なえます。市販のプレスメディアと高い互換性があることが特徴です。ただし、DVD-R/RWでは、ドライブによって1GB制限（70mm制限）という規定があり、最低１GB以上のデータを書き込む必要があります。この方式を選択すると、書き込みたいデータが1GBに満たない時は、それを超えるだけのダミーデータが自動的に書き込まれます。また、DVD+RW/+R/+R DLは、「読み取り互換性を重視する」の設定が「オン」になっている時のみダミーデータを書き込みます。[読み取り互換性を重視する]の設定については164ページをご参照ください。
追記可能な書き込み方式	この方式は、１度書き込んだメディアに対して、空き領域がなくなるまで何度でもデータの書き込みが行なえ、メディアを効率よく使用できることが特徴です。この方式では、すでに書き込まれたデータを消去することなく、未記録領域に新しいデータを「追記」します。CD-R/RWでは、「トラックアットワンス」と呼ばれる書き込み方式が使用されます。ただし、トラックアットワンスの書き込みでは、データ容量以外にセッション情報として10～20MB程の領域が必要になります。

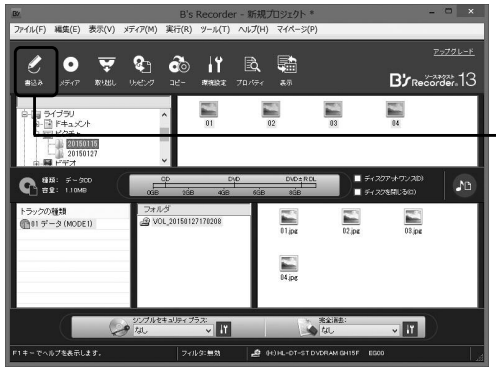
実際の設定について



書き込み方式の設定は、次のチェックボックスを「オン」「オフ」することで行ないます。

①書き込み方式の選択	ディスクアットワンスを設定する時は、[ディスクアットワンス]のチェックボックスを「オン」に設定します。「オフ」に設定すると追記可能な書き込み方式が選択されます。 **Point** **DDCD（Double Density CD）メディアを使用する時は、ディスクアットワンスを選択できません。また、DVD±R/+R DL/-R DLとDVD-RWメディア、BD-R/HD DVDメディアを使用している時は、追記可能に設定すると書き込み前に、確認画面が表示されることがあります。詳しくは、44ページをご参照ください。**
②追記の設定	ディスクアットワンスのチェックボックスを「オフ」に設定した時のみ、追記の設定を行なえます。「ディスクを閉じる」のチェックボックスを「オフ」に設定すると以降も追記が行なえ、「オン」に設定すると、以降の追記が行なえません。

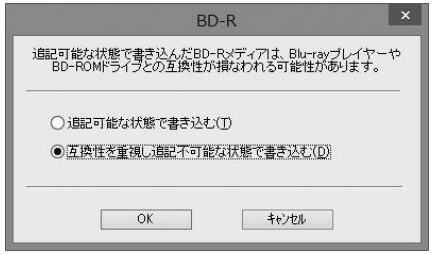
4 書き込み設定を行なう



①メディアをドライブに挿入し、[書込み]ボタンをクリックします。

Point

DVD±R/DVD±R DL/DVD-RW/BD-R/HD DVD-Rのブランクメディアを使用し、追記可能に設定して、[書込み]ボタンをクリックすると確認ダイアログが表示されます。追記可能な状態にするかどうかを再度選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。DVD/BD/HD DVDメディアの追記に関する詳細は、47ページをご参照ください。

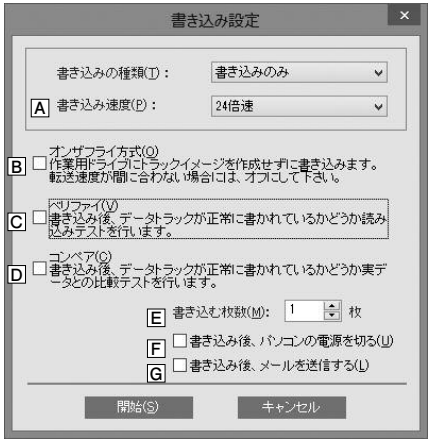


追記可能な状態で書き込む

これを選択すると、「追記可能」な状態で書き込みを行ないます。ただし、DVD±R/+R DLメディアを使用した時は対応したドライブを使用している時のみ追記したデータの読み出しが行なえます。

互換性を重視し追記不可能な状態で書き込む

これを選択すると、書き込み方式に「ディスクアットワンス」が使用されます。追記を行なうことはできませんが、多くのドライブで読み出せる互換性の高いメディアを作成できます。



注意　**一部のドライブでは「テストの後、書き込み」「テストのみ」が選択できないことがあります。**

②「書き込み設定」画面が表示されたら、各種設定を行ないます。

A 書き込み速度

書き込み速度を設定します。ただし、メディアの状態をチェックし、書き込み速度を自動設定する機能を搭載したドライブでは、ここで設定した書き込み速度で必ず書き込まれるというわけではありません。

B オンザフライ方式

このチェックボックスを「オン」に設定すると、作業領域にイメージを作成することなく、ダイレクトに書き込みます。

C ベリファイ

このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後にエラーなくメディアが読み込めるかどうかチェックを行ないます。

D コンペア

このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後に、書き込み済みデータと実データとの比較テストを行ないます。

E 書き込む枚数

作成するメディアの枚数を設定できます。

F 書き込み後、パソコンの電源を切る

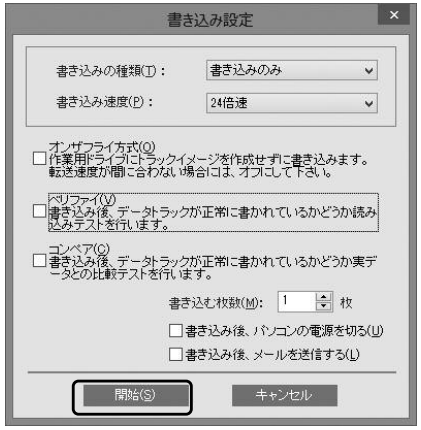
このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後にパソコンの電源を切ります。

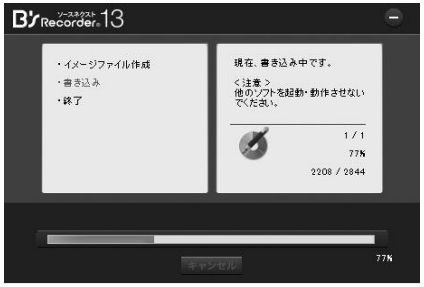
G 書き込み後、メールを送信する

このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後にメールを送信します。

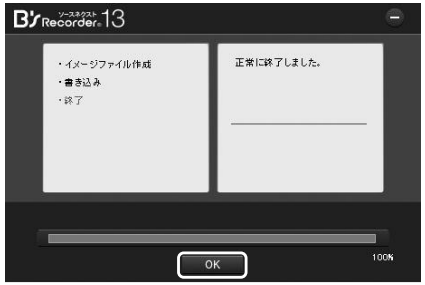
5 書き込みを行なう

①すべての設定が終了したら、書き込みを開始します。[開始]ボタンをクリックしてください。





②書き込みが終了したら、[OK]ボタンをクリックします。



MEMO

Point

2枚以上の作成を選択した場合は、メディアの書き込みが終了すると次のメディアを挿入を促す画面が表示されます。メッセージに従ってメディアを交換してください。

Point

「環境設定のプロパティ」の「書き込み履歴」タブで、「作成したメディアの内容を履歴に残す」の設定を「オン」に設定し、かつ「書き込み終了時に履歴登録を確認するダイアログを表示する」の設定を「オン」にしている時は、手順5終了後に「登録情報」ダイアログが表示されます。書き込み履歴を登録する時は、ラベル名やコメントなどを入力し、[登録]ボタンをクリックします。登録しない時は、[キャンセル]ボタンをクリックします。

Column

書き込んだデータメディアの参照方法について

書き込んだデータメディアは、パソコン上では市販のCD-ROMやDVD-ROMと同じように扱われます。書き込んだ内容を参照するには、あらかじめ「B's Recorder」を終了したうえで、Windowsのマイコンピュータやエクスプローラなどから開いてください。

2-4 データの追記を行なうには

CD-R/RWなどの記録型メディアには、空き領域がなくなるまで何度でもデータの書き込みが行なえる「追記」という便利な書き込み方法が準備されています。

CD-R/RWやDVD±R/±R DL、BD-R、HD DVD-Rでは、追記を使用することで、メディアの空き領域を有効に活用することができます。また、DVD±RWやDVD-RAM、BD-RE、HD DVD-RWでは、書き換え可能メディアであるという特長を活かし、マルチセッションとよく似た方法でデータの追記を行なうことができます。

記録型DVDメディアに追記を行なう場合の注意点

記録型DVDおよびBD、HD DVD共通の注意点	書き込みできる1ファイルあたりの最大サイズは、DVD-Videoの場合で規格上「2GB」が最大です。また、初期値のファイルシステム「UDF Bridge」を使用する場合は、1ファイルあたりの最大サイズが「4GB」に制限されます。4GB以上のファイルは、ファイルシステムに「UDFのみ」を使用した時のみ書き込めます。詳細は、24ページをご参照ください。
	B's Recorderにて記録したメディアに対して、B's CLiPなどのパケットライティングソフトを用いての追記はできません。同様に、パケットライティングソフトで記録されたメディアに対しても、B's Recorderを使用して追記を行なうことはできません。
DVD±　R/+R DLの注意点	追記した状態のDVD±R/+R DLメディアの読み出しに対応したドライブが必要です。
	追記の最大回数は「99」回です。1枚のメディアに対して、最大99回の書き込みが行なえます。
DVD± RWおよびDVD-RAM、BD-RE/RE DL、HD DVD-RWの注意点	DVD-RWメディアに追記可能な状態で書き込みを行なうと、メディアを「閉じる(追記不可に設定する)」ことができません。また、DVD-RAMディスクおよびDVD+RW、BD-RE/RE DL、HD DVD-RWメディアは、常にメディアを「閉じる(追記不可に設定する)」ことができません。
DVD-RAMの注意点	ベリファイレスモードは、対応したドライブでのみ使用できます。また、ベリファイレスモードで書き込みを行なうとディスクチェックが行なわれ、このチェックでベリファイレス書き込みが不適切と判断された時は、強制的に「ベリファイ有り」で書き込みが行なわれます。
	ベリファイ有りの書き込みでは、書き込み後ベリファイ処理が入るためベリファイレス書き込みと比較して約2倍の時間がかかります。
DVD-R DLの注意点	DVD-R DLに追記する場合、UDF Bridgeではメディアを効率よく使用できない場合があります。メディアの容量を効率よく使用するにはUDFで記録を行なってください。UDFで記録を行なうには「環境設定」の「UDF設定」タブで設定を変更する必要があります。「UDF設定」タブについては24ページをご参照ください。
BD-R/R DLの注意点	ベリファイレスモードは、対応したドライブでのみ使用できます。ベリファイありの書き込みでは、書き込み後ベリファイ処理が入るため、ベリファイレス書き込みと比較して約2倍の時間がかかります。

■ データメディアの作成手順

追記する時は、「すでに書き込まれている情報（セッション/ボーダー情報）と新しく追記する情報の両方を読み出すことができる方法」と、「新規に追記した情報のみを読み出すことができる方法」の2種類があります。すでに書き込まれているセッション/ボーダーの情報を書き込み前に読み込むかどうかが異なるのみで、いずれも通常のデータメディア作成とほとんど同じ手順で作業できます。データを追記するには、次の手順で行ないます。

■すでに書き込まれている情報と新規の情報の両方を読み出せるように追記するには

「常に直前に書き込まれているセッション/ボーダーを読み出す方法」と「読み出すセッション/ボーダーを選択する方法」の2つの方法があります。それぞれ次の手順で情報を読み出します。

追記方法その①　直前に書き込まれている情報（セッション/ボーダー）を自動で読み出す方法

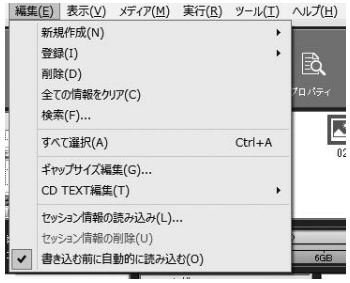
[編集]→[書き込む前に自動的に読み込む]と選択し、チェックを「オン」の状態にしておきます（初期値は「オン」です）。
[書込み]ボタンをクリックすると自動的にすでに書き込まれている最終セッション/ボーダーと新規に追記するセッション/ボーダーの両方が読み出せるデータメディアを作成します。通常は、この方法で使用することをおすすめします。
また、書き込み手順は、通常のデータメディアを作成する時と全く同じです。特別な手順は、全く必要ありません。35ページからのデータメディア作成手順を参考に作成してください。

追記方法その②　任意の情報（セッション/ボーダー）を読み出す方法

追記するメディアをドライブに挿入後、[編集]→[セッション情報の読み込み]を選択します。「読み込みセッションの選択」ダイアログが表示されますので、読み込みたい情報を選択し、［読み込み］ボタンをクリックします。データウェルに選択した情報が読み出され青色で登録されます。後は通常のデータメディアを作成する場合と同じ手順で作成してください。

Point

読み出した情報を削除したい場合は、[編集]→[セッション情報の削除]を選択してください。



■今回書き込みを行なうセッションのみを読み出すことができるように追記するには

チェックを「オフ」にします。チェックが「オン」の状態では、この部分にチェックマークが表示されます。

[編集]→[書き込む前に自動的に読み込む]と選択し、チェックを「オフ」の状態にします。後は、通常のデータメディアを作成する場合と同じ手順で作成してください。

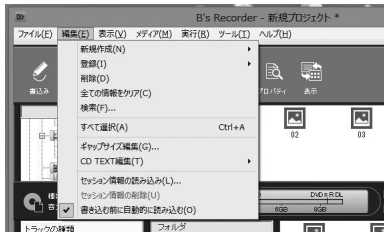
2-5 オートランメディアを作るには

B's Recorderは、アプリケーションを自動実行するオートランメディアを作成できます。ここでは、その作成手順を説明しています。

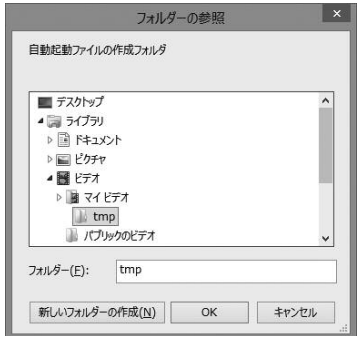
オートランメディアは、メディアをドライブに挿入するとあらかじめ設定しておいたアプリケーションソフトなどが自動的に実行されるデータメディアです。B's Recorderでは、指定したアプリケーションが自動で実行されるだけでなく、ドライブを右クリックして表示されるメニューに項目を追加するオートランメディアを作成できます。(注意)

注意　**オートランメディアはWindowsのみで動作します。**

オートランメディアの作成



1　［編集］→［新規作成］→［自動起動ファイル］を選択します。



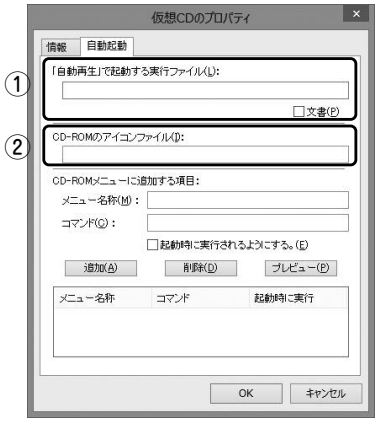
2　「フォルダの参照」ダイアログが開きます。作業用の自動起動ファイルを作成するフォルダの選択を行ない、［OK］ボタンをクリックします。また、新しいフォルダを作成し、そこを自動起動ファイル作成の作業用フォルダに使用する時は、［新しいフォルダの作成］ボタンをクリックし、フォルダ名を入力して、［OK］ボタンをクリックしてください。

Point

ここで選択するフォルダは、あくまで自動起動ファイルの作成の作業に使用する一時的なものです。メディアへの書き込みが終わったら、ここで作成したフォルダは削除してください。

3　「仮想CDのプロパティ」ダイアログが表示されたら、各項目について設定します。B's Recorderでは、自動で実行するオートランメディアと、自動実行するだけでなくドライブメニュー（CD-ROMメニュー）に項目を追加するオートランメディアの2種類が作成できます。

■指定したアプリケーションのみを実行



注意2　**ファイルからアプリケーションを自動起動するには、対応するアプリケーションがインストールされ、なおかつ、それらの拡張子が関連付けされている必要があります。**

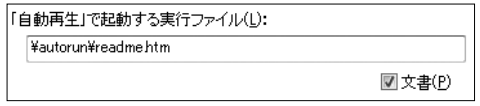
①「自動再生」で起動する実行ファイル

ここでは、自動で起動されるファイルを入力します。htmlファイル、テキストファイル、音楽ファイルなどさまざまなものを指定できます。

また、htmlファイルや、その他アプリケーションで作成したファイルを登録する場合は、「文書」のチェックボックスを必ず「オン」に設定してください。

注意1　**フォルダ（サブディレクトリ）内に保存されているファイルを指定する場合は、そのパスも入力してください。例えば、メディアに書き込んだ時に「autorun」フォルダに保存された「readme.htm」を起動する場合は、「¥autorun¥readme.htm」と入力します。**

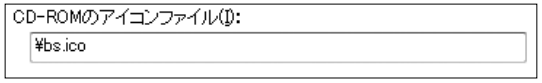
【入力例】



② CD-ROMのアイコンファイル

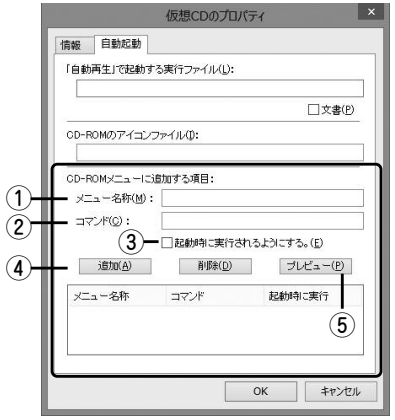
作成したメディアをドライブに挿入した時に表示されるドライブのアイコンファイルを入力します。フォルダ（サブディレクトリ）内に保存されているファイルを指定する場合は、メディアに書き込んだ時のパスも入力してください。入力しなかった場合は、初期値のアイコンが使用されます。

【入力例】



注意　**ここで指定したアイコンファイルは、メディアに自動的に書き込まれません。アイコンファイルまたはアイコンファイルを保存しているフォルダを、手動でデータウェルに登録してください。**

■アプリケーションの実行＋右クリックメニュー追加



①メニューに表示される「メニュー名称」を入力します。

②メニューに表示された名称を選択した場合に実行される「コマンド」を入力します。例えば、メモ帳を使用してルートディレクトリに保存されたreadme.txtというファイルを開く場合は、次のように入力します。

【入力例】

notepad.exe readme.txt

③起動時に最初に実行するかどうかの設定を行ないます。設定は、「起動時に実行されるようにする」のチェックボックスを「オン」にすることで行ないます。

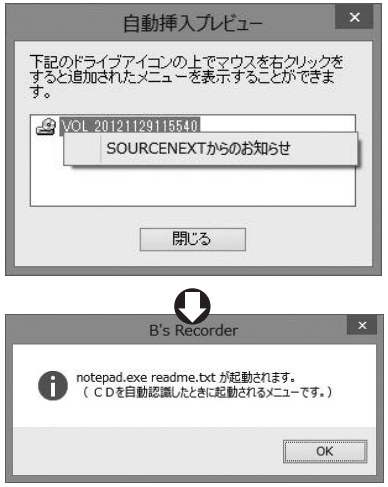
Point

この設定は、51ページの『「自動再生」で起動する実行ファイル』の設定よりも優先順位が高く、両方設定を行なった時は、こちらの設定が優先されます。

Point

複数のCD-ROMメニューを追加する場合は、①～④までの手順を繰り返します。ただし、「起動時に実行されるようにする」は1度オンにすると以降のメニューでは選択できません。

④[追加]ボタンをクリックします。



⑤[プレビュー]ボタンをクリックして、登録内容が正しく動作するか確認を行ないます。ドライブアイコンを右クリックすると登録したメニューが表示されます。メニューがどのように実行されるかを確認したい場合は、メニュー内の項目を選択します。確認画面が表示されたら[OK]ボタンをクリックし、「自動挿入プレビュー」画面の[閉じる]ボタンをクリックしてください。

4 すべての設定が終了したら、[OK]ボタンをクリックします。データウェルに「AUTORUN.INF」が自動的に登録されます（51ページの「文書」のチェックボックスを「オン」にした場合は、書類の実行に必要な「BSEXEC.EXE」ファイルも自動的に登録されます）。

5 自動起動に設定したファイルとアイコンファイルをデータウェルに登録します。後は、通常のデータメディアの作成手順に従って書き込みたいファイルを登録し、作成を行なってください。

2-6 シンプルセキュリティプラスについて

シンプルセキュリティプラスは、高度なセキュリティ機能付きデータメディアを作成する機能です。ここでは、その使い方について説明します。

B's Recorderには、「シンプルセキュリティプラス」と呼ばれるセキュリティ機能付きデータメディア作成機能が搭載されています。この機能を使って作成したデータメディアは、パスワードを入力しない限り、書き込んだデータを読み出せません。また、書き込むデータは、ファイル/フォルダ単位またはデータ領域全体に暗号化を施しデータの秘匿性を向上させることや、データ書き込み後にハードディスクなどにあるオリジナルのファイル（書き込み元ファイル）を完全消去する機能なども搭載しています。シンプルセキュリティプラスは、機密文書や資料などの重要なデータをメディアに保存したい時に便利な機能です。

■シンプルセキュリティプラスで使用できる機能

シンプルセキュリティプラスでは、次のセキュリティ機能を搭載します。

書き込みデータの暗号化	メディアに書き込むデータを暗号化することで、セクタダンプなどの解析からデータを保護し、書き込まれたデータの秘匿性を向上させます。 データの暗号化は、データ領域全体またはファイル/フォルダ単位で設定でき、ファイル/フォルダ単位で暗号化を行なう時は、指定したファイル/フォルダのみが暗号化され、それ以外のファイルは暗号化されません。 また、ファイル/フォルダ単位で暗号化を行なったデータメディアは、パスワード入力を行ない、暗号化の解除作業を実行しない限り読み出すことができません。
コピー禁止（複製不可機能）	CPRM対応のDVD-R/RWメディアを使用して、複製が不可能なデータDVDを作成できます。コピーを作成しても、パスワード入力による解除作業ができないため、読み出せません。
書き込み元データの完全消去	機密を保持するため、メディアへの書き込み終了後に、元ファイルや作業ファイルを消去します。この機能を使用すると、市販のファイル復活ソフトなどを使用した削除ファイルの復活をしにくくすることができます。

■シンプルセキュリティプラス使用時の注意点

シンプルセキュリティプラスを使用し、セキュリティ機能付きデータメディアを作成する時は、次の点にご注意ください。

使用可能メディアについて	シンプルセキュリティプラスでは、CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R、DVD-R DL、DVD+R DL、BD-R、HD DVD-R/HD DVD-R DLの10種類のメディアに対応しています。DVD-RAM、DVD+RW、BD-RE、HD DVD RWのメディアは、使用できません。また、コピー禁止機能を使用する時は、CPRMメディアに対応したB's Recorderの動作確認済みドライブとCPRM対応のDVD-RまたはDVD-RWメディアが必要です。CPRM対応メディアを購入する時は、メディアの裏面などの注意書きをよくご確認ください。
データの追記について	シンプルセキュリティプラスは、ブランクメディアを使用し、かつ書き込み方式に「ディスクアットワンス」を選択した時のみ使用できます。シンプルセキュリティプラス機能を使用して作成したメディアに対して、データの追記はできません。また、書き込み済みメディアに対して、シンプルセキュリティプラス機能を使用した、データの追記もできません。
再生互換性について	シンプルセキュリティプラス機能を使用して作成したDVDメディアは、市販のDVDプレーヤーでは再生できません。また、シンプルセキュリティプラスを有効にすると、ファイルシステムには、使用するメディアの種類に関係なく「ISO9660」が使用されます。
メディアの読み出しについて	シンプルセキュリティプラス機能を使用して作成したデータメディアを読み出すには、B's Recorderがインストールされたパソコンが必要です。それ以外のパソコンで読み出すには、Security Driverをのインストールが必要です。Security Driverは、シンプルセキュリティプラス機能を使用して作成されたデータメディアに保存されており、読み出しできないパソコンで使用すると、自動的にインストールプログラムが起動します。 Security Driverのインストールについては67ページをご参照ください。
パスワードについて	シンプルセキュリティプラスで作成したデータメディアを読み出すには、パスワードの入力が必要です。パスワードの取り扱いには十分ご注意ください。
免責	シンプルセキュリティプラスは、利用者の自己の責任でご使用ください。弊社では、この機能を使用したことによって発生した損失や損害に対して、一切責任を負いません。また、シンプルセキュリティプラスによって提供されるセキュリティ機能は、完全なセキュリティおよびプロテクトを提供するものではありません。

2-7 セキュリティ機能付きデータメディアを作成するには

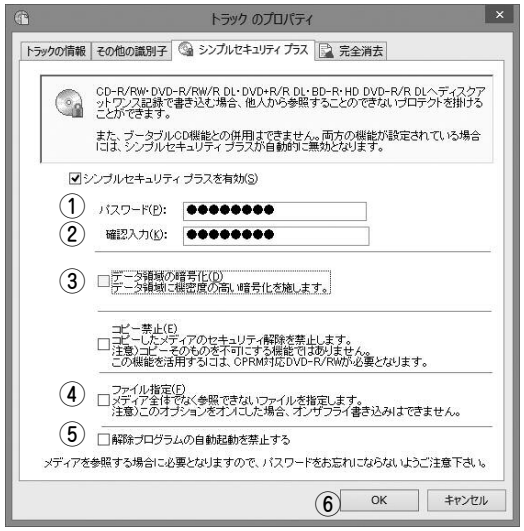
セキュリティ機能付きデータメディアの作成は、通常のデータメディアとほぼ同じ手順で作成でき、シンプルセキュリティプラスの設定によって、セキュリティ機能あり/なしのデータメディアを作り分けることができます。また、書き込むデータは、データ領域全体またはファイル/フォルダ単位で暗号化することができます。ここでは、セキュリティ機能付きデータメディアの作成手順を紹介します。

■ メディア全体に暗号化を施したデータメディアの作成手順

1 B's Recorderを起動します。補助メニューが起動した場合は[閉じる］ボタンをクリックし、補助メニューを終了します。

2 書き込みたいファイルやフォルダをファイルブラウザまたはエクスプローラを使用してデータウェルに登録します。

3 セキュリティバーのシンプルセキュリティプラスのリストボタンをクリックし、リストから「メディア全体」を選択します。

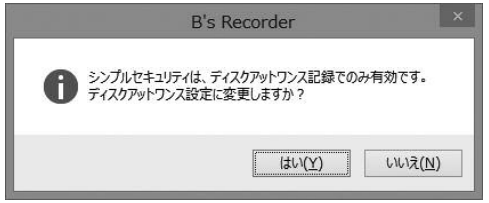


4 「シンプルセキュリティプラス」の設定画面が開きます。次の項目について設定を行ないます。

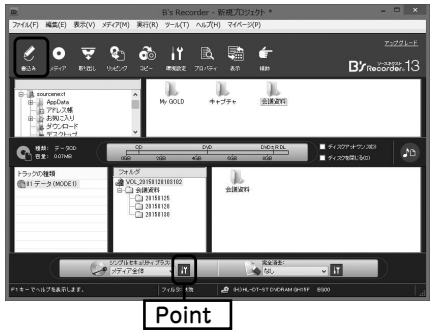
①	読み出しに使用する[パスワード]を半角8文字（全角4文字）以内で入力します。
②	パスワードの[確認入力]を行ないます。
③	[データ領域の暗号化]のチェックボックスを「オン」に設定します。
④	「ファイル指定」のチェックボックスを「オフ」に設定します。
⑤	解除プログラムの自動起動を禁止したい時は「オン」に設定します。
⑥	設定が終わったら、[OK]ボタンをクリックします。

Point

シンプルセキュリティプラスの設定は、「トラックのプロパティ」からも行なえます。トラックのプロパティは、トラックウェルに登録されたトラックをダブルクリックするか、右クリックしてメニューから[プロパティ]を選択することで表示されます。「トラックのプロパティ」ダイアログから、[シンプルセキュリティプラス]タブをクリックしてください。設定項目の詳細については、68ページをご参照ください。



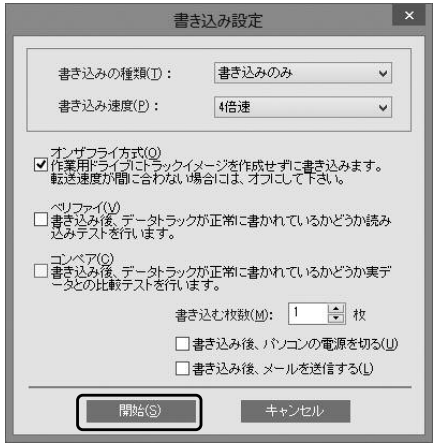
5 書き込み方式に「ディスクアットワンス」を設定するかどうかを確認するダイアログが表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。B's Recorderのメイン画面ですでに「ディスクアットワンス」のチェックボックスを「オン」に設定している場合は表示されません。



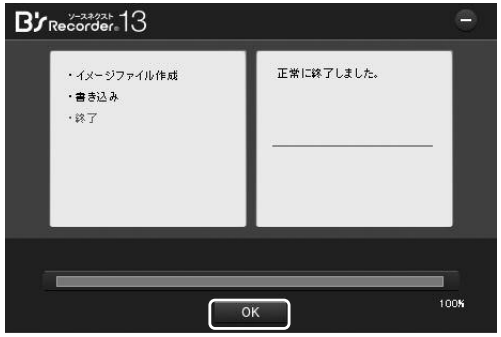
6 メディアをドライブに挿入し、[書込み] ボタンをクリックします。

Point

シンプルセキュリティプラスの設定をやり直したい時は、[設定]ボタンをクリックします。また、書き込み終了後に元ファイルを削除したい時は、65ページの「完全消去のオプション設定について」を参考に「完全消去」の設定を行なってから、書き込みを行ないます。



7 「書き込み設定」ダイアログが表示されたら、書き込みの種類、書き込み速度、ベリファイ/コンペアを行なうかなどの設定を行ない、[開始]ボタンをクリックします。



8 書き込みが終了したら、[OK]ボタンをクリックします。

Point

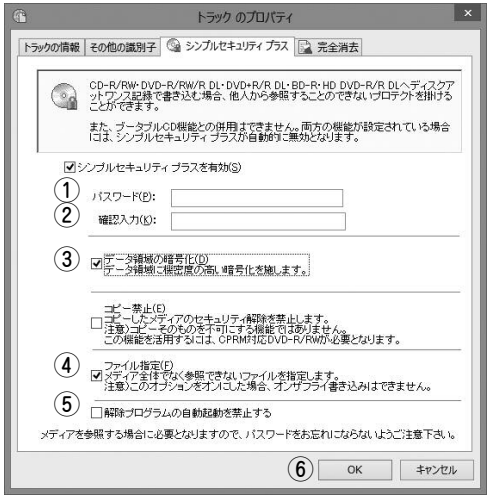
作成したセキュリティ付きデータメディアを読み出し方法については、66ページをご参照ください。

ファイル/フォルダに暗号化を施したデータメディアの作成手順

1 B's Recorderを起動します。補助メニューが起動した場合は[閉じる] ボタンをクリックし、補助メニューを終了します。

2 書き込みたいファイルやフォルダをファイルブラウザまたはエクスプローラを使用してデータウェルに登録します。

3 セキュリティバーのシンプルセキュリティプラスのリストボタンをクリックし、リストから「ファイル指定」を選択します。

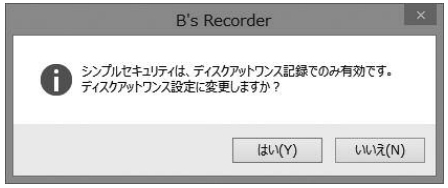


4 「シンプルセキュリティプラス」の設定画面が開きます。次の項目について設定を行ないます。

①	読み出しに使用する[パスワード]を半角8文字以内で入力します。
②	パスワードの[確認入力]を行ないます。
③	[データ領域の暗号化]のチェックボックスを「オン」に設定します。
④	「ファイル指定」のチェックボックスを「オン」に設定します。
⑤	解除プログラムの自動起動を禁止したい時は「オン」に設定します。
⑥	設定が終わったら、[OK]ボタンをクリックします。

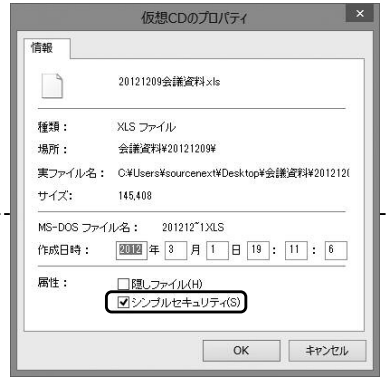
Point

シンプルセキュリティプラスの設定は、「トラックのプロパティ」からも行なえます。トラックのプロパティは、トラックウェルに登録されたトラックをダブルクリックするか、右クリックしてメニューから[プロパティ]を選択することで表示されます。「トラックのプロパティ」ダイアログから、[シンプルセキュリティプラス]タブをクリックしてください。設定項目の詳細については、68ページをご参照ください。



5 書き込み方式に「ディスクアットワンス」を設定するかどうかを確認するダイアログが表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。B's Recorderのメイン画面ですでに「ディスクアットワンス」のチェックボックスを「オン」に設定している場合は表示されません。

6 暗号化を施すファイル/フォルダの設定を行ないます。暗号化したいファイル/フォルダを右クリックし、[シンプルセキュリティーオン]を選択します。



Point

暗号化を施すファイル/フォルダの設定は、「仮想CDのプロパティ」ダイアログからも行なえます。暗号化したいファイル/フォルダを右クリックし、[プロパティ]を選択すると「仮想CDのプロパティ」ダイアログが開きます。[シンプルセキュリティ]のチェックボックスを「オン」に設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

7 暗号化を設定したファイル/フォルダのアイコンが「鍵」付きのアイコンに変更されます。手順**6**の作業を繰り返し行ない、暗号化したいファイル/フォルダの選択を行ないます。

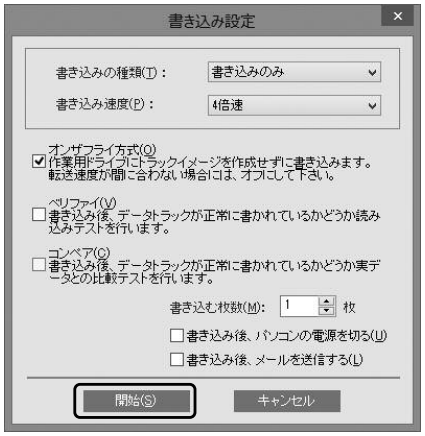
Point

複数のファイル/フォルダをまとめて選択したい時は、暗号化したいファイルやフォルダをCtrlキーを押しながらマウスを使ってすべて選択した後、右クリックし、[シンプルセキュリティ-オン] を選択してください。

8 すべての設定が終わったら、メディアをドライブに挿入し、[書込み] ボタンをクリックします。

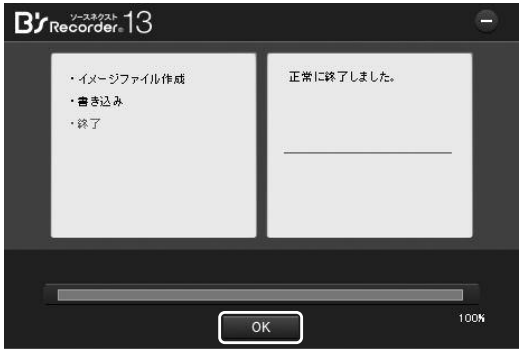
Point

シンプルセキュリティプラスの設定をやり直したい時は、[設定]ボタンをクリックします。また、書き込み終了後に元ファイルを削除したい時は、65ページの「完全消去のオプション設定について」を参考に「完全消去」の設定を行なってから、書き込みを行なってください。



9 「書き込み設定」ダイアログが表示されます。書き込みの種類、書き込み速度、ベリファイ/コンペアを行なうかなどの設定を行ない、[開始]ボタンをクリックします。

注意　**暗号化のファイル指定を設定した場合はオンザフライ方式での書き込みはできません。**



10 書き込みが終了したら、[OK] ボタンをクリックします。

Point

作成したセキュリティ付きデータメディアの読み出し方法については、66ページをご参照ください。

2-8 コピー禁止機能付きデータDVDを作成するには

B's Recorderは、CPRM対応のDVD-R/RWメディアを使用することで、コピーしたメディアにパスワードを入力しても、書き込まれたデータを読み出すことができないコピー禁止機能付きデータDVDを作成できます。コピー禁止機能付きデータDVDは、以下の手順で作成できます。

注意　**コピー禁止機能は、CPRMメディアに対応したB's Recorderの動作確認済みドライブとCPRM対応のDVD-R/RWメディアでのみ機能します。ご使用のB's Recorderの動作確認済みドライブがCPRMに対応しているかどうかはドライブメーカーにお問い合わせください。**

1 B's Recorderを起動します。補助メニューが起動した場合は[閉じる] ボタンをクリックし、補助メニューを終了します。

2 データウェルに書き込みたいデータを登録します。

3 シンプルセキュリティプラスのリストボタンをクリックし、[メディア全体]/[ファイル指定]のいずれかを選択します。

Point

Point

シンプルセキュリティプラスの設定が「なし」であっても、セキュリティバー内にあるシンプルセキュリティプラスの[設定]ボタンをクリックすることで、シンプルセキュリティプラスの設定画面を開くことができます。

4 シンプルセキュリティプラスの設定ダイアログが開きます。次の設定を行ないます。

①	読み出しに使用する[パスワード]を半角8文字以内で入力し、パスワードの[確認入力]も行ないます。また、すでに設定してある時は、これらが設定されていることを確認します。
②	暗号化を行なう時は、[データ領域の暗号化]または[ファイル指定]のチェックボックスが「オン」に設定されているかどうかを確認します。
③	[コピー禁止]のチェックボックスを「オン」に設定します。ただし、ご使用のドライブがDVD-R/RWメディアへの記録に未対応の場合、この項目は表示されません。
④	解除プログラムの自動起動を禁止したい時は、このチェックボックスを「オン」に設定します。

5 書き込み方式に「ディスクアットワンス」を設定するかどうかを確認するダイアログが表示されます。[はい]ボタンをクリックします。

6 メディアをドライブに挿入し、[書込み] ボタンをクリックします。暗号化の方法に[ファイル指定]を設定している場合は、59ページを参考に暗号化を施すファイル/フォルダの設定を行ない、その後、[書込み]ボタンをクリックします。

Point

CPRMに対応していないメディアを使用すると、CPRM対応メディアの挿入を促すダイアログが表示されます。また、使用するメディアがCPRM対応しているかどうかは、「メディアの情報」ダイアログで確認できます。158ページをご参照ください。

7 「書き込み設定」ダイアログが表示されたら、書き込みの種類、書き込み速度、ベリファイ/コンペアを行なうかなどの設定を行ない、[開始]ボタンをクリックします。また、書き込みが終了したら、[OK]ボタンをクリックしてください。

2-9 データメディア作成後に元データを消去するには

B's Recorderには、登録したファイル/フォルダを書き込み終了後に復活困難な状態に消去するデータの「完全消去」機能を搭載しています。完全消去では、レベル1～レベル5までの5段階で消去方法を設定でき、レベルが高くなるほど削除ファイルの復活が困難になります。完全消去は、シンプルセキュリティプラス機能の使用に関係なく、独立した機能として使用できます。ここでは、完全消去の使い方について説明します。

■ 完全消去の使用手順

完全消去は、書き込みたいデータをデータウェルに登録し、メディアへの書き込み開始前に、完全消去の設定を行なうことで使用できます。完全消去の設定は、セキュリティバーの「完全消去」のリストボタンをクリックし、リストから消去方法を選択することで行ないます。消去方法には、レベル1～レベル5の段階があり、数字が大きくなるほどデータ消去時の信頼性が向上します。また初期設定では、書き込み開始前に完全消去が「オン」に設定されていることを確認する画面が表示されます。

注意　**完全消去機能が選択されている場合、メディアに書き込み後、登録したデータは削除されます。書き込み後に削除したくない重要なデータをメディアに書き込む場合は、必ず「なし」が選択されていることをご確認ください。**

Point

セキュリティバー内の完全消去の[設定]ボタンをクリックすると、詳細な設定を行なえます。詳細については、下記表をご参照ください。

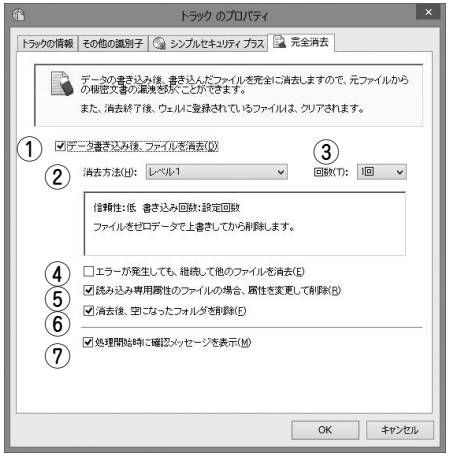
レベル1	ファイルをゼロデータで上書きしてから、元ファイルを削除します。詳細設定画面から、上書き回数を1～10回の範囲で設定できます。
レベル2	ファイルをランダムデータで上書きしてから、元ファイルを削除します。詳細設定画面から、上書き回数を1～10回の範囲で設定できます。
レベル3	ファイルを米国陸軍方式のパターンで3回上書きしてから、元ファイルを削除します。
レベル4	ファイルを米国海軍方式のパターンで3回上書きしてから、元ファイルを削除します。
レベル5	ファイルを米国国防総省（ペンタゴン）方式のパターンで3回上書きしてから、元ファイルを削除します。

■ 完全消去のオプション設定について

セキュリティバー内の完全消去の[設定]ボタンをクリックすると、詳細な設定ができます。

Point

完全消去のオプション設定は、「トラックのプロパティ」からも行なえます。トラックのプロパティは、トラックウェルに登録されたトラックをダブルクリックするか、右クリックしてメニューから[プロパティ]を選択することで表示されます。「トラックのプロパティ」ダイアログから、[完全消去]タブをクリックしてください。



① **データ書き込み後、ファイルを消去**
このチェックボックスを「オフ」に設定すると、完全消去を行ないません。セキュリティバーで完全消去の設定を使用する設定を行なった時は、必ずこの設定は「オン」になります。

② **消去方法**
リストボタンをクリックすると、消去方法を選択できます。

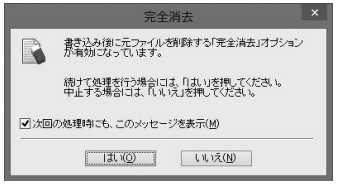
③ **回数**
この設定は、②の消去方法でレベル1かレベル2を選択した時に設定でき、データを上書きする回数を1～10回の中から選択できます。

④ **エラーが発生しても、継続して他のファイルを消去**
このチェックボックスを「オン」に設定すると、ファイルの消去実行時に、エラーが発生した場合、次のファイルを継続して消去します。「オフ」に設定すると、エラーが発生した時点で、消去作業を中止します。

⑤ **読み込み専用属性のファイルの場合、属性を変更して削除**
このチェックボックスを「オン」に設定すると、読み込み専用（リードオンリー）属性ファイルの消去実行時に、ファイルの属性を変更してから消去作業を行ないます。「オフ」に設定すると読み込み専用属性のファイルが存在した時点で、消去作業を中止します。

⑥ **消去後、空になったフォルダを削除**
このチェックボックスを「オン」に設定すると、ファイルの消去を行ない、空になったフォルダを削除します。「オフ」に設定すると、フォルダの削除を行ないません。

⑦ **処理開始時に確認メッセージを表示**
このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み開始前に「完全消去」が有効になっていることを確認する画面が表示されます。「オフ」に設定すると、確認画面は表示されません。



2-10 シンプルセキュリティプラスで作成したメディアを読み出すには

シンプルセキュリティプラスを使用して作成されたデータメディアは、パスワードを入力しない限り読み出せません。このデータメディアを読み出す時は、次の手順で作業します。

注意

シンプルセキュリティプラスを使用して作成されたデータメディアは、以下の環境で読み出すことができます。
※Security Driverのインストールについては、67ページをご参照ください。

・B's Recorderがインストールされているパソコン
・B's Recorder GOLD Security Driverがインストールされているパソコン

●Security Driverの動作環境について
Security DriverはB's Recorderの対応OS環境でしかご利用になれません。
その他のWindows OS、Mac/Linuxの各OSには対応していません。

1 シンプルセキュリティプラスで作成したメディアをドライブに挿入します。

2 シンプルセキュリティ解除プログラムが起動したら、パスワードを入力し、〔解除〕をクリックします。

Point

シンプルセキュリティ解除プログラムが起動しない時は、エクスプローラなどを使用し、「SIMPLE_SECURITY」と表示されたドライブを開き、「BSSEC」アイコンをダブルクリックしてください。

3 セキュリティの解除が行なわれ、シンプルセキュリティ解除プログラムが自動的に終了します。エクスプローラなどを使用して、書き込まれたファイルを読み出してください。

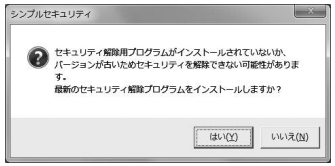
Security Driverのインストールについて

Security Driverは、シンプルセキュリティプラスのセキュリティ解除に必要なプログラムです。このプログラムは、シンプルセキュリティプラスを使用して作成されたデータメディアに保存されており、このプログラムをインストールすることで、シンプルセキュリティプラスで作成したデータメディアを読み出すことができます。Security Driverのインストールは次の手順で作業します。

注意

Security Driverのインストールは、B's Recorderがインストールされていないパソコンでのみ必要です。

1 シンプルセキュリティプラスを使用して作成されたデータメディアをドライブに挿入します。



2 セキュリティ解除プログラムのインストールを行なうかどうかを確認する画面が表示されます。〔はい〕をクリックしてください。

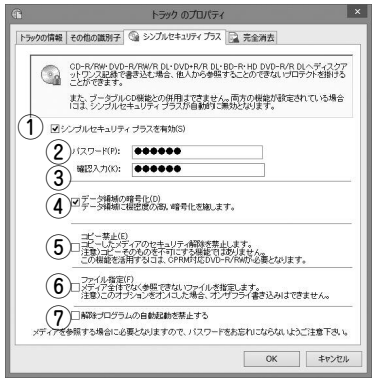
Point

セキュリティ解除プログラムインストールの確認画面が表示されない時は、エクスプローラなどを使用し、「SIMPLE_SECURITY」と表示されたドライブを開き、「SecurityDriver」アイコンをダブルクリックしてください。Security Driverのインストール画面が起動します。

3 画面の案内に従ってインストールします。最後の画面で「はい、今すぐコンピュータを再起動します」を選択し〔完了〕ボタンをクリックします。シンプルセキュリティプラスを使用して作成されたデータメディアを読み出す時は、66ページの「シンプルセキュリティプラスで作成したメディアを読み出すには」を参考に作業してください。

■ シンプルセキュリティプラスの設定について

シンプルセキュリティプラスは、データウェルに書き込みたいデータが登録されていればいつでも設定できます。設定は、「トラックのプロパティ」画面の「シンプルセキュリティプラス」タブで行なえます。この画面は、セキュリティバーから起動できるだけでなく、トラックウェルに登録されたトラックをダブルクリックするか、右クリックしてメニューから[プロパティ]を選択後、「シンプルセキュリティプラス」タブをクリックすることで行なえます。
設定は、次の項目について行なえます。



① **シンプルセキュリティプラスを有効**
このチェックボックスを「オン」に設定すると、シンプルセキュリティプラス機能を有効にできます。「オフ」に設定すると通常のデータメディアを作成します。また、セキュリティバーのリストボタンをクリックし、「メディア全体」または「ファイル指定」を選択すると、自動的にこの設定が「オン」になります。

② **パスワード**
ここでは、セキュリティ解除に使用する「パスワード」を半角8文字以内で設定できます。①のシンプルセキュリティプラスの設定を有効にした時のみ設定できます。

③ **確認入力**
ここでは、②で設定したパスワードの入力確認を行ないます。②で設定したパスワードと同じものを入力してください。

④ **データ領域の暗号化**
このチェックボックスを「オン」に設定すると、実体のパステーブル、ディレクトリテーブル、データ領域を暗号化します。「オフ」に設定すると、実体のパステーブル、ディレクトリテーブルのみを暗号化します。通常は、セキュリティが高い「オン」でご使用ください。

⑤ **コピー禁止**
このチェックボックスを「オン」に設定すると、CPRM対応のDVD-R/RWメディアを使用した時に限って、コピーしたメディアでは、セキュリティが解除できないデータDVDを作成します。ご使用のB's Recorderに対応したドライブがDVD-R/RWメディアへの記録に未対応の場合、この項目は表示されません。

⑥ **ファイル指定**
このチェックボックスを「オン」に設定すると、ファイルやフォルダを指定してセキュリティをかけることが可能になります。セキュリティをかけたファイルやフォルダは、パスワードを入力しない限り参照することができません。セキュリティをかけていないファイルやフォルダはパスワードを入力しなくても参照が可能です。「オフ」に設定すると、メディア全体がセキュリティ対象になります。

⑦ **解除プログラムの自動起動を禁止する**
このチェックボックスを「オン」に設定すると、作成したメディアをドライブに挿入した時にシンプルセキュリティプラス解除プログラムの自動起動を行ないません。これによって、メディアのセキュリティをより高めることができます。

2-11 ISO9660イメージファイルの使用について

B's Recorderは、ISO9660イメージファイルの作成やそれを使用してデータCD/DVDの作成ができます。ここでは、その使い方について説明します。

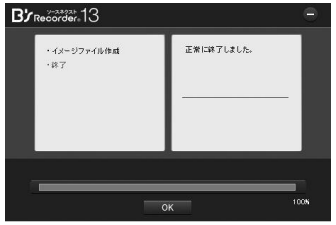
データメディア作成に使用できるイメージファイルの形式

B's Recorderは、一般的にISO9660イメージと呼ばれているイメージファイル形式に対応しています。B's Recorderで作成できるイメージファイルもこの形式に準拠し、拡張子には「.IMG」が使用されます。また、B's Recorderは、この形式に準拠したイメージファイルであれば、拡張子「.ISO」や「.BIN」などの形式もデータメディアの作成に使用できます。B's Recorderは、データウェルに登録したデータ情報をもとにイメージファイルを作成でき、トラックウェルを使用することで、イメージファイルを使用したデータメディアの作成が行なえます。

データウェルに登録したデータからイメージファイルを作成するには

1 データウェルに登録したデータからイメージファイルを作成するには、[実行]→[ISOファイル作成]を選択します。

2 「イメージファイル名称の選択」ダイアログが開いたら、ファイル名を入力し、[保存]ボタンをクリックしてください。



3 作成が完了したら、[OK] ボタンをクリックします。

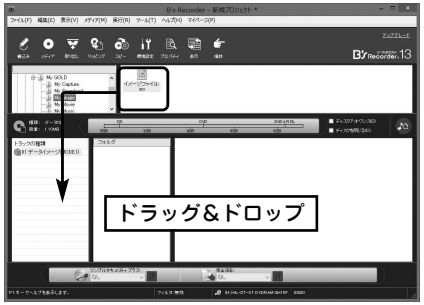
Point

ISOファイルの作成は、補助メニューの［ISO作成］を選択しても実行できます。

ISO9660イメージファイルからのデータメディアの作成手順

B's RecorderでISO9660イメージファイルを使用してデータメディアを作成する場合は、次の手順で行ないます。

1 B's Recorderを起動します。



2 ISO9660イメージファイルをトラックウェルにドラッグ＆ドロップで登録し、書き込みを行ないます。

Point

ISO9660イメージファイルの書き込みは補助メニューの［ISO書き込み］を選択することでも実行できます。

2-12 複数のディスクを1枚にまとめるには

B's Recorderでは複数のCD/DVDを1枚のDVD/BDディスクにまとめることができます。ここではその使い方について説明します。

複数のディスクを1枚のディスクにまとめるには

1 B's Recorderを起動します。補助メニューが起動されたら［まとめディスク］ボタンをクリックします。

2 まとめディスク作成用のダイアログが表示されます。1枚にまとめたい複数のディスクを挿入し、データを読み込みます。

3 書き込み方式の設定を行ない、ドライブにメディアを挿入し、書き込みを行ないます。

Column　データメディアのリッピング

B's Recorderは、データメディアからイメージファイルを作成する機能を搭載しています。ここでは、その手順について説明しています。

注意　データメディアからのイメージファイル作成は、すべてにおいて必ず行なえるというわけではありません。

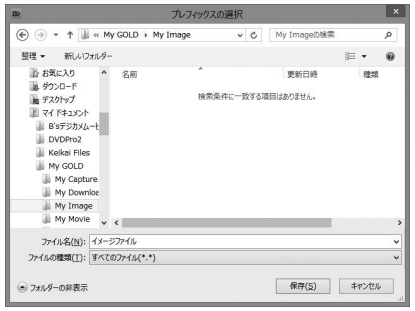
1 B's Recorderを起動し、[リッピング]ボタンをクリックします。

2 「CD/DVDの使用許諾条件について」ダイアログが表示されたら［はい］ボタンをクリックします。

3

メディアを挿入し、読み込み速度を設定して、［作成開始］ボタンをクリックします。また、ドライブが複数接続されている時は、読み出しに使用するドライブを選択できます。

4



イメージファイルの保存先とファイル名を入力し、［保存］ボタンをクリックします。

注意　FAT32でフォーマットされたパーティションは、ファイルシステムの制限により、1ファイルの最大サイズが4GBまでと決められています。DVDなど大容量メディアをリッピングする時は、NTFSパーティションをご使用ください。

5 イメージファイルの作成が開始されます。作成が終了したら、［OK］ボタンをクリックし、リッピングの画面に戻ったら、［閉じる］ボタンをクリックします。

Part

3

音楽CD作成・音楽関連機能編

B's Recorderの特長の1つとして、多様なフォーマットの音楽に関連したCDを作成するための機能を搭載している点が挙げられます。この章では、各種音楽関連CDを作成するための手順を紹介します。

3-1　B's Recorderの 音楽関連機能について ……76

3-2　リッピング機能について ……77

3-3　補助メニューを使用して音楽CDを作成する ……82

3-4　ウェルを使用して音楽CDを作成する ……86

3-5　CD TEXT付きの音楽CDを作るには ……88

3-6　無音部分のない音楽CDを作るには ～ギャップサイズの設定 ……92

3-7　ダイレクトカット機能を使うには ……94

3-8　データと音楽の混在したCDを作るには ……100

注意　mp3再生に対応したCDプレーヤーやカーステレオなどで再生するCDを作るには、データCDの作成を行ないます。詳しくは34～49ページをご参照ください。

3-1 B's Recorderの音楽関連機能について

B's Recorderは、オリジナルベスト音楽CDを作成できるだけでなく、各種音楽ファイルの作成など、多彩な音楽関連機能を搭載しています。

B's Recorderに搭載されている音楽関連機能一覧

リッピング機能	リッピングは、市販のCDや書き込み済みのメディアからデータを抜き出しHDDにファイルとして保存する機能です。詳細は、77ページをご参照ください。
CD TEXT付き音楽CD	CD TEXT付き音楽CDは、アルバム名や曲名、アーチスト名などの文字情報を書き込んだ音楽CDです。CD TEXT付きの音楽CDは、一般的な音楽CDとの互換性があるので、通常の音楽CDプレーヤーで再生できます。詳細は、88ページをご参照ください。
ダイレクトカット機能	ダイレクトカット機能は、パソコンに搭載されているサウンドカードのアナログ入力端子を使用して、ダイレクトに音楽CDを作成したり、HDDにファイルとして保存する機能です。例えば、ライブ録音を行なう時などに便利な機能です。詳細は、94ページをご参照ください。
CD-Extra/ミックスモード	CD-Extra/ミックスモードは、パソコンで使用されるファイルやフォルダなどのデータ部分と音楽CDプレーヤーで再生できる音楽部分を一緒に書き込んだ音楽CDの一種です。B's Recorderは、このタイプの音楽CDを簡単に作成できます。詳細は、100ページをご参照ください。
音楽フィルタ	B's Recorderは、「音楽フィルタ」と呼ばれるフェードイン/フェードアウトなどの各種エフェクト機能を搭載しています。これらの機能については、音楽フィルタのヘルプをご参照ください。

3-2 リッピング機能について

リッピング機能は、市販の音楽CDなどから、各種音楽ファイルを作成する機能です。ここでは、リッピング機能の使い方について説明します。

リッピング機能で作成できる音楽ファイルについて

B's Recorderに搭載されているリッピング機能は、音楽CDからさまざまな形式の音楽ファイルを作成できます。作成できる音楽ファイルの形式には次の形式があります。

Point

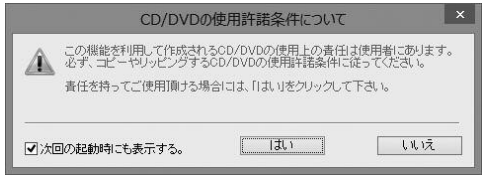
リッピング機能では、データメディアからイメージファイルを作成することもできます。詳細は、73ページをご参照ください。また、リッピングが可能なメディアは、著作権保護信号の記録されていないものに限られます。

WAV	WAVファイルは、Windowsで標準的に使用されている非圧縮の音楽ファイルの形式です。ファイルの拡張子は「.wav」で、理論上は、音楽CDの音質と全く同等のものが得られます。音楽CDを作成する場合は、通常この形式の音楽ファイルを作成します。
MP3/MP3 by ACM	MP3は、WAVファイルの約10分の1のファイルサイズで、音楽CD相当の音質が得られる非可逆圧縮の音楽ファイルで高音質を実現したものです。Windowsにも標準でMP3 by ACMと呼ばれるラジオ放送品質のMP3ファイル作成機能が搭載されています。ファイルの拡張子は、「.mp3」が使用されます。
Monkey's Audio	Monkey's Audioは、音楽CDと同等の音質が得られる可逆圧縮の音楽ファイルです。WAVファイルに比べ、平均50%～70%のサイズの音楽ファイルを作成できます。拡張子は「.ape」が使用されます。
Windows Media Audio（WMA）	Windows Media Audio（WMA）は、マイクロソフトが開発したWAVファイルの約10分の1のファイルサイズで、音楽CD相当の音質が得られる非可逆圧縮の音楽ファイルの形式です。拡張子は、「.wma」が使用されます。
Ogg Vorbis	Ogg Vorbisは、WAVファイルの10分の1のファイルサイズで、音楽CD相当の音質が得られる非可逆圧縮の音楽ファイルです。ファイルの拡張子は、「.ogg」が使用されます。

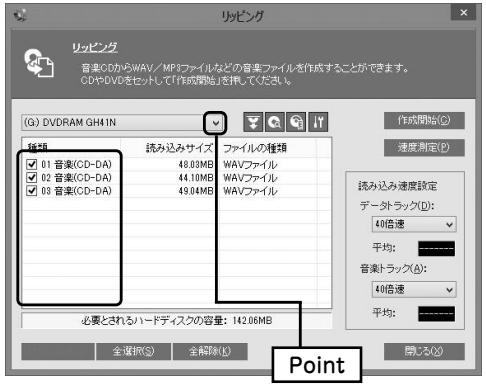
■ リッピングの手順

リッピング機能を使用して市販の音楽CDなどからWAVやMP3、WMAなどの音楽ファイルを作成する時は、次の手順で作業します。

1 B's Recorderを起動して、補助メニューの[リッピング]ボタンをクリックするか、メインウィンドウの[リッピング]ボタンをクリックします。



2 著作権についての警告ダイアログが表示されます。ダイアログの内容を確認し、[はい]ボタンをクリックします。



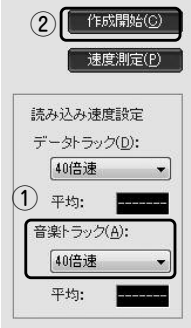
3 「リッピング」画面が表示されます。リッピングを行ないたい音楽CDをドライブに挿入し、音楽ファイルを作成したいトラックを選択します。標準ではすべてのトラックが選択されています。作成したくないトラックがあれば、そのチェックボックスを「オフ」にします。

Point

ドライブを複数接続している時は、ドライブのリストボタンをクリックし、リストから使用するドライブを選択できます。また、トラックを選択後、[サイズ変更]ボタンをクリックすると、選択したトラック（曲）の読み込みサイズを取得した情報よりも小さくすることができます。通常、この設定を行なう必要はありませんが、5分間の曲のうち1分だけ取り込みたい時などに設定してください。リッピングの画面構成については、P157をご参照ください。

4 [リッピングの設定]ボタンをクリックし、作成したい音楽ファイルの形式などの設定を行ないます。設定は、次の項目について行なえます。すべての設定を行なったら、[OK]ボタンをクリックしてください。

①音楽トラックのファイル名検出	このチェックボックスを「オン」にすると、曲名を検出します。CD TEXT情報が書き込まれている時はそれを参照し、そうでない時はCDデータベースサーバーへ接続し、曲名の検索を試みます。また、この設定を有効にした時には、次の2つの設定を行なえます。 ・「検出した場合には、アルバム名でフォルダを作成」：このチェックボックスを「オン」に設定すると、音楽ファイル保存時に検出したアルバム名でフォルダを作成し、そこにファイルを保存します。 ・「ファイル名の先頭にトラック番号を付加」：このチェックボックスを「オン」に設定するとファイル名の先頭にトラック番号を付加します。例えば、トラック番号3の曲は、「03_Title.wav」などのファイル名が作成されます。 **注意**　**CDデータベースサーバーを使用するには、環境設定のプロパティのインターネット設定タブ内にある「CDデータベースサーバー設定」でメールアドレス、接続先を設定しておく必要があります。設定していない場合は、初回使用時にメールアドレスの登録を促すダイアログが表示され、メールアドレスの登録が行なえます。詳細は、22ページをご参照ください。**
②音楽CDの場合、rimFOLiO用プレイリストを作成	このチェックボックスを「オン」にすると、音楽ファイル作成後に、rimFOLiOで使用できるプレイリストを作成します。rimFOLiOについては、rimFOLiOのヘルプをご参照ください。
③情報表示時、音楽トラックのみを選択	このチェックボックスを「オン」にすると、ドライブにメディアを挿入した時に、音楽トラックのみを選択し、データトラックの選択を行ないません。
④音楽トラック圧縮	このチェックボックスを「オン」にすると、圧縮音楽ファイルを作成でき、「オフ」に設定するとWAVファイルが作成されます。圧縮音楽ファイルを作成する時は、作成する形式を選択でき、[詳細設定]ボタンをクリックすると、音質などについて詳細な設定を行なえます。圧縮音楽ファイルの詳細な設定については、81ページをご参照ください。

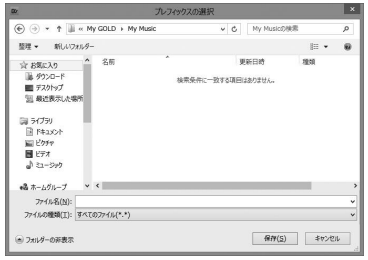


5 読み込み速度の設定を行ない、音楽ファイルの作成を行ないます。

① [音楽トラック]のリストボタンをクリックし、リストから読み込み速度を選択します。
② [作成開始]ボタンをクリックします。
③ 作成される音楽ファイルの保存先やファイル名の設定を行ないます。保存先やファイル名の設定画面は、選択したトラック数やトラックの名称の検出設定などにより異なります。

注意
トラックの名称が検出できなかった時は、「CDデータベースサーバー」で曲名が見つからなかった旨のダイアログが表示されますので[OK]ボタンをクリックしてください。その後、保存先やファイル名などの設定が行なえます。また、CDデータベースサーバーの設定を行なっていない場合、初回使用時にメールアドレスの登録を促すダイアログが表示されます。詳細は、22ページをご参照ください。

1トラックを選択し、トラックの名称が検出できなかった場合



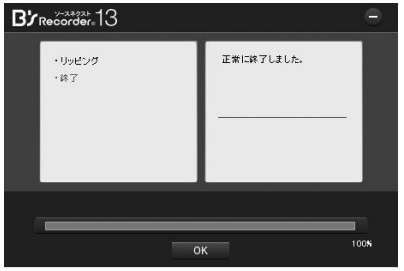
「トラックイメージの名称」ダイアログが表示されます。ファイルを保存するフォルダを指定し、ファイル名を入力後、[保存]ボタンをクリックします。

複数トラックを指定し、トラック名称が検出できなかった場合

「プレフィックスの選択」ダイアログが表示されます。ファイルを保存するフォルダを指定し、ファイル名の頭文字を入力後、[保存]ボタンをクリックします。ファイル名は頭文字+トラック番号.拡張子”が設定されます。

トラック名称が検出できた場合

「フォルダの参照」画面が表示されます。ファイルを保存するフォルダを指定し、[OK]ボタンをクリックします。ファイル名は検出された曲名が自動入力されます。



6 音楽ファイルの作成が始まります。処理が終了したら、[OK]ボタンをクリックします。リッピング画面に戻ります。別の音楽CDをリッピングする時は、音楽CDを入れ替え、手順**3**からの作業を繰り返します。終了する時は[閉じる]ボタンをクリックしてください。

Point

rimFOLiO用プレイリストを作成する設定を有効にしていた時は、プレイリストの名称を入力する画面が表示されます。名称を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。リッピング画面に戻ります。

Column

音楽トラック圧縮を選択した時の設定について

「リッピングの設定」で「音楽トラック圧縮」を選択すると、作成する音楽ファイルの音質などに関して詳細な設定を行なえます。

MP3	エンコード方式、品質、ジャンルに関する設定が行なえます。エンコード方式は、固定ビットレートと可変ビットレートの2種類から選択でき、固定ビットレートを選択した時は、ビットレートの大きさを設定できます。ビットレートは、数字が大きいほど音質が向上します。一般的には、128kbpsで音楽CD並の音質といわれています。また、可変ビットレートを選択した時は、品質が選択できます。品質の設定は、エンコード速度の設定で、品質優先を設定するとエンコード時間が長くなる代わりに音質が向上します。ジャンルは、曲のジャンルの設定です。
Windows MediaAudio	エンコード方式が選択できます。設定は、固定ビットレートと可変ビットレートの2種類から選択できます。固定ビットレートを選択した時は、ビットレートの大きさを設定でき、数字が大きいほど音質が向上します。一般的には、128kbpsで音楽CD並の音質といわれています。可変ビットレートを選択した時は、音質優先か速度優先の選択ができます。
Ogg Vorbis	ビットレートの選択が行なえます。数字が大きいほど音質が向上します。一般的には、128kbpsで音楽CD並の音質といわれています。
Monkey's Audio	品質の設定が行なえます。「圧縮率優先」、「標準」、「速度優先」の中から選択できます。圧縮率優先を選択すると、ファイルサイズが小さくなり、速度優先を選択するとファイルサイズが大きくなります。

3-3 補助メニューを使用して音楽CDを作成する

B's Recorderは、補助メニューを使用することで簡単に音楽CDを作成できます。ここでは、その手順を紹介します。

■音楽CDの作成手順

1 音楽CD作成に使用する音楽ファイルを準備します。補助メニューから音楽CDを作成する場合は、WAV、MP3、AIFF、WMA、Ogg Vorbis、Monkey's Audioなどの圧縮音楽ファイルから音楽CDを作成できます。市販の音楽CDなどからの音楽ファイルを作成したい時は、リッピング機能で行なえます。詳細は、77ページをご参照ください。

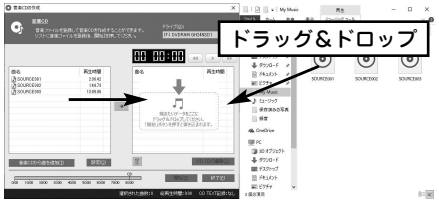
> **注意**
> **WAV/AIFFファイルおよびOgg Vorbis、WMA（Windows Media Audio）を使用する時は、サンプルレート44.1kHz/16bitステレオの形式の音楽ファイルのみ使用できます。MP3は特に制限はありません。また、DRM(Digital Rights Management)によって著作権が保護されたWMAファイルは使用できません。**

2 B's Recorderを起動します。補助メニューが表示されたら、[音楽CD]ボタンをクリックします。

Point

補助メニューが表示されない時は、ツールバーに配置されている[補助]ボタンをクリックするか、[ファイル]メニューから[補助メニュー]を選択してください。

3 音楽CD作成用の補助メニューが起動します。



4 画面左のリストから登録したい音楽ファイルを選択して「→」ボタンをクリックします。

※Ctrlキーを押しながらクリックすると、複数のファイルが選択できます。

※音楽ファイルは「設定」で指定されているフォルダ内のファイルを表示しています。「設定」から音楽ファイルを検索するフォルダを編集できます。

Point

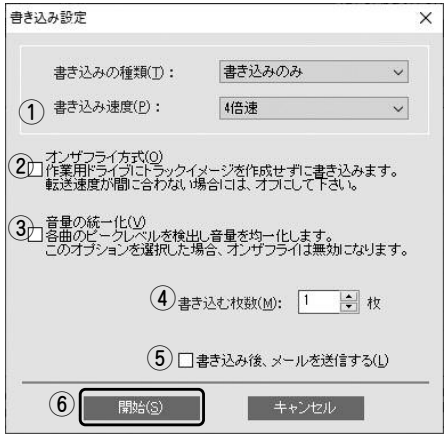
登録した音楽ファイルを削除したいときは、削除したい音楽ファイルを選択し、「削除」ボタンをクリックします。

5 曲順の変更を行ないます。曲順の変更を行ないたい音楽ファイルをドラッグし、目的の位置でドロップしてください。

Point

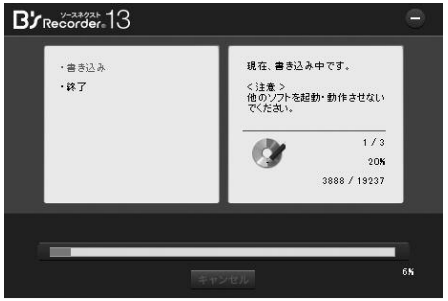
曲順の変更を行なう必要がない場合は、この手順はスキップしてください。

6 書き込みを行ないます。ドライブにメディアをセットして、[開始]ボタンをクリックしてください。

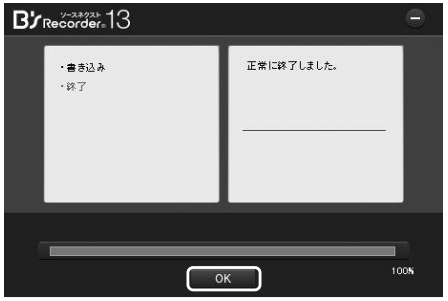


7 「書き込み設定」ダイアログが表示されるので、各種設定を行ない、書き込みを開始します。

①書き込み速度	書き込み速度を設定します。ただし、メディアの状態をチェックし、書き込み速度を自動設定する機能を搭載したドライブでは、ここで設定した書き込み速度で必ず書き込まれるというわけではありません。
②オンザフライ方式	このチェックボックスを「オン」に設定すると、作業領域にイメージを作成することなく、ダイレクトに書き込みます。
③音量の統一化	このチェックボックスを「オン」にすると、各曲のピークレベルを検出し、音量を均一化して、書き込みを行ないます。
④書き込み枚数	作成するメディアの枚数を設定できます。
⑤書き込み後、メール送信する	このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後にメールを送信します。
⑥開始	メディアへの書き込みを開始します。すべての設定が終わったら、このボタンをクリックしてください。



8 書き込みが始まります。書き込みが終了したら、[OK]ボタンをクリックします。



Point

2枚以上の作成を選択した場合は、メディアの書き込みが終了すると次のメディアを挿入を促す画面が表示されます。メッセージに従ってメディアを交換してください。

9 音楽CD作成用の補助メニューに戻ります。[終了]ボタンをクリックします。

Column　作成した音楽CDの確認方法について

作成した音楽CDは、市販の音楽CDと同じように使用できます。市販の音楽CDプレーヤーなどで使用できるか再生してみてください。また、パソコンで確認する時は、「B's Recorder」を終了した後に、ドライブに作成した音楽CDを挿入し、「rimFOLiO」などの再生ソフトで再生できるかどうかを確認してください。

3-4 ウェルを使用して音楽CDを作成する

B's Recorderでは、リッピング機能で作成した音楽ファイルなどからオリジナル音楽CDを作成できます。ここでは、メインウインドウを使用した音楽CDの作成手順について説明します。

■ 音楽CD作成手順

1 音楽CD作成に使用する音楽ファイルを準備します。B's Recorderでは、CDオーディオイメージやWAV、MP3、AIFF、WMA、Ogg Vorbis、Monkey's Audioなどの圧縮音楽ファイルから音楽CDを作成できます。市販の音楽CDなどからの音楽ファイルを作成したい時は、リッピング機能をご使用ください。詳細は、77ページをご参照ください。

注意

CDオーディオイメージ（拡張子「CDA」）は、音楽CDのトラックをファイルとしてみた場合の形式であるため、この形式を使用する時は、書き込みに使用するドライブに加え、読みとりに使用するドライブが別途必要になります。また、WAV/AIFFファイルおよびOgg Vorbis、WMA（Windows Media Audio）を使用する時は、サンプルレート44.1kHz/16bitステレオの形式の音楽ファイルのみ使用できます。MP3は特に制限はありません。また、DRMなどの著作権が保護されたWMAファイルは使用できません。

注意

作成済みの音楽CDにさらに音楽トラックを追記することはできません。1枚のメディアに書き込みたい音楽トラック（WAV、CD-DA、MP3ファイルなど）をすべて用意し、1度に書き込んでください。

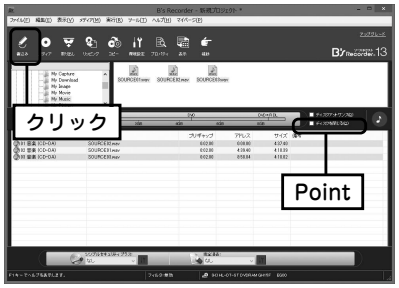
2 B's Recorderを起動します。補助メニューが表示された場合は、[閉じる]ボタンをクリックしてください。

3 登録したい音楽ファイルを、ファイルブラウザやエクスプローラから、トラックウェルにドラッグ&ドロップします。

Point

汎用編集モードでも音楽CDの作成は行なえますが、[編集モード切替]ボタンをクリックし、ウェルの表示を「トラック編集モード」に切り替えると詳細な情報を確認できます。

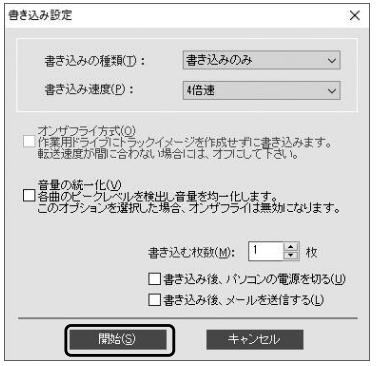
4 曲順の変更を行ないます。変更は、「トラックの種類」の項目の曲番号欄で、変更したいトラックをドラッグ&ドロップで移動させることで行ないます。



5 メディアを挿入し、[書込み]ボタンをクリックします。

Point

CD TEXT情報付きの音楽CDや無音部分のない音楽CDを作成する時は、「ディスクアットワンス」のチェックボックスを「オン」に設定してください。



6 書き込み設定画面が表示されます。[書き込み速度]、[書き込む枚数]の設定を行ない、[開始]ボタンをクリックします。

Point

「音量の統一化」のチェックボックスを「オン」にすると、各曲のピークレベルを検出し、音量を均一化して、書き込みを行ないます。ただし、このチェックボックスを「オン」にするとオンザフライの設定は行なえません。また、書き込み設定の詳細については84ページをご参照ください。

7 作成状況を示す画面が表示されます。「終了」が表示されたら、[OK]ボタンをクリックしてください。

Column

作成した音楽CDの確認方法について

作成した音楽CDは、市販の音楽CDと同じように使用できます。市販の音楽CDプレーヤーなどで使用できるか再生してみてください。また、パソコンで確認する時は、「B's Recorder」を終了した後に、ドライブに作成した音楽CDを挿入し、「rimFOLiO」などの再生ソフトで再生できるかどうかを確認してください。

3-5 CD TEXT付きの音楽CDを作るには

B's Recorderは、アルバム名や曲名、アーティスト名などの文字情報が記録されたCD TEXT付きの音楽CDを作成できます。ここでは、その手順を説明します。

音楽CDにCD TEXTをつけると、対応したプレーヤーでアルバム名、曲名、アーティスト名を表示できます。日本語と英語の両方を設定すると、日本語に対応していないプレーヤーでは英語の情報を表示できます。
B's Recorderでは、CD TEXT情報を直接入力(またはファイル名を流用)する方法と、あらかじめCD TEXTの情報ファイルを準備し、それを使用する方法の2種類でCD TEXT付き音楽CDを作成できます。

注意　**CD TEXT付きの音楽CDの作成には、CD TEXTに対応したドライブが必要です。**

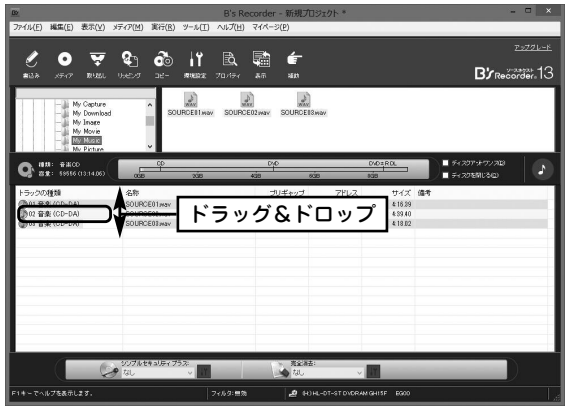
注意　**プレーヤーによってはCD TEXTに対応していない場合があります。**

CD TEXT情報を直接入力して作成する

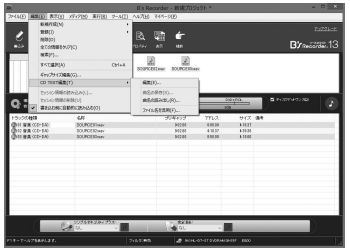
1 B's Recorderを起動し、86ページからの「ウェルを使用して音楽CDを作成する」を参考に音楽ファイルをトラックウェルに登録します。

Point

作成は、汎用編集モードでも行なえますが、[編集モード切替]ボタンをクリックし、ウェルの表示をトラック編集モードに切り替えると詳細な情報を確認できます。



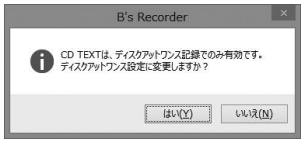
2 曲順の変更を行ないます。変更は、「トラックの種類」の項目の曲番号欄で変更したいトラックをドラッグ＆ドロップで移動させることで行ないます。



3 [編集]→[CD TEXT編集]メニューから[編集]を選択し、「CD TEXT情報」画面を開きます。

Point

[編集]→[CD TEXT編集]メニューから[ファイル名を流用]を選択すると、ファイル名を曲名に設定します。ファイル名が英語の場合は英語と日本語の情報の両方が自動的に設定されますが、ファイル名が日本語の場合は、日本語の情報のみが設定されます。また、「CD TEXT情報」画面はトラックウェルで右クリックし、[CD TEXT情報]→[編集]からも開けます。



4 書き込み方式を「ディスクアットワンス」に変更するかどうかをたずねるダイアログが開きます。[はい]をクリックしてください。[いいえ]をクリックするとCD TEXTの編集を行なえません。

5 CD TEXT情報を入力します。

① 書き込みたい言語のタブをクリックします。
②「この言語で音楽CDにアルバム名や曲名を書き込む」のチェックボックスを「オン」にします。
③リスト上のトラックを選択し、選択したトラックのアルバム名、アーティスト名、曲名を入力します。(注意)　入力が終わったら、[次曲]ボタンをクリックします。

Point

[一括]ボタンをクリックするとアーティスト名をすべてのトラック（曲）に対して入力できます。また、英語/日本語の両方の言語を設定する時は、言語のタブを切り替え、②と③の操作を繰り返し、すべてのトラックに入力します。

注意　**日本語のCD TEXT情報は、すべて全角文字を使用する必要があります。英数字などを半角文字で設定した場合は、自動的に全角文字に変換されます。また、入力できる文字数は、日本語が80文字(全角)、英語が160文字(半角)までです。**

④ すべての設定が終了したら[OK]ボタンをクリックします。

6 メディアをドライブに挿入し、[書込み]ボタンをクリックして書き込みを行ないます。

CD TEXT情報ファイルから作成する

1 CD TEXT情報ファイルをメモ帳などのテキストエディタでも作成できます。
CD TEXT情報ファイルは、次のようなフォーマットで作成します。

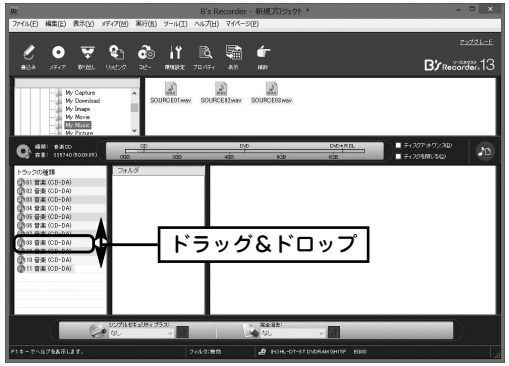
```
[EN]        ←――――――――――――――――――――――― “[EN]”は、英語情報であることを表します。
00M=Recota  ←――――――――――――――――――――――― 00Mは、アルバム名の情報です。
00A=SOURCENEXT←――――――――――――――――――――― 00Aは、アーティスト名の情報です。
01M=koinokisetsu ←――――――――――――――――――― 01Mは、1曲目（トラック目）の曲名です。
01A=SOURCENEXT←――――――――――――――――――― 01Aは、1曲目（トラック目）のアーティスト名です。
02M=daisuki
02A=SOURCENEXT
[JP]        ←――――――――――――――――――――――― “[JP]”は、日本語情報であることを表します。
00M=レコ太 ←――――――――――――――――――――― 00M欄は、アルバム名の情報です。
00A=ソースネクスト ←――――――――――――――――― 00A欄は、アーティスト名の情報です。
01M=恋の季節 ←――――――――――――――――――― 01Mは、1曲目（トラック目）の曲名です。
01A=ソースネクスト ←――――――――――――――――― 01Aは、1曲目（トラック目）のアーティスト名です。
02M=だいすき
02A=ソースネクスト
```

※01以降の先頭の2ケタの数字（01,02…）は、トラック番号（曲順）を示しています。また、Mは、00の場合のみアルバム名を示し、01以降はすべて曲名を示します。Aは、すべてアーティスト名を示します。
※英語もしくは日本語のみを登録する時は、[EN]のみ、[JP]のみのファイルを作成してください。例えば、英語のみを登録する時は、[JP]以下をすべて削除したものを作成します。

Point

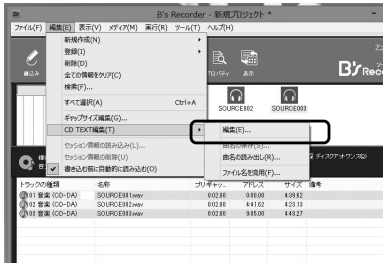
日本語の情報を登録する場合は、日本語情報の文字はすべて「全角文字」で入力する必要があります。

2 B's Recorderを起動し、86ページからの「ウェルを使用して音楽CDを作成する」を参考に、音楽ファイルをトラックウェルに登録します。作業は汎用編集モードでも行なえますが、[編集モード切替]ボタンをクリックし、ウェルの表示をトラック編集モードに切り替えると詳細な情報を確認できます。

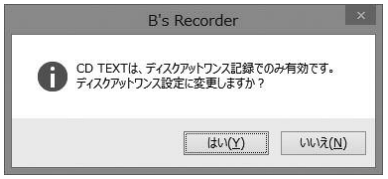


3 曲順の変更を行ないます。変更は、「トラックの種類」の項目の曲番号欄で、変更したいトラックをドラッグ＆ドロップで移動させることで行ないます。

4 登録したトラックの順番と情報ファイルのトラック順（曲順）を合わせます。トラック順の変更は、トラックウェルの曲番号欄で、変更したいトラックをドラッグ＆ドロップで移動させることで行ないます。



5 [編集]→[CD TEXT編集]メニューから、[曲名の読み出し]を選択するか、トラックウェルで右クリックし、メニューから[CD TEXT情報]→[編集]を選択します。



6 書き込み方式を「ディスクアットワンス」に変更するかどうかをたずねるダイアログが開きます。[はい]をクリックしてください。[いいえ]をクリックするとCD TEXTの編集を行なえません。

7 「曲名ファイル」選択画面が開いたら、CD TEXT情報ファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。

8 メディアをドライブに挿入し、[書込み]ボタンをクリックして書き込みを行ないます。

CD TEXT情報ファイルを保存するには

直接入力などで登録したCD TEXT情報は、ファイルとして保存できます。保存は、[編集]→[CD TEXT編集]メニューから、[曲名の保存]を選択するか、トラックウェルで右クリックし、メニューから[CD TEXT編集]→[曲名の保存]を選択します。「曲名ファイル」ダイアログが表示されたら、保存するフォルダとファイル名を選択し、[保存]ボタンをクリックしてください。

3-6 無音部分のない音楽CDを作るには ～ギャップサイズの設定

B's Recorderは、音楽CDを作る時にギャップ（無音部分）の長さを変更できます。ここでは、ギャップの設定について説明します。

B's Recorderでは、曲間に「2秒」のギャップ（無音部分）が音楽CDを作成する時の初期値として設定されています。ライブ盤の音楽CDのなどのように無音部分のない音楽CDを作成したい時は、ギャップサイズの調整を行なってください。ギャップサイズの設定は、次の手順で行ないます。

1 B's Recorderを起動し、86ページからの「ウェルを使用して音楽CDを作成する」を参考に音楽ファイルをトラックウェルに登録します。

2 [編集]メニューから[ギャップサイズ編集]を選択します。

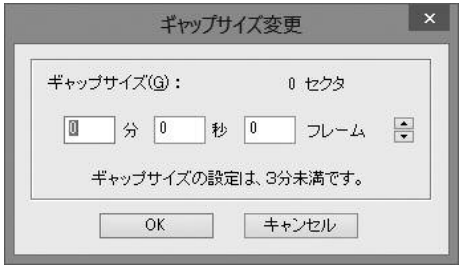
Point

ギャップサイズ編集は、トラックウェルで右クリックし、[ギャップサイズ編集]を選択することでも行なえます。

3 「仮想CDのプロパティ」が表示されます。リストから設定を変更したいトラックのギャップをダブルクリックします。

Point

「プリギャップ」は、トラックのデータ領域の前に設定されるギャップで、「ポストギャップ」は、データ領域の後に設定されるギャップです。ポストギャップは、書き込み方式に関係なく設定を行なえますが、プリギャップの設定は、「ディスクアットワンス」を選択した時のみ行なえます。



4 ギャップサイズの設定を行ないます。設定したい数値を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。無音部分のない音楽CDを作成したい時は、ポストギャップ/プリギャップともに「0」を入力します。

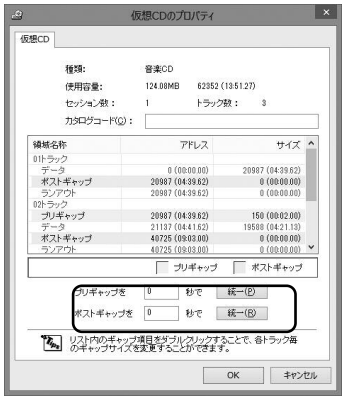
Point

ギャップサイズとして設定できる値は、最高で3分未満(＝2分59秒74フレーム)です。また、直接入力を行なった時に、設定できる数値を上回った場合は自動的に設定範囲内の数値に修正されます。

5 他のトラックの設定を変更する時は、再度設定したいトラックをダブルクリックし、同様の設定を行ないます。すべての設定が終了したら[OK]ボタンをクリックし、仮想CDのプロパティを終了します。

Point

すべてのプリギャップ/ポストギャップを一定の値に統一して設定したい時は、「仮想CDのプロパティ」画面の「プリギャップを」/「ポストギャップを」に1秒単位で数値を入力し、[統一]ボタンをクリックします。



注意　**初期状態では、プリギャップが2秒、ポストギャップが0秒(なし)として設定されています。また、1トラック目のプリギャップは、常に2秒で固定されています。変更はできません。**

3-7 ダイレクトカット機能を使うには

ダイレクトカットは、パソコン搭載のサウンドカードのマイクやライン入力から、直接音楽CDを作成する機能です。ここでは、その使い方を説明します。

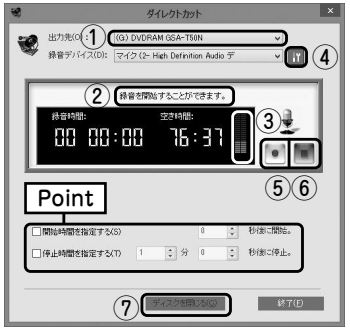
ダイレクトカットは、アナログ音源などから取り込んだ音声を直接音楽CDとして作成したり、パソコンのハードディスクに音楽ファイルとして保存することができます。ダイレクトカットは、次の点に注意してご使用ください。

起動時の制限について	単体アプリケーションのダイレクトカット起動中に、B's Recorderを起動することはできません。また、その逆も行なえません。B's Recorder起動中は、「ツール」メニューから使用できるダイレクトカットをご使用ください。
機器について	ダイレクトカットを使用するには、お使いのパソコンにサウンドカードが搭載されている必要があり、この機能に対応したドライブでのみ使用できます。
メディアについて	ダイレクトカット機能で書き込みが行なえるのは、CD-Rメディアのみです。記録型DVD/BD/HD DVDやCD-RWメディアには書き込みを行なえません。また、ダイレクトカットで直接書き込みを行なったCD-Rは、ダイレクトカット終了時に、自動的に終了処理が施され、以降の追記はできません。

CD-Rに直接書き込むには

1 テープレコーダーなどのアナログ機器に搭載されている「ラインアウト（出力）端子」とパソコンに搭載されているサウンドカードの「ラインイン（入力）端子」を市販のケーブルで接続します。また、ラインイン端子に空きがない時は、「抵抗入りケーブル」を使用して「マイク入力端子」に接続します。

2 ダイレクトカットを起動します。B's Recorderが起動している時は、ツールメニューから[ダイレクトカット]を選択するか、補助メニューから「ダイレクトカット」を選択します。ダイレクトカットを直接起動する時は、B's スタートパネルを起動し、[機能を選ぶ]→[音楽]→[アナログ録音]を選択します。



3 書き込み準備を行ない、録音を開始します。

① 出力先のリストボタンをクリックし、使用しているドライブを選択します。複数のドライブが接続されている時は、ここで、使用するドライブを選択できます。
② メディアをドライブに挿入します。空き時間が表示され、「録音を開始することができます」というメッセージが表示されます。
③ 機器の再生を行ない、レベルメーターが振れていることを確認します。

Point

レベルメーターが振れない時は、④[録音コントロール]ボタンをクリックしてプロパティを開き、接続した入力が「ミュート」に設定されていないか確認してください。

④ 録音レベルの調整を行ないます。[録音コントロール]ボタンをクリックし、入力に使用した端子の音量を調整します。レベルメーターの表示を参考に設定を行なってください。
⑤ [録音]ボタンをクリックし、録音を開始します。カウンターが動作するまで、数秒の間がありますが、この間の音も録音されています。

Point

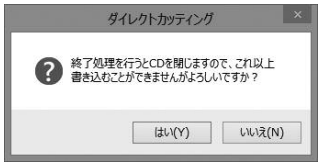
「開始時間を指定する」のチェックボックスを「オン」に設定すると録音ボタンをクリックした後、指定した秒数が経過すると録音を開始できます。また、「停止時間を指定する」のチェックボックスを「オン」に設定すると、録音開始後、設定した時間になると自動的に録音を終了し、停止状態になります。

⑥ 録音が完了したら、[停止]ボタンをクリックします。録音が終了します。

Point

再び[録音]ボタンを押すと、2曲目として録音が開始されます。停止後録音を開始するごとに、3曲目、4曲目……として録音されます。

⑦ すべての録音が終了したら、[ディスクを閉じる]ボタンをクリックし、ダイレクトカット機能を終了します。



4 終了処理に関するダイアログが表示されたら、[はい]ボタンをクリックします。終了処理が行なわれ、この処理が終わると次のCD-Rの録音が可能になります。

5 すべての録音が終了したら「終了ボタン」をクリックしてください。ダイレクトカットが終了します。

ダイレクトカットを使った音楽ファイルの作成手順

1 テープレコーダーなどのアナログ機器に搭載されている「ラインアウト（出力）端子」とパソコンに搭載されているサウンドカードの「ラインイン（入力）端子」を市販のケーブルで接続します。また、ラインイン端子に空きがない時には、「抵抗入りケーブル」を使用して「マイク入力端子」に接続します。

2 ダイレクトカットを起動します。B's Recorderが起動している時は、ツールメニューから[ダイレクトカット]を選択するか、補助メニューから「ダイレクトカット」を選択します。ダイレクトカットを直接起動する時は、B's スタートパネルを起動し、[機能を選ぶ]→[音楽]→[アナログ録音]を選択します。

3 書き込み準備を行ないます。

① 出力先のリストボタンをクリックし、出力先に[音楽ファイルを作成]を選択します。

② 機器の再生を行ない、レベルメーターが振れていることを確認します。

Point

レベルメーターが振れない時は、③をクリックして「録音コントロール」を開き、接続した入力が「ミュート」に設定されていないか確認してください。

③「録音コントロール」ボタンをクリックし、レベルメーターの表示を参考に、入力に使用した端子の音量を調整します。

④ ファイル名を入力します。「録音するファイル」ボタンをクリックすると、「録音するファイル」ダイアログが開き、保存先やファイル名を指定できます。

Point

ファイル名を直接入力すると、初期値では、[マイドキュメント]→[My GOLD]→[My Music]内に録音した音楽ファイルが保存されます。

4 ① 録音するファイルの形式を設定します。「圧縮」のチェックボックスを「オン」にすると圧縮音楽ファイルを作成でき、「オフ」にするとWAVファイルが作成できます。
圧縮音楽ファイルについては、コラムをご参照ください。

② [録音]ボタンをクリックし、録音を開始します。

Point

「開始時間を指定する」のチェックボックスを「オン」にすると[録音]ボタンをクリックした後、指定した秒数が経過すると録音を開始することができます。また、「停止時間を指定する」のチェックボックスを「オン」にすると、録音開始後、設定した時間になると自動的に録音を終了し、停止状態になります。

③ 録音を終了する時は、[停止]ボタンをクリックします。また、続けて録音を行なう場合は、再度、「録音」ボタンをクリックし、終了したい時は、[停止]ボタンをクリックしてください。続けて録音を行なった時は、ファイル名の指定は自動で行なわれます。例えば「Music.wav」とファイル名を付けた場合、Music0.wav、Music1.wav……のように、ファイル名の後ろに数字が付加されます。

Point

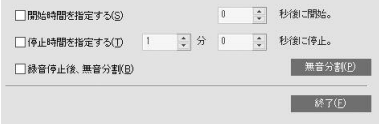
「録音停止後、無音分割」のチェックボックスを「オン」にすると、録音終了後、作成した音楽ファイルの無音分割を行ないます。無音分割については、98ページをご参照ください。

④ すべての録音が終了したら、[終了]ボタンをクリックしてください。ダイレクトカットが終了します。

Column　ダイレクトカットに対応している音楽ファイルの形式は？

ダイレクトカットで作成できる音楽ファイルの形式は、WAVファイルとMP3、WMA、Ogg Vorbis、Monkey's Audioです。圧縮音楽ファイルを選択した時は、[設定]ボタンをクリックすることで、詳細な設定を行なえます。詳しくは、81ページのコラムをご参照ください。

■ 無音分割について（上位版のGOLDのみ）

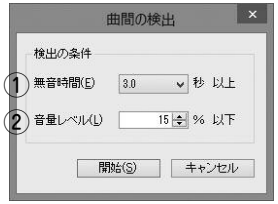


ダイレクトカットは、音楽ファイルの無音部分を検出し、自動的にファイルを分割する「無音分割」機能を搭載しています。この機能は、出力先に「音楽ファイルを作成」を選択することで使用でき、[無音分割]ボタンをクリックすると、指定した音楽ファイルの無音分割が行なえます。また、「録音停止後、無音分割」のチェックボックスを「オン」にしてダイレクトカットを行なった時は、録音停止後、直ちに作成した音楽ファイルの無音分割が行なわれます。

1 [曲間検出]ボタンをクリックします。

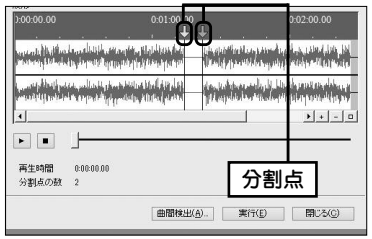
Point

[参照]ボタンをクリックすると、無音分割を行なう音楽ファイルを選択できます。

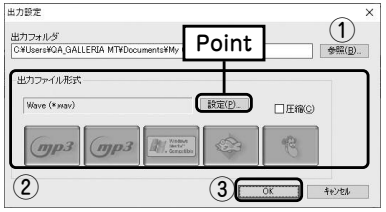


2 「曲間の検出]ダイアログが開きます。①無音が続く時間の長さを設定する「無音時間」と②無音として判断する音量レベルの大きさ設定する「音量レベル」の2項目について条件を設定します。設定を行なったら、[開始]ボタンをクリックしてください。検出が始まります。

3 検出結果を知らせるダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックしてください。また、うまく検出されなかった時は、曲間の検出条件を変更し、再度、検出を行なってください。



4 検出されたポイントで無音分割を行なう時は、[実行]ボタンをクリックします。



5 出力設定を行ないます。

① 出力フォルダの設定を行ないます。[参照]ボタンをクリックし、「フォルダの参照」ダイアログが起動したら、フォルダを選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。

② 出力ファイル形式を設定します。[圧縮]のチェックボックスを「オフ」(初期値）にするとWAVファイルで保存され、「オン」にすると圧縮音楽ファイルで保存できます。圧縮音楽ファイルの形式は、使用したい圧縮形式をクリックすることで行なえます。

Point

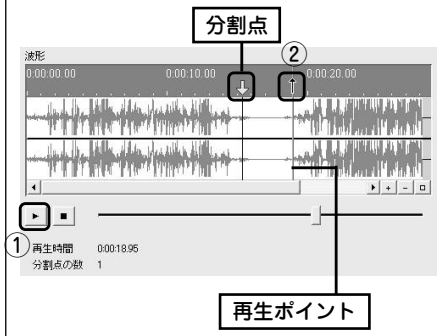
[設定]ボタンをクリックすると、詳細な設定が行なえます。WAVファイルで保存する時は、通常、初期値のままご使用ください。また、圧縮音楽ファイルで保存する時の設定は、81ページのコラムをご参照ください。

③ すべての設定が終了したら、[OK]ボタンをクリックしてください。分割作業が始まります。

6 分割が終了すると、ダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックしてください。

Column　手動で分割ポイントを設定するには

無音分割は、手動で分割ポイントを設定し、そこで音楽ファイルを分割することもできます。手動で設定する時は、次の手順で作業します。



① 「再生/一時停止」ボタンをクリックします。再生ポイントを示す「青いバー」が移動します。分割したいポイントがきたら、再度、「再生/一時停止」ボタンをクリックして、再生を一時停止します。

Point

「再生/一時停止」ボタンは、再生と一時停止が交互に切り替わります。また、再生位置は、再生位置を示す青いバーをマウスでドラッグするかスライドバーをドラッグすることで、再生点を移動させることができます。

② 再生位置を示す青いバーの時間軸部分（グレーの部分）をクリックします。時間軸上（グレーの部分）に、マウスポインタを移動させるとその形状が、「↑」に変化します。

③ 時間軸上に分割点を示す↓が表示されます。[実行]ボタンをクリックすると音楽ファイルの分割が実行されます。また、設定した分割点を削除したい時は、分割点のマークをダブルクリックもしくは、右クリックします。

3-8 データと音楽の混在したCDを作るには

B's Recorderは、CD-ExtraやミックスモードCDなどのデータと音楽が一緒に書き込まれた音楽CDを作成できます。ここでは、その作成手順を説明します。

CD-Extraは、第1セッションに音楽CDと同等の音楽部、第2セッションにパソコン用のデータを書き込んだCDです。また、ミックスモードCDは、初期のゲームCDなどで採用されていた形式で、第1トラックにパソコン用のデータ、第2トラック以降に音楽部を書き込んだCDです。B's Recorderは、両方の形式のCDを作成できます。

Point

ミックスモードCDを音楽CDプレーヤで再生すると、データ部分を誤って読み取り、雑音を発生させることがあります。音楽CDとの互換性を重視する場合は、CD-Extraの作成をおすすめします。

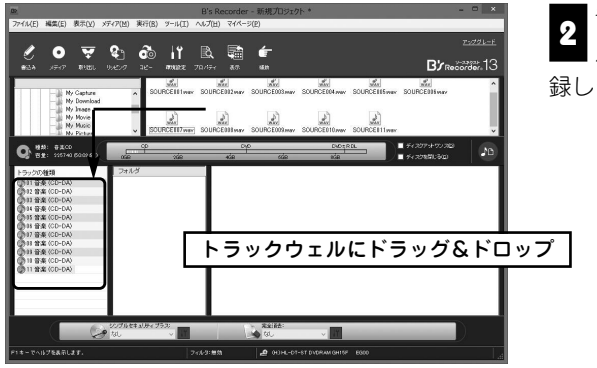
■ CD-Extraを作成するには

B's Recorderを使用したCD-Extraの作成は、最初に音楽部のみを書き込み、次にパソコン用のデータ部を書き込むという2ステップで作業を行ないます。それぞれ、次の手順で行ないます。

Point

CD-Extra作成は「トラックアットワンス」で書き込みを行なうため92ページで紹介している「無音部分のない音楽CD」や「CD TEXT付きの音楽CD」を作成することはできません。

1 B's Recorderを起動します。補助メニューが表示されたら、[閉じる]ボタンをクリックします。



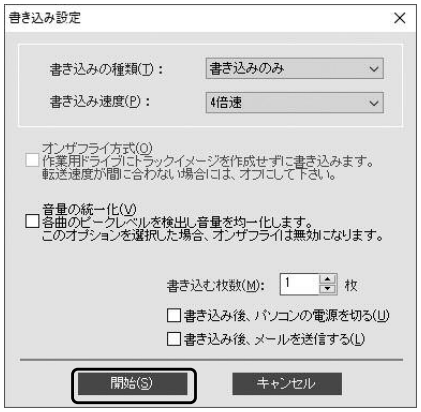
2 音楽ファイルをトラックウェルにドラッグ＆ドロップで登録します。

3 「ディスクアットワンス」のチェックボックスを「オフ」に設定し、「ディスクを閉じる」のチェックボックスも「オフ」に設定します。また、ギャップサイズの変更を行ないたい時は、[編集]→[ギャップサイズ編集]を開き、設定を行ないます。

注意

「ディスクアットワンス」と「ディスクを閉じる」のチェックボックスを「オン」に設定するとCD-Extraの作成が行なえません。これらの設定は必ず「オフ」に設定してください。また、環境設定のプロパティ内のトラック設定タブで「音楽CD作成時には、自動的にディスクアットワンスとします」が「オン」に設定されていると、常に音楽CD作成時に「ディスクアットワンス」が使用されます。CD-Extraを作成する時は、事前に、この設定が「オフ」になっていることを確認してください。設定の詳細については、27ページをご参照ください。

4 ドライブにメディアを挿入し、[書込み]ボタンをクリックします。



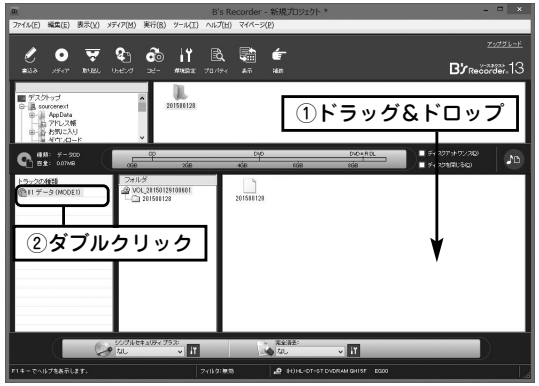
5 「書き込み設定」画面が表示されます。必要な設定を行ない、[開始]ボタンをクリックします。

6 書き込み作業が開始されます。終了メッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

7 書き込んだメディアを再びドライブにセットします。また、[編集]→[全ての情報をクリア]を選択し、ウェルに登録されている情報をクリアします。確認の画面が表示されたら[はい]をクリックしてください。

Point

ウェルに登録された情報のクリアは、ウェル内で右クリックし、メニューから[全ての情報をクリア]を選択することでも行なえます。

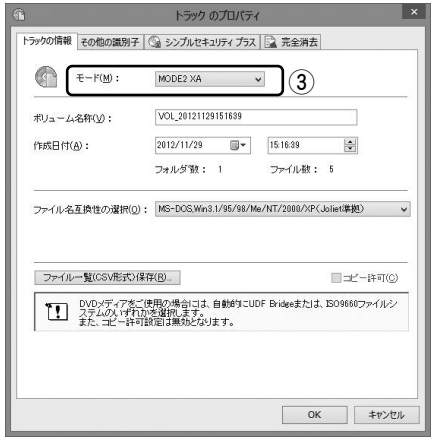


8 データウェルにファイルやフォルダを登録し、各種設定を行ないます。

①データウェルに書き込みたいファイルやフォルダをドラッグ＆ドロップで登録します。
②データトラックをダブルクリックし、「トラックのプロパティ」ダイアログを開きます。

Point

「トラックのプロパティ」ダイアログは、トラックウェル内に登録されたトラックを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択、あるいは[ファイル]→[プロパティ]を選択することでも表示できます。



③[モード]の設定を[MODE2 XA]に変更し、[OK]ボタンをクリックします。

9 [ディスクを閉じる]のチェックボックスを「オン」に設定し、[書込み]ボタンをクリックします。

10 「書き込み設定」画面が表示されたら必要な設定を行ない、[開始]ボタンをクリックして2度目の書き込みを行ないます。終了メッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

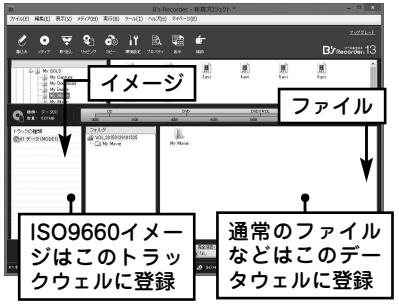
ミックスモードCDを作成するには

ミックスモードCDの作成方法には、データウェルとトラックウェルの2つのウェルを使用して作成する方法と、ISO9660イメージファイルを作成しトラックウェルのみで作成する方法の2種類があります。ミックスモードCDは、次の手順で作成します。

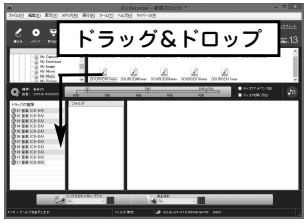
Point

ISO9660イメージファイルの作成方法については、70ページをご参照ください。

1 B's Recorderを起動します。補助メニューが表示されたら、[閉じる]ボタンをクリックします。



2 パソコン用のデータを登録します。データウェルを使用する場合は、ファイルブラウザまたはエクスプローラを使って、書き込みたいファイルをデータウェルにドラッグ＆ドロップします。ISO9660イメージファイルを使用する時は、トラックウェルにドラッグ＆ドロップします。



3 音楽ファイルをトラックウェルに登録します。

Point

第2トラック以降に音楽ファイルを登録すると種類の表示が「MixedCD」に変化します。

4 書き込み方式などを設定します。「ディスクアットワンス」のチェックボックスを「オン」に設定し、書き込み方式をディスクアットワンスにします。また、ギャップサイズの変更を行ないたい時は、[編集]→[ギャップサイズ編集]を開き、設定を行ないます。

Point

ギャップサイズ編集については、92ページをご参照ください。

5 ドライブにメディアを挿入し[書込み]ボタンをクリックします。

6 「書き込み設定」画面が表示されます。必要な設定を行ない、[開始]ボタンをクリックします。

7 書き込み作業が開始されます。終了メッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

MEMO

MEMO

Part 4

バックアップ機能を使う

B's Recorderは、各種メディアのコピー（バックアップ）だけでなく、HDDバックアップなどの多彩なバックアップ機能を搭載しています。ここでは、バックアップ機能の詳細な使い方について説明しています。

4-1　各種メディアをコピーするには……108
4-2　各種メディアをコピーする際の詳細設定について……110
4-3　CD TEXT付きの音楽CDとしてコピーするには……113
4-4　HDDバックアップを行なうには……115
4-5　バックアップしたHDDをリストア（復元）するには……122
4-6　HDDをコピーするには……125
4-7　ファイルバックアップを使用するには……126
4-8　バックアップしたファイルをリストア（復元）するには……133

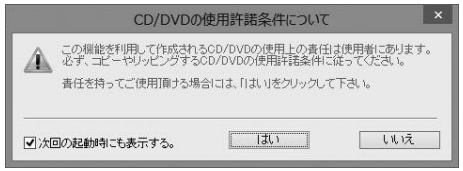
4-1 各種メディアをコピーするには

B's Recorderは、簡単な操作で各種メディアのコピーを作成できます。ここでは、各種メディアのコピー手順について説明します。

■各種メディアのコピー手順

1 B's Recorderを起動して、補助メニューから[コピー]ボタンをクリックするか、メインウィンドウの[コピー]ボタンをクリックします。

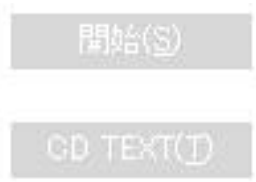
注意
CD/DVDやDVD-Videoのコピーを作成する場合は、市販のDVDビデオなどの著作権保護のかかっているものは対象外となります。また、すべてのメディアコピーが行なえるわけではありません。



2 「CD/DVDの使用許諾条件について」のダイアログが表示されます。ダイアログの内容を確認し、[はい]ボタンをクリックします。

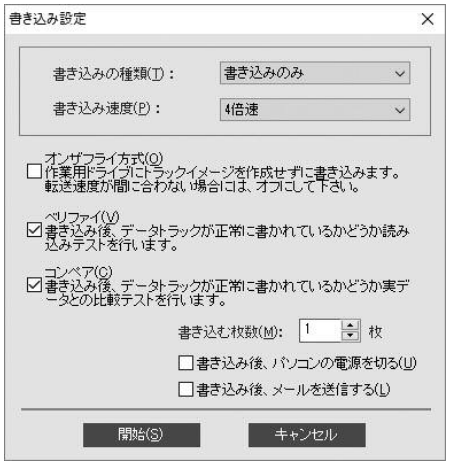
Point
「次回の起動時にも表示する」のチェックボックスを「オフ」にすると次回からこのダイアログを表示しません。

3 「CD/DVDコピー」画面が表示されます。1台のドライブでコピーを行なう場合は、ドライブにコピー元メディアを挿入します。パソコンにドライブが複数台接続されている時は、送り側（読み出し元）ドライブと受け側ドライブをそれぞれ選択し、送り側ドライブにコピー元ディスク、受け側ドライブにブランクメディアを挿入します。



4 ［開始］ボタンをクリックします。

Point
［コピーの設定］ボタンをクリックすると詳細な設定が行なえます。通常は、初期値でご使用いただいても問題はありません。また、オリジナルに忠実なコピーを作成したい場合は、「ディスクアットワンス」のチェックボックスを「オン」でご使用ください。コピーに関する詳細な設定については、110ページをご参照ください。



5 書き込み設定をした後、［開始］ボタンをクリックします。

Point
データメディアをコピーする時は、書き込み終了後に正しく書き込めたかどうかをチェックする「コンペア」や「ベリファイ」などの検証処理が行なえます。これらを使用する時は、それぞれのチェックボックスを「オン」に設定してください。また、複数のドライブを使用し、送り側と受け側に異なるドライブを使用している時は、作業ファイルを作成することなく、ダイレクトに書き込みを行なうオンザフライ書き込みを使用できます。オンザフライ書き込みを使用する時は、「オンザフライ方式」のチェックボックスを「オン」に設定してください。

6 書き込み作業が始まります。

Point
1台のドライブで作業を行なっている時は、途中でディスクの交換を促す画面が表示されます。メッセージに従ってディスクを交換し、作業を続けてください。

7 書き込みが終了したら、［OK］ボタンをクリックしてください。

4-2 各種メディアをコピーする際の詳細設定について

ここでは、各種メディアコピー使用時に設定できる各種設定を中心に説明を行なっています。

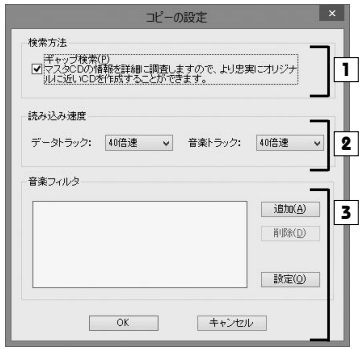
B's Recorderに搭載されているコピー機能は、送り側ドライブ（読み出しドライブ）と受け側ドライブ（書き込みドライブ）の設定を行なうだけで簡単にメディアのコピーを作成できますが、詳細な設定を行なうことで、さまざまな付加機能を使用することもできます。

注意　**CD/DVD/BD/HD DVDやDVD-Videoのコピーを作成する場合は、市販のDVDビデオなどの著作権保護のかかっているものは対象外となります。また、すべてのCD/DVD/BD/HD DVDやDVD-Videoのコピーが行なえるわけではありません。**

■コピーの設定

B's Recorderのコピー設定は、コピー元のメディアの種類にかかわらず共通で使用できる設定と、音楽CDをコピーする場合にのみ使用される設定の2種類があります。設定は、[コピーの設定]をクリックすることで行なえます。(注意1)

注意1　**オンザフライ書き込みを行なわないでCDのコピーを実行すると最大900MBほどの作業領域を必要とし、DVDコピーの場合では最大約5GBほどの作業領域を必要とします。DVD±R DLのコピーを行なう場合は最大約10GB程、BDメディアではDLメディアの場合で60GB以上、HD DVDメディアではDLメディアの場合で40GB以上の作業領域が必要となります。**



1 検索方法（ギャップ検索）

このチェックボックスを「オン」に設定すると、トラックの前後に配置されるギャップの情報を検索し、トラックの正確な情報を取得します。コピー元により忠実なCDを作成することができます。(注意2)　通常は、「オン」でご使用ください。

注意2　**この設定の効果は、書き込み方式に「ディスクアットワンス」を選択した場合に有効となります。**

2 読み込み速度

コピー元からデータを読み込む場合に使用する速度の設定です。データトラックと音楽トラックで別々に設定することができます。データの読み込み速度は、設定できる最大速度でも問題が発生することはほとんどありませんが、音楽トラックの場合は、使用しているドライブによってはノイズや音飛びなどが発生することがあります。そのような問題が起きた時は、読み込み速度を遅く設定してください。

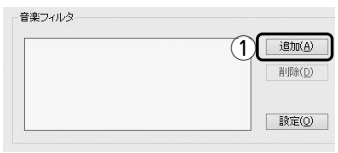
3 音楽フィルタ

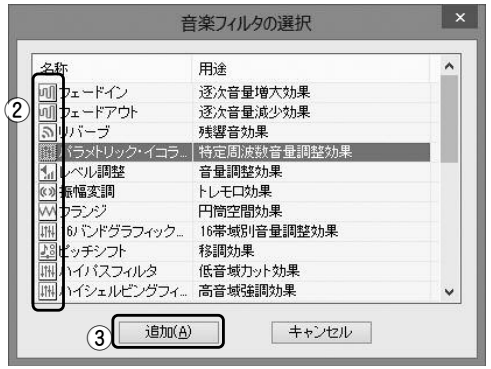
この設定は、音楽トラックを持つCD（音楽CDやミックスモードCD、CD-Extraなど）をコピーする場合にのみ有効な設定です。音楽フィルタを登録すると、コピー元CDに書き込まれている音楽トラックすべてに設定した音楽フィルタを適用しながらコピーを実行します。B's Recorderが標準搭載している音楽フィルタの中から適用したいものを選択し、指定できます。音楽フィルタの追加/削除/設定は、次の手順で行ないます。(注意)

注意　**B's Recorder（GOLDは除く）でご使用いただけるフィルタは「フェードイン」「ファードアウト」のみとなります。**

■追加

音楽フィルタの追加は、①[追加]ボタンをクリックする、②追加したい音楽フィルタを選択する、③[追加]ボタンをクリックする、の手順で行ないます。複数の音楽フィルタを追加する場合は、同じ手順を繰り返して追加を行なってください。



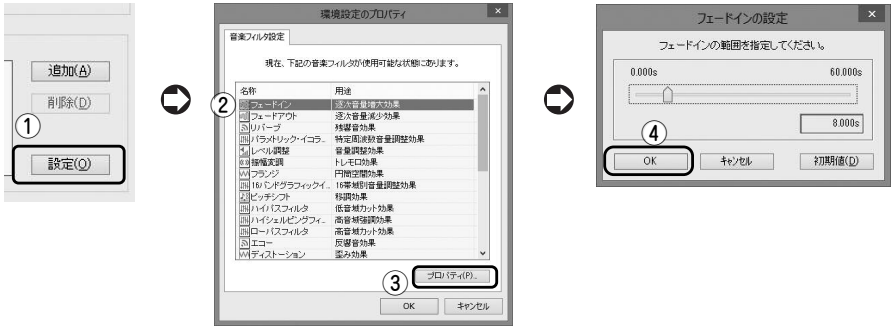


Point

登録した音楽フィルタの削除をする時は、①削除したい音楽フィルタをクリックする、②[削除]ボタンをクリックする、の手順で行なえます。

■設定

音楽フィルタの設定は、①[設定]ボタンをクリックする、②設定を変更したい音楽フィルタをクリックする、③[プロパティ]ボタンをクリックする、④設定を変更し、[OK]ボタンをクリックする、という手順で行ないます。



■受け側ドライブの設定（コピー属性）

B's Recorderは、CDのコピーを行なう場合、次の項目について受け側ドライブ（書き込みドライブ）の書き込み設定が行なえます。

注意　ここで行なえる設定はCDでのみ有効です。CD以外のメディアでは設定できません。

●設定内容

ディスクアットワンス	このチェックボックスを「オン」に設定するとディスクアットワンス（追記不可の状態）で書き込みを行ないます。オリジナルに忠実なコピーを作成したい場合は、この設定を「オン」でご使用ください。
メディアを閉じる。	このチェックボックスを「オン」に設定すると、今回の書き込みを最後にマルチセッションを使用した追記を行なえないようにします。この項目は、ディスクアットワンスのチェックボックスを「オン」にした状態では、設定できません。
トラックの長さを優先する。	本製品では、ディスクアットワンスで書き込みを行なわない場合は、トラックの開始アドレスを優先して書き込みを行ないます。このため、音楽トラックをコピーする場合に最後の2秒間がカットされます。このチェックボックスを「オン」に設定すると、トラックの長さを優先するので最後の2秒間がカットされません。この項目は、ディスクアットワンスのチェックボックスを「オン」にした状態では、設定を行なえません。

4-3 CD TEXT付きの音楽CDとしてコピーするには

B's Recorderは、CD TEXT情報を持たない音楽CDを「CD TEXT付きの音楽CD」としてコピーする機能を搭載しています。ここでは、その手順を紹介します。

■CD TEXT情報の設定方法

CDコピー時にCD TEXT付き音楽CDを作成するには、CD TEXT情報を作成する必要があります。CD TEXT情報の作成方法には、手動で作成する、曲名を読み出す、CDデータベースサーバーを利用するの3種類があります。それぞれ、次の手順で利用します。

注意　CD TEXT付きの音楽CDを作成するには、必ず、ディスクアットワンスで書き込む必要があります。

1 CD TEXT情報を手動で作成する

この方法は、[CD TEXT]ボタンをクリックし、メニューから[編集]を選択することで行ないます。「CD TEXT情報」を入力する画面が開きますので、ここで設定を行ない、英語と日本語の2つの言語の情報を作成できます。

Point

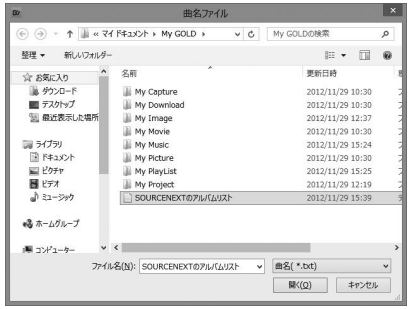
「CD TEXT情報」画面の詳細な使用方法は、88ページをご参照ください。

2 曲名を読み出す

この方法では、
（1）コピー元の音楽CDにCD TEXT情報が含まれている
（2）コピー元の音楽CDがCD-Extra（第1セッションに音楽、第2セッションにデータが書き込まれた音楽CDの1種）で作成されており、かつCD Extraの曲名情報が書き込まれている
（3）ユーザーが曲名情報を書き込んだファイルを準備している
の3つの条件のいずれかが有効な場合、CD TEXT情報を設定できます。

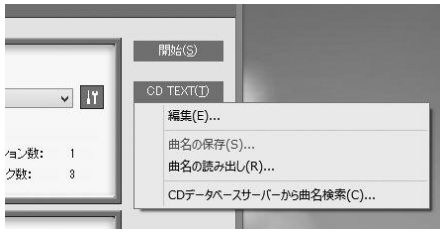
Point

CD TEXT情報を書き込んだファイルの作成の仕方は、86ページをご参照ください。



[CD TEXT]ボタンをクリックし、メニューから[曲名の読み出し]を選択することで行なえます。「曲名ファイル」の選択画面が表示されたら、ファイルを選択して、[開く]ボタンをクリックしてください。

3 CDデータベースサーバー



Point

CDデータベースサーバーの設定については、22ページをご参照ください。

この方法では、インターネット上に設置されたCDデータベースサーバーで楽曲やアーティスト情報の検索を行ない、CD TEXT情報を設定します。CDデータベースサーバーを使用する時は、[CD TEXT]ボタンをクリックし、メニューから[CDデータベースサーバーから曲名検索]を選択することで行ないます。登録されていた時は、自動的にアルバム名、曲名、アーティスト名などが取り込まれ、「CD TEXT情報」を入力する画面が開きます。登録されていない場合は、登録されていないことを知らせるダイアログが表示されます。

4-4 HDDバックアップを行なうには

B's Recorderは、ハードディスクのデータを各種メディアにバックアップする「HDDバックアップ」機能を搭載しています。

この機能は、「パーティション単位」「ドライブ単位」でハードディスクの内容を各種メディアや、ハードディスクにバックアップします。ドライブ単位の「ドライブ」とは物理的なハードディスクドライブのことです。「パーティション」とはそのドライブ上に作られた領域のことで、「C:」「D:」などのドライブレターが割り当てられます。バックアップをとったデータを復元する（リストアする）には、CD/DVD/BDドライブからパソコンを起動して行ないます。

■HDDバックアップ使用時の注意点

この機能はシステム障害時のリカバリを目的とするバックアップです。HDD換装に伴う環境移行（内容の移し換え）には適しません。リストア（バックアップした内容を元に戻す復元作業）は、基本的にバックアップを行なったドライブ／パーティションにしか戻せませんが、条件によってはバックアップ元サイズと異なったドライブ／パーティションにリストアが可能です。

リストア（復元）はCD/DVD/BDドライブからシステムを起動して行ないます。なお、シリアルATA、USB接続のハードディスクやCD-R/RW、記録型DVD、BDドライブに対応していますが、一部の環境においては、正常に起動できない場合があります。また、IEEE1394接続の機器からのリストアには対応しておりません。

ダイナミックディスクやハードウェアRAID、ソフトウェアRAID、ディスクアレイなどには対応していません。また、IDE(ATAPI)接続、シリアルATA接続のハードディスクについて、マザーボード標準のATAバス以外に接続している場合は動作保証外です。

ご使用環境によっては動作保証対象外になります。

Column

HDDバックアップ、ファイルバックアップの活用例

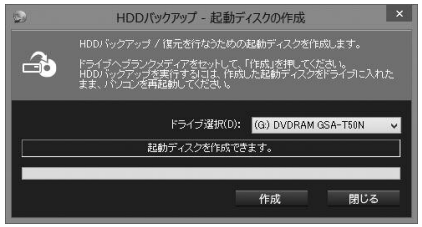
HDDバックアップは、ハードディスク／パーティション全体を丸ごとバックアップするので“ある時点のパソコンの状態”を保存しておきたいという用途に適しています。
例えば、パソコンの調子が悪くなったのでリカバリをしないといけないといった場合、パソコンのリカバリCDを使うとパソコンを買った時の状態に戻ってしまいます。自分で買ったソフトウェアのインストール設定や、インターネットやプリンタなどの設定を改めてしないといけないので、HDDバックアップを使用してシステムをそのままバックアップしておきたい、といった場合に使用します。
ファイルバックアップは、任意のファイル・フォルダをバックアップするものであるため、上述のような用途には適しません。
ファイルバックアップでは「何月何日から何月何日の間に更新されたファイル」や「○○というフォルダの中のjpgという拡張子のファイル」だけを保存するといった、データの条件を指定してバックアップすることができます。

HDDバックアップの手順

ハードディスクに不良セクタがある場合、読み書きに失敗することがあります。あらかじめハードディスクのエラーチェックを行なうことをおすすめします。エラーチェックにはWindowsのスキャンディスクや市販のツールをご使用ください。

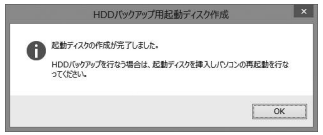
1 B's Recorderを起動し、〔ツール〕→〔HDDバックアップ〕を選択します。
以下の画面が表示される場合は、「ダウンロードページへ」をクリックして、Windows ADK(adksetup.exe)をダウンロードします。

ダウンロードしたadksetup.exeを実行し、画面の案内に従ってインストールを完了します。
※「インストールを行う機能を選択してください」の画面では、「Deployment Tools」と「Windows Preinstallation Environment (Windows PE)」のみにチェックをつけ、「インストール」をクリックし、インストールを完了させます。
インストール完了後、再度HDDバックアップを選択します。



2 起動ディスク作成に使用する空のメディアを、ドライブに挿入し「作成」ボタンをクリックします。

3 確認画面が表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。



4 起動ディスクの作成が開始されます。作成が完了すると完了画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

5 作成した起動ディスクをドライブに挿入し、パソコンを再起動します。
パソコン再起動後、HDDバックアップのプログラムが起動します。メニューには次の項目があります。

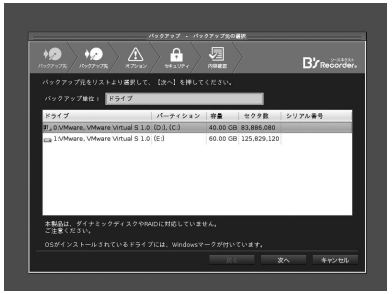
・ドライブ単位のバックアップ
パソコン内の物理ドライブを丸ごとバックアップする方法です。ドライブを丸ごと保存するため、OS が起動しなくなった場合のリカバリなどに適しています。

・パーティション単位のバックアップ
物理ドライブ内の選択したパーティションをバックアップする方法です。必要なパーティションを選択してバックアップできるため、バックアップサイズが小さくなります
※他の物理ドライブへ復元する可能性がある場合は、ドライブ単位のバックアップを行なってください。

・保存したバックアップから復元
バックアップファイルから復元を行ないます。詳細は122ページをご確認ください。

・ディスクのコピーを作成
パソコン内の物理ドライブの内容を丸ごと別の物理ドライブにコピーします。ハードディスクの換装時に使用します。詳細は125ページをご確認ください。

・終了
HDDバックアッププログラムを終了します。
ドライブからメディアを取り出してから実行してください。



6 バックアップ可能なドライブまたは、パーティションの一覧が表示されます。対象を選択して〔次へ〕ボタンをクリックします。

7 バックアップ先を選択します。

バックアップ先には CD/DVD などのメディアかハードディスクを選択することができます。選択が完了したら「次へ」ボタンをクリックします。

※[ハードディスクへバックアップ]を選択する場合は、バックアップ元とは異なるパーティションやハードディスクを選択してください。

※[ハードディスクへバックアップ]を選択する場合は、保存先のハードディスクの空き容量がバックアップするハードディスクよりも大きい必要があります。

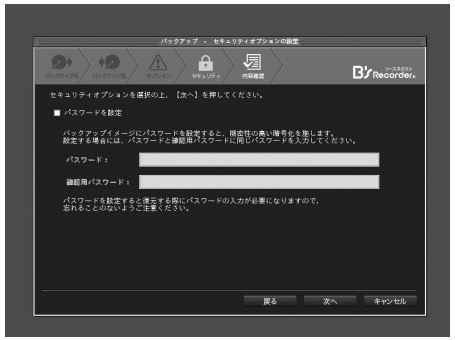
8 オプションの設定をします。
設定が完了したら「次へ」ボタンをクリックします。

・バックアップ名
任意のバックアップ名を入力します。半角12文字まで入力可能です。バックアップ名は必ず指定する必要があります。

・コメント
バックアップに対する説明などを入力します。半角128文字まで入力可能です。この設定は省略可能です。

・未使用クラスタスキップ
この項目をオンにするとバックアップするパーティションのファイルシステムが FAT12 / 16 / 32 または NTFS の場合、未使用のクラスタのバックアップを行ないません。バックアップファイルのサイズが小さくなり、作成時間も短くなります。通常は、オンで使用することをお勧めします。

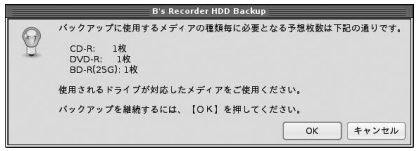
・圧縮
バックアップファイルを圧縮することによってサイズを小さくします。ファイルの圧縮を行なうため、作成時間が通常よりも増加します。



9 パスワードの設定をします。
オンにすると復元時にパスワードの入力が求められます。パスワードは半角32文字まで入力可能です。パスワードの入力を行なわない場合オフのまま「次へ」ボタンをクリックします。

10 設定の確認画面が表示されます。
内容を確認し、「完了」ボタンをクリックします。

11 バックアップの最終確認画面が表示されます。
「はい」ボタンをクリックすると、バックアップが開始されます。



12 バックアップ先を CD/DVD に指定している場合、バックアップに必要なおおよそのメディアの枚数が表示されます。メディアを準備し、「OK」ボタンをクリックします。

13 バックアップ中は、進捗状況が表示されます。

「キャンセル」ボタンをクリックすると、バックアップを中止できます。

※バックアップ先を CD/DVD に指定している場合、バックアップ中に次のメディアを挿入する画面が表示されます。都度新しいメディアに交換しバックアップを行なってください。

14 バックアップが完了すると次の画面が表示されます。

HDDバックアップを終了する場合は、ドライブからメディアを取り出して「はい」ボタンをクリックします。メインメニューに戻る場合は「いいえ」ボタンをクリックします。

4-5 バックアップしたHDDを リストア（復元）するには

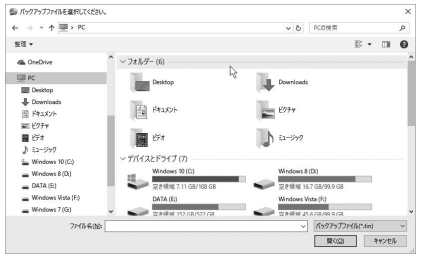
バックアップしたデータは、起動ディスクを使用してリストア（復元）できます。

リストアの方法

HDDバックアップでバックアップしたデータのリストア（復元）の方法は、起動ディスクを使用します。起動ディスクの作成方法については、116ページをご確認ください。

リストアの手順

1 HDDバックアップで作成した起動ディスクをパソコンに挿入し、再起動すると、HDDバックアップのプログラムが起動します。
「保存したバックアップから復元」ボタンをクリックします。



2 復元元を選択します。

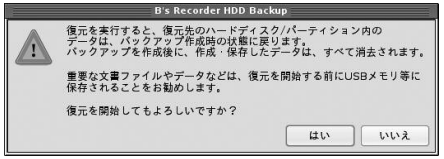
ファイル選択ダイアログからバックアップファイルがある場所を選択し、復元するファイルを選択します。
※バックアップファイルがCD/DVDなどにある場合、起動ディスクを取り出し、バックアップファイルが含まれている最初のCD/DVDを挿入して、保存されているバックアップファイルを選択します。

※ドライブ丸ごと復元する場合は、バックアップ元と同じか、それ以上の容量のハードディスクが必要です。
※パーティションを復元する場合は、バックアップ時とパーティション構成(容量含む)が完全に一致している必要があります。パーティションのサイズ等が変更されている場合、復元できませんのでご注意ください。

3 選択したバックアップファイルの情報が表示されます。
情報を確認し、「次へ」ボタンをクリックします。

4 復元先のパーティション、ドライブを選択して「完了」ボタンをクリックします。

5 バックアップ時にパスワードを設定していた場合、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。



6 復元前の確認画面が表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。
※復元を開始すると、復元先のデータは上書きされ、すべて消去されますのでご注意ください。必要なファイルがある場合は復元を中止し、USBメモリや他のハードディスクに保存したうえで、再度復元を行なうことをお勧めします。

7 復元中は、進捗状況が表示されます。
※復元時に CD/DVD に指定している場合、途中で次のメディアを挿入する画面が表示されます。都度メディアを交換し復元を行なってください。

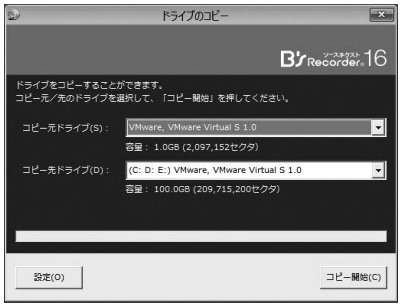
8 復元が完了すると次の画面が表示されます。
再起動を行なう場合は、ドライブからメディアを取り出して「はい」ボタンをクリックします。メインメニューに戻る場合は、「いいえ」ボタンをクリックします

4-6 HDDをコピーするには

B's Recorderは、ハードディスクを丸ごとコピーする機能を搭載しています。

HDDをコピーする方法

1 HDDバックアップで作成した起動ディスクをパソコンに挿入し、再起動するとHDDバックアップのプログラムが起動します。「ディスクのコピーを作成」ボタンをクリックします。



2 コピー元とコピー先を選択して、「コピー開始」ボタンをクリックします。
※コピー先のドライブはコピー元のドライブ以上の容量が必要です。

3 実行前の確認画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。
※コピーを開始すると、コピー先のデータはすべて失われますのでご注意ください。

4-7 ファイルバックアップを使用するには

ファイルバックアップとは、指定した条件に従い、ファイルをイメージファイルに変換し、各種メディアにバックアップする機能です。

ファイルバックアップ機能では、バックアップ対象に含めるフォルダと、更新日時や拡張子などのオプションを設定すると、バックアップ対象となるファイルを自動で判別します。また、データ圧縮機能を搭載し、複数枚のメディアへの自動データ分割にも対応しているため、大容量のファイルも効率的にバックアップできます。

ファイルバックアップの注意点

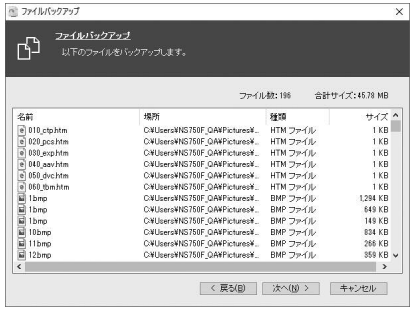
ファイルバックアップは、バックアップ対象のフォルダを一旦作業用フォルダにコピーしてから書き込みを行ないます。作業用フォルダのあるハードディスクには、作業用フォルダがコピーできるだけの十分な空き容量が必要です。

プリセットバックアップの手順

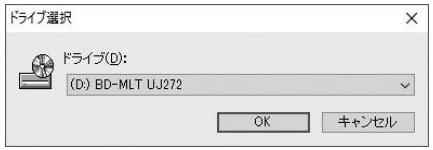
プリセットバックアップとは、バックアップ対象のフォルダをあらかじめ設定（プリセット）しておくことで、素早くバックアップを行なえる機能です。個人のデータフォルダやメールフォルダを日常的にバックアップする際に便利です。プリセットバックアップは次の手順で行ないます。

1 ［ツール］から［ファイルバックアップ］を起動します。

2 ファイルバックアップ画面が表示されます。バックアップするプリセットを一覧から選択します。



3 プリセットの条件に該当するファイルがリストアップされますので、［実行］ボタンをクリックします。



4 書き込みドライブの選択画面が表示されます。使用するドライブを選択して［OK］をクリックします。

5 書き込みドライブに、ブランクメディアの挿入を促すダイアログが表示されます。ブランクメディアを挿入してください。

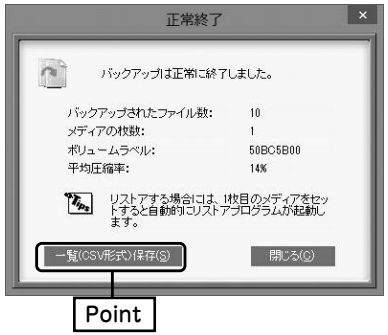
Point

データが書き込まれたCD-RWやDVD±RW、DVD-RAM、BD-RE、HD DVD-RWメディアなどの書き換え型メディアを挿入すると、書き込まれているデータを消去するかどうかを確認するダイアログが表示されます。メディアの消去を行なう場合は、[はい]ボタンをクリックします。別のメディアを使用する場合は、[いいえ]ボタンをクリックします。

6 バックアップ作業が始まります。作業中は進捗画面が表示されます。

Point

ファイルバックアップでは、バックアップしたいファイルの総容量が、挿入したメディアの容量を超えた場合、自動的に複数のメディアに分割して書き込みを行ないます。ブランクメディアの交換画面が表示されたら、指示に従ってメディアを交換してください。



7 バックアップ作業が終了すると、〔正常終了〕ダイアログが表示されます。〔閉じる〕ボタンをクリックしてください。ファイルの選択画面に戻りますので、〔キャンセル〕ボタンをクリックして終了します。

Point

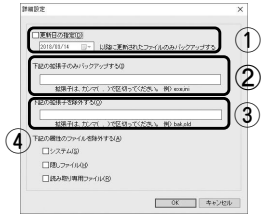
[CSV保存]ボタンをクリックすると、バックアップしたファイル一覧をCSV形式のファイルで保存できます。[ファイル一覧の保存]ダイアログが表示されたら、保存先やファイル名を入力し、[保存]ボタンをクリックしてください。

カスタムバックアップでバックアップするには

カスタムバックアップは、プリセットを使用せずにバックアップの対象や条件を指定したバックアップします。カスタムバックアップは以下の手順で行ないます。

1 [ツール] – 〔ファイルバックアップ]を選択し、ファイルバックアップを起動します。

2 ファイルバックアップ画面が表示されたら、[新規作成]をクリックします。



3 「バックアップするファイルの選択画面が表示されます。ツリーからバックアップするファイル、フォルダを選択し[次へ]をクリックします。

Point

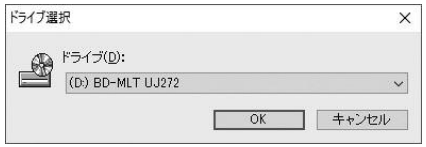
[リスト表示]をクリックすると、表示の切り替えができます。[+]ボタンをクリックしてバックアップするフォルダを登録できます。またはエクスプローラからファイル、フォルダをドラッグ&ドロップしても登録できます。

Point

[詳細]をクリックすると、バックアップ対象のファイルの絞り込みができます。設定は以下の通りです。
①更新日の指定
指定した日付以降に更新されたファイルのみバックアップ対象とします。
②下記の拡張子のみバックアップする
入力した拡張子のファイルのみバックアップ対象とします。ピリオドをつけず、複数指定する場合はカンマで区切ってください。
入力例 ： jpg,bmp,png
③下記の拡張子を除外する
入力した拡張子のファイルをバックアップ対象外とします。ピリオドをつけず、複数指定する場合はカンマで区切ってください。
入力例 ： tmp,bak,old
④下記の属性のファイルを除外する
このチェックボックスをオンにした属性のファイルを、バックアップ対象外とします。

4 バックアップ対象のファイルがリストアップされますので、[次へ]ボタンをクリックします。

5 バックアップの設定内容を保存できます。[設定名]と[コメント]、アイコンを指定し[今すぐ実行]をクリックします。今回バックアップをしない場合は[完了]をクリックします。



6 [今すぐ実行]をクリックした場合、書き込みドライブの選択画面が表示されます。使用するドライブを選択して[OK]をクリックします。

7 書き込みドライブに、ブランクメディアの挿入を促すダイアログが表示されます。ブランクメディアを挿入してください。

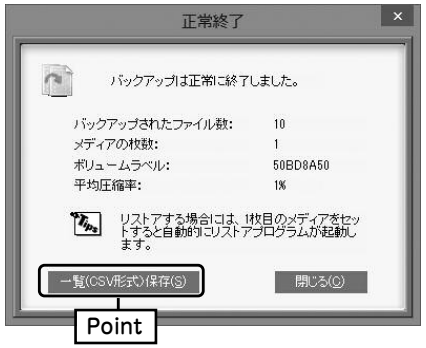
Point

データが書き込まれたCD-RWやDVD±RW、DVD-RAM、BD-RE、HD DVD-RWメディアなどの書き換え型メディアを挿入すると、書き込まれているデータを消去するかどうかを確認するダイアログが表示されます。メディアの消去を行なう場合は、[はい]ボタンをクリックします。メディアを消去を行なった後、書き込みが始まります。別のメディアを使用する場合は、[いいえ]ボタンをクリックし、メディアを交換してください。

8 バックアップ作業が始まります。作業中は進捗画面が表示されます。

Point

ファイルバックアップでは、バックアップしたいファイルの総容量が、挿入したメディアの容量を超えた場合、自動的に複数のメディアに分割して書き込みを行ないます。ブランクメディアの交換画面が表示されたら、メッセージに従ってメディアを交換してください。



9 バックアップ作業が終了すると、[正常終了]ダイアログが表示されます。[閉じる]ボタンをクリックしてください。ファイルの選択画面に戻りますので、[キャンセル]ボタンをクリックして終了します。

Point

[一覧（CSV形式）保存]ボタンをクリックすると、バックアップしたファイル一覧をCSV形式のファイルで保存できます。[ファイル一覧の保存]ダイアログが表示されたら、保存先やファイル名を入力し、[保存]ボタンをクリックしてください。その後、手順8の作業を行ないます。

プリセットを編集するには

登録したプリセットを編集するには、次の手順で行います。

1 [ツール] – [ファイルバックアップ]を選択し、ファイルバックアップを起動します。

2 ファイルバックアップ画画面が表示されたら、設定を編集するプリセットの左上にある設定(歯車)アイコンをクリックします。

3 現在の設定が反映された状態でバックアップファイルの画面が表示されますので、設定を編集し[次へ]をクリックします。

4 [設定名]と[コメント]、アイコンを指定し[完了]をクリックします

4-8 バックアップしたファイルをリストア（復元）するには

ファイルバックアップを行なったファイルのリストア（復元）は、バックアップメディアから起動する専用のリストアプログラムを使用します。ファイルのリストアは、次の手順で行ないます。

1 バックアップしたメディアをドライブに挿入します。バックアップしたメディアが複数だった場合は、最初に書き込んだメディアを挿入してください。

2 自動的にリストアソフトが起動します。リストアしたいフォルダやファイルのチェックボックスを「オン」にします。

Point

自動でリストアソフトが起動しなかった場合は、メディアを挿入したドライブを開き、「bsrestr.exe」ファイルをダブルクリックしてください。リストアソフトが起動します。

3 リストア方法を指定し、リストアを開始します。リストア方法は、次の2つから選択できます。

フォルダを指定してリストア	この方法を選択すると、指定したフォルダにバックアップファイルをリストアします。[フォルダの参照]ダイアログが表示されますので、リストア先のフォルダを選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。リストア処理が始まります。
元の場所にリストア	この方法を選択すると、元の場所にバックアップファイルをリストアします。クリック後すぐにリストア処理が始まります。

4 リストア処理が終了すると、ダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックしてください。ファイルリストア画面に戻ります。リストアプログラムを終了する時は、[閉じる]ボタンをクリックするか[ファイル]→[終了]を選択します。

Part

5

DVD-Video / ビデオCD作成編

B's Recorderには、MPEG1やMPEG2などの動画ファイルを活用する機能として、DVD-VideoやビデオCDの作成機能を搭載しています。ここでは、それぞれの作成方法を解説します。

5-1　ビデオCDを作るには ……136

5-2　ビデオCD作成の手順 ーその2 メインウィンドウ編 ……138

5-3　再生メニュー付きのビデオCDを作るには……139

5-4　MPEG変換機能を使うには ……141

5-5　DVD-Videoを作成するには ……144

注意　B's Recorderで作成できるDVD-Videoは、メニューなしのみです。メニュー付きのDVD-Videoを作成する場合は、B's DVDビデオ 4（B's Recorder GOLDのみ同梱）をご利用ください。

5-1 ビデオCDを作るには

B's Recorderは、パソコン、ビデオCDプレーヤー、ビデオCDに対応したDVDプレーヤーなどで再生できるビデオCDを作成できます。

注意：B's RecorderのOEMバージョンなど一部の製品ではMPEG2ファイルをご使用いただけない場合があります。

ビデオCDの作成について

ビデオCDの作成は、あらかじめMPEG1形式の動画ファイルを準備し、B's Recorderに登録して書き込む、という手順で行ないます。また、MPEG1形式のファイルではない場合でも、B's Recorderでは再エンコードを行ないビデオCDの作成が行なえます。しかし、異なるデータ形式の動画ファイルから再エンコードを行なうと画質の劣化にもつながるので、あらかじめビデオCDに準拠したMPEG1ファイルをご用意いただくことをおすすめします。ビデオCDに準拠したMPEG1ファイルの詳細は下記をご参照ください。

●ビデオCD作成に必要なMPEG1データの形式

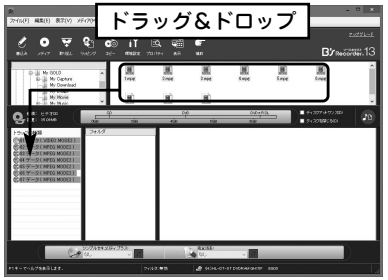
ビデオストリーム	サイズ:352×240または352×288 アスペクト比:0.9157または1.0950 ピクチャーレート:23.976Hz、25Hz、29.9Hz のいずれか ビットレート:1152Kbps
オーディオストリーム	レイヤー:2 ビットレート:224Kbps サンプリングレート:44.1kHz チャンネル:シングル以外

注意
- **ビデオ/オーディオストリームは、共存している必要があります。**
- **各ストリームの先頭パックには、システムヘッダが存在している必要があります。**
- **MPEG1を作成できるソフトウェア/周辺機器をご使用の場合、「ビデオCD」の設定があればそちらをお選びください。**

5-2 ビデオCD作成の手順

メインウィンドウを使ってビデオCDを作成すると、ギャップサイズ編集など詳細な設定が行なえます。ここでは、その手順を説明します。

1 B's Recorderを起動します。補助メニューが表示されたら、[閉じる]ボタンをクリックし、補助メニューを終了します。

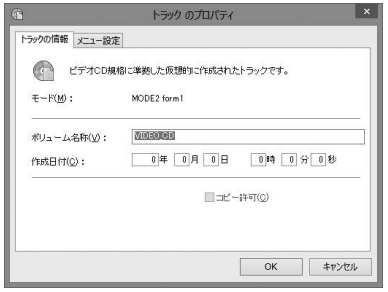


2 MPEG1形式の動画ファイルをトラックウェルにドラッグ＆ドロップで登録します。

Point

ビデオCDに準拠していない動画ファイルを登録した場合、再エンコードのダイアログが表示されます。[変換開始]をクリックすると保存先を指定するダイアログが表示されます。保存先とファイル名を指定して変換を開始してください。変換が完了すれば自動でトラックウェルに登録されます。

3 トラックウェルに登録された最初のトラック「01 データ(VIDEO MODE2)」をダブルクリックして「トラックのプロパティ」を開き、「ボリューム名称」と「作成日時」の設定を行ないます。



Point

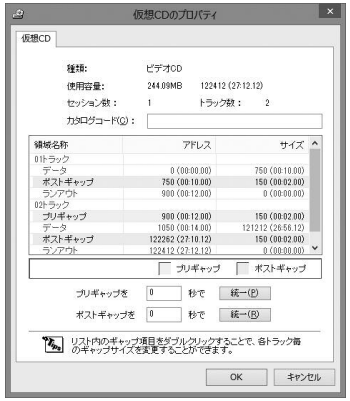
トラックのプロパティは、最初のトラックをクリック後、[プロパティ]ボタンをクリックするか、[ファイル]→[プロパティ]と選択するか、トラックを右クリックしてメニューから[プロパティ]を選択することでも行なえます。

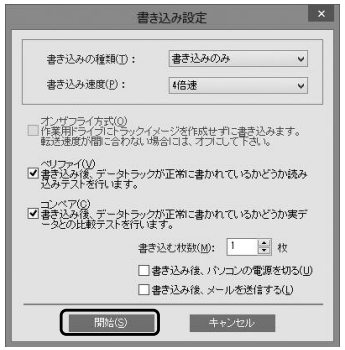
4 書き込み方式の設定を行ないます。「ディスクアットワンス」をクリックしてチェックをオンにします。

5 [編集]→[ギャップサイズ編集]を選択し、ギャップ(空白)サイズの編集を行ないます。変更したいトラックのギャップ(プリギャップまたはポストギャップ)をダブルクリックし、数値を入力してください。通常は、初期設定のままで問題ありません。

Point

「ディスクアットワンス」のチェックボックスを「オン」に設定している場合は、すべてのギャップの編集を行なえます。「オフ」の場合は、ポストギャップのみ設定できます。





6 ドライブにメディアをセットします。[書込み]ボタンをクリックし、書き込みに関する設定を行ないます。書き込みに必要な設定を行ない、[開始]ボタンをクリックします。

5-3 再生メニュー付きのビデオCDを作るには

B's Recorderは、再生メニューつきのビデオCDを作成できます。ここでは、メニューの作成手順を説明します。

再生メニューの作成は、あらかじめ準備しておいた静止画を、「トラックのプロパティ」で登録することで行ないます。メニューへの登録は、次の手順で行ないます。

1 トラックウェルに登録された最初のトラック「01データ(VIDEO MODE2)」をダブルクリックします。

Point

再生メニューつきのビデオCDとは、「Video CD 2.0 PBC(PlayBack Control)」という規格に対応したビデオCDです。B's Recorderは、「Video CD 2.0 PBC」に対応したメニューを1つ作成できます。また、トラックのプロパティは、最初のトラックをクリック後、[プロパティ]ボタンをクリックするか、[ファイル]→[プロパティ]と選択するか、トラックを右クリックしてメニューから[プロパティ]を選択することでも行なえます。

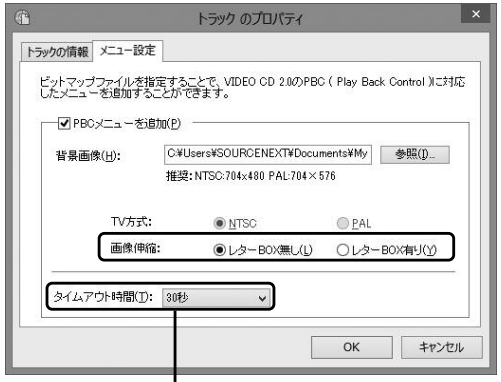
2 「トラックのプロパティ」ダイアログが開きます。

①「メニュー設定」タブをクリックします。
②「PBCメニューを追加」のチェックボックスを「オン」に設定します。
③ [参照]ボタンをクリックします。

④メニューとして登録したい静止画を選択して、[開く]ボタンをクリックします。

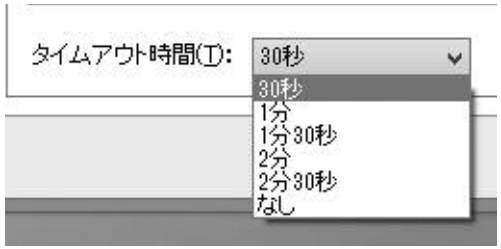
Point

Video CD 2.0 PBC(Play Back Control)用のメニューに使用する静止画は、「BMP形式」である必要があります。



3 「画像伸縮」の設定を行ないます。

「画像伸縮」は、出力する映像のサイズの枠にどのように配置するかの設定です。元の画像のアスペクト比(縦横の比率)を維持したまま、表示領域に伸縮してはめ込み、はみ出した部分のトリミングを行なう「レターBOX無し」と、元の画像のアスペクト比(縦横の比率)を維持したまま、表示領域に伸縮してはめ込み、足りない部分には黒枠を追加する「レターBOX有り」から選択できます。



4 メニューの再生を行なう「タイムアウト時間」の設定を行ないます。リストから再生したい時間を選択してください。ここで設定した時間が経過すると自動的に動画の再生が始まります。また、[なし]を選択すると、再生操作を行なうまで、メニューの表示を行ないます。

5 すべての設定が終了したら[OK]ボタンをクリックします。

6 メインウインドウに戻ります。「書込み」ボタンをクリックし、書き込みを行なってください。

5-4 MPEG変換機能を使うには

B's Recorderには、動画ファイルをDVD-VideoやビデオCD作成に使用できる形式に変換するMPEG変換機能が搭載されています。

注意：B's Recorder（GOLDは除く）には、MPEG2ファイルへの変換機能は付属しません。

B's RecorderのMPEG変換機能は、AVI/WMV/ASFといった動画ファイルをMPEG1/2形式ファイルに変換したり、準備したMPEGファイルがDVD-VideoやビデオCD作成用に使用できるかチェックし、使用できない時は使用できる形式に変換することができます。MPEG変換を行なうには、以下の手順になります。

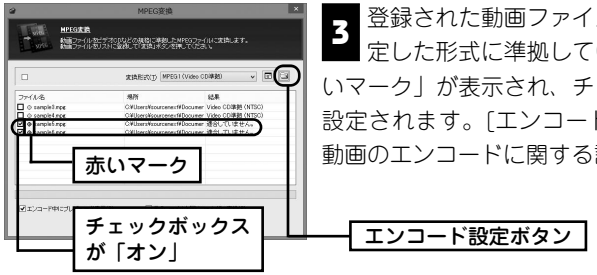
1 MPEG変換を起動します。[ツール]→[MPEG変換]を選択してください。

2 [MPEG変換]ダイアログで、変換形式の選択と動画の登録を行ないます。

① 「変換形式」の選択を行ないます。ビデオCDを作成する場合は[MPEG1（Video CD準拠)]、DVD-Videoを作成する場合は[MPEG2(DVD-Video 準拠)]を選択します。

② [ファイルを開く]ボタンをクリックします。

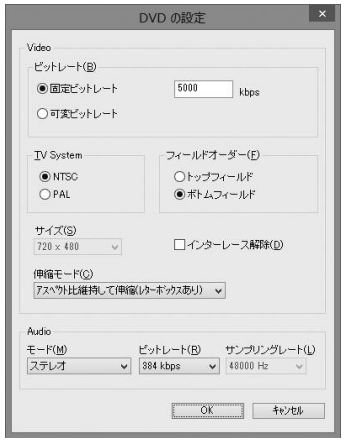
③ [ファイルを開く]ダイアログで、変換または形式をチェックしたい動画ファイルを選択して、[開く]ボタンをクリックします。



3 登録された動画ファイルのチェックが行なわれ、指定した形式に準拠していない動画ファイルには「赤いマーク」が表示され、チェックボックスが「オン」に設定されます。[エンコード設定]ボタンをクリックし、動画のエンコードに関する設定を行なってください。

4 「Video CDの設定（またはDVDの設定）」画面が表示されたら、次の項目について設定を行ない、[OK]ボタンをクリックします。

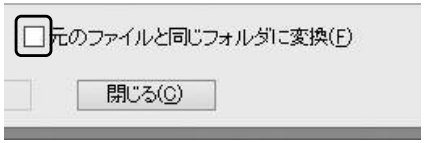
MPEG1(Video CD準拠)の場合



MPEG2(DVD-Video準拠)の場合

注意　**B's RecorderのOEMバージョンなど一部の製品では設定画面が異なる場合があります。**

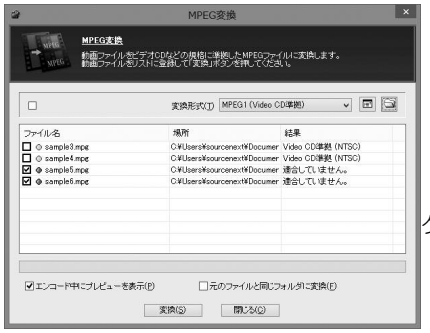
Videoビットレート（MPEG2のみ）	エンコード時の画質を設定します。常に同じビットレートでエンコードを行なう「固定ビットレート」と、映像の内容によってビットレートを可変する「可変ビットレート」が選べます。テキストボックスは、ビットレート値を入力します。
TV System（MPEG1/2共通）	テレビ放送の映像信号の方式を設定します。NTSCは主に日本や北米などで使用されており、走査線の数525本、映像を約30フレーム/秒で再生を行ないます。PALは、英国や西ヨーロッパの一部、アジアで使用されている映像信号形式で、NTSC方式とは互換性がありません。日本国内で使用する時は「NTSC」を選択します。
フィールドオーダー（MPEG2のみ）	映像を再生するフィールドの順番を設定します。TVの信号は走査線を奇数ラインと偶数ラインの2つの信号に分割し、これを交互に表示(描画)することで1つのフレーム(1コマ)を作っています。この奇数ライン/偶数ラインのことを「フィールド」と呼び、偶数ラインを「トップフィールド」、奇数ラインを「ボトムフィールド」と呼びます。
インターレース解除（MPEG2のみ）	チェックボックスをオンにすると、一般的なアナログ放送のインターレース方式の映像をパソコンで再生した際に生じる「コーミング」と呼ばれる横縞を除去します。
伸縮モード（MPEG1/2共通）	出力する映像のサイズの枠にどのように配置するかを設定します。元の画像のアスペクト比(縦横の比率)を維持したまま表示領域にはめ込み、はみ出した部分をトリミングする「アスペクト比維持して伸縮(レターボックスなし)」、元の画像のアスペクト比を維持したまま表示領域にはめ込み、足りない部分には黒枠を追加する「アスペクト比維持して伸縮(レターボックスあり)」、アスペクト比を維持せずに伸縮して表示領域にはめ込む「アスペクト比維持せず伸縮」、伸縮せずに表示領域にはめ込む「伸縮なし」から選択できます。
Audioモード（MPEG1/2共通）	ステレオ音声信号の記録方式を設定します。LchとRchを独立して記録する「ステレオ」、L+Rの和信号とL-Rの差信号を記録するMSステレオ方式と通常のステレオ方式をフレームごとに切り替えてエンコードする「ジョイントステレオ」、L/Rそれぞれのチャンネルを独立してエンコードする「デュアルチャンネル」が選べます。
Audioビットレート（MPEG2のみ）	エンコード時の音質を設定します。64～384Kbpsの間で10段階の設定が選べます。



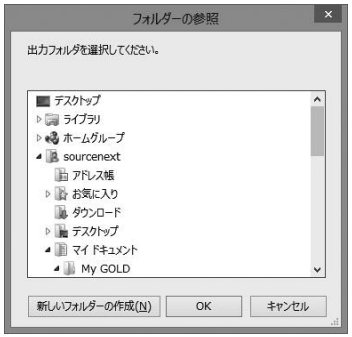
5 ファイルの保存先を設定します。「元ファイルと同じフォルダに変換」のチェックボックスを「オフ」に設定すると、変換開始時に保存先フォルダの選択が行なえます。また「オン」に設定すると、登録した動画ファイルと同じフォルダに変換した動画ファイルを保存します。

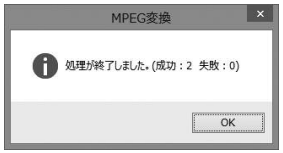
Point

［エンコード中にプレビューを表示］のチェックボックスを「オン」に設定すると、変換中に動画のプレビューが行なわれます。



6 設定が終了したら、[変換]ボタンをクリックして変換作業を開始します。「元ファイルと同じフォルダに変換」のチェックボックスを「オフ」に設定している時は、「フォルダの参照」ダイアログが開きます。保存先フォルダを選択し、[OK]ボタンをクリックすると変換作業が始まります。





7 変換作業が終了すると、「処理が終了しました」というダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックしてください。「MPEG変換」ダイアログを終了する時は、[閉じる]ボタンをクリックします。

5-5 DVD-Videoを作成するには

本製品ではメニューなしのDVDビデオを作成できます。

1 補助メニューから「DVDビデオ」をクリック、または「ツール」メニューの「DVDビデオの作成」をクリックします。

2 「DVDビデオ作成」画面が表示されますので、上段のファイルブラウザまたはエクスプローラから書き込む動画を画面下段のリストにドラッグ&ドロップします。

※DVDビデオはリストに登録した順番で再生されます。順番を入れ替えるにはリスト内のファイルをドラッグ&ドロップします。

3 ボリュームラベルを入力し、「開始」ボタンをクリックします。

Part 6 リファレンス

ここでは、参考資料やキー操作、CD-RWやDVD-RW/+RWなどのメディアの消去の仕方など、B's Recorderを使用する上で、知っておくと便利なことについて説明しています。

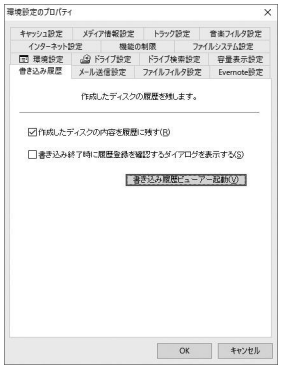
書き込み履歴ビューアーの使い方について ……146
書き込み履歴ビューアーの起動について ……146
書き込み履歴ビューアーの画面構成 ……147
メディアの情報を手動で書き込み履歴ビューアーに登録するには ……148
ファイルから情報を登録するには ……149
書き込み履歴ビューアーで検索するには ……151
書き込み履歴ビューアーを使用したファイル/フォルダのコピーについて ……154
書き込み履歴ビューアーの操作について ……155
書き込み履歴ビューアーの環境設定について ……156
リッピングの画面構成について ……157
メディア情報の取得 ……158
CD TEXT情報の表示 ……158
メディアの消去について ……159
ファイルブラウザの表示の変更 ……160
ドライブの再検索 ……160
ファイル名の互換性について ……161
DVD-R/RW/-R DLの対応について ……163
DVD+RW/+R/+R DLの対応について ……164
DVD-RAMの対応について ……166
BD-Rの対応について ……168
BD-REの対応について ……169
HD DVD-R/RWの対応について ……170
メディアのコピーの可否について ……171
バージョン情報の確認 ……176
サポートサービスについて ……177

■ 書き込み履歴ビューアーの使い方について

書き込み履歴ビューアーは、B's Recorderで作成したデータメディアの作成履歴を閲覧するためのソフトウェアです。どのメディアに目的のファイル/フォルダが書き込まれているかを検索でき、検索結果をもとに、作成済みメディアから目的のファイル/フォルダをHDDにコピーすることもできます。ここでは、書き込み履歴ビューアーの使い方について説明します。

■ 書き込み履歴ビューアーの起動について

書き込み履歴ビューアーは、B's Recorderの環境設定のプロパティの「書き込み履歴」タブから起動できる他、単体アプリケーションとしても起動できます。単体アプリケーションとして起動するには、B'sスタートパネルを起動し、［機能を選ぶ］-［データ］-［書き込み履歴ビューアー］をクリックします。書き込み履歴ビューアーを終了する時は、［閉じる］ボタンをクリックします。



環境設定のプロパティから起動する場合

B's スタートパネルから起動する場合

書き込み履歴ビューアーを終了する場合

注意

書き込み履歴ビューアーに保存される情報はデータメディアのみです。オーディオCDやビデオCDなどの情報は登録されません。また、HDDバックアップで作成したメディアの情報も登録されません。書き込み履歴ビューアーをB's Recorder起動中に使用する場合は、履歴の閲覧やファイル/フォルダの検索のみが行なえます。検索結果を使用したファイル/フォルダのコピーなどを行なうことはできません。また、B's Recorder起動中はディスクからのデータ登録も行なえません。

■ 書き込み履歴ビューアーの画面構成

書き込み履歴ビューアーは、次のような画面で構成されています。

①ディスク登録	このボタンをクリックすると、書き込み履歴ビューアーに手動で情報の登録を行なえます。詳細は、148ページをご参照ください。
②検索	このボタンをクリックすると、登録情報からファイルやフォルダの検索を行なえます。詳細は、151ページをご参照ください。
③環境設定	このボタンをクリックすると、書き込み履歴ビューアーの環境設定を行なえます。詳細は、156ページをご参照ください。
④ディスクリスト	このウィンドウには、登録メディアの情報一覧が表示されます。また、登録メディアをクリックすると、そのメディアの情報がディスク詳細情報やフォルダツリーに表示されます。右クリックすると、選択したメディアを対象にした検索や、登録の削除、そのメディアに書き込まれているすべてのデータをHDDにコピーすることもできます。ただし、HDDへのコピーには、オリジナルのメディアが必要です。詳細は、154ページをご参照ください。
⑤ディスク詳細情報	このウィンドウには、ディスクリストで選択したメディアのディスク名や作成日、ラベル名、書き込まれれているファイルの総数、コメントなどの情報が表示されます。ディスク名は、通常、書き込み履歴登録時に設定されている「ボリュームラベル」が自動的に設定されますが、ファイルから手動で情報登録を行なった場合のみユーザーが任意に設定/編集できます。ラベル名やコメントは、ユーザーが任意に設定でき、ラベル名は全角64文字まで設定できます。コメントは、全角128文字まで設定できます。
⑥フォルダツリー	このウィンドウには、ディスクリストで選択したメディアのフォルダ情報が表示されます。また、右クリックすると、選択したフォルダを対象にした検索や、選択フォルダのHDDへのコピーが行なえます。ただし、HDDへのコピーには、オリジナルのメディアが必要です。詳細は、151/154ページをご参照ください。
⑦ファイルリスト	このウィンドウには、フォルダツリーで選択したフォルダ内に書き込まれているファイルの情報が表示されます。また、右クリックすると、選択したファイルをHDDにコピーできます。ただし、HDDへのコピーには、オリジナルのメディアが必要です。詳細は、154ページをご参照ください。

メディアの情報を手動で書き込み履歴ビューアーに登録するには

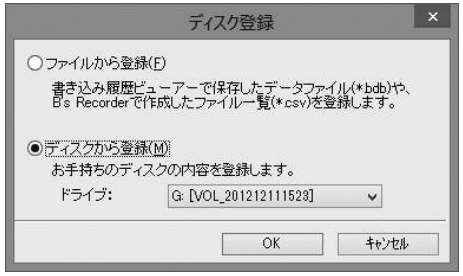
書き込み履歴ビューアーへの情報の登録は、環境設定のプロパティの「書き込み履歴」タブで「作成したメディアの内容を履歴に残す」のチェックボックスを「オン」に設定している時は自動的に行なわれる他、手動で情報を登録することもできます。手動で情報を登録する時は、ファイルから登録する方法とメディアから登録する方法の2種類があります。

メディアから登録するには

1 B's スタートパネルを起動し、［機能を選ぶ］-［データ］-［書き込み履歴ビューアー］をクリックします。

> **注意**　**手動での情報の登録は、B's Recorder起動中には行なえません。B's Recorderを終了し、書き込み履歴ビューアーを単独で起動してください。**

2 書き込み履歴ビューアーが起動します。登録したいメディアをドライブに挿入し、［ディスク登録］ボタンをクリックします。



3 ［ディスク登録］ダイアログが表示されます。［ディスクから登録］を選択し、読み出しドライブを選択してください。設定が終わったら［OK］ボタンをクリックします。

> **Point**
> **［ファイルから登録］を選択すると、書き込み履歴ビューアーで保存した拡張子「.bdb」のデータファイルやB's Recorderで作成したCSV形式の書き込みファイル一覧から情報を登録できます。詳細は、150ページをご参照ください。**

4 メディアの情報が読み込まれ、［登録情報］ダイアログが表示されます。登録情報を設定します。

①メディアにつけるラベル名（名称）を全角64文字以内で入力します。
②コメントを全角128文字以内で入力します。
③すべての設定が終わったら、［登録］ボタンをクリックします。

> **Point**
> **続けて登録を行ないたい時は、［登録後にトレイをオープンし、続けて登録する］のチェックボックスを「オン」に設定します。現在作業中のメディアの情報を登録後、ドライブのトレーを開きますので、メディアを交換し、ドライブのトレーを閉じてください。再度、［登録情報］ダイアログが表示されます。**

5 書き込み履歴ビューアーに情報が登録されます。

ファイルから情報を登録するには

書き込み履歴ビューアーへの手動での情報登録は、書き込み履歴として保存された拡張子「.bdb」のデータファイルやB's Recorderで作成したファイル一覧（CSV形式）のファイルからも行なえます。登録できるファイルは、それぞれ次の方法で確認または作成を行なえます。

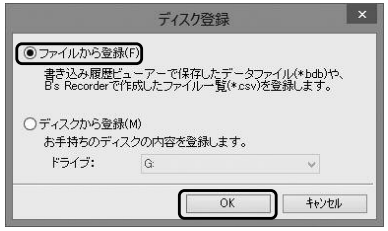
拡張子「.bdb」のデータファイル	拡張子「.bdb」のデータファイルは、書き込み履歴ビューアーにデータが登録されると自動的に作成されるファイルです。通常の使用では、このファイルを新規登録することはありませんが、OSなどを再インストールしたり、B's Recorderがインストールされた別のパソコンでも書き込み履歴ビューアーを使用する場合に登録します。拡張子「.bdb」のデータファイルは、書き込み履歴ビューアーの環境設定で「保存場所」に指定されたフォルダに保存されています。詳細については156ページをご参照ください。
ファイル一覧（CSV形式）のファイル	ファイル一覧（CSV形式）のファイルは、B's Recorderのメインウィンドウでデータメディアを作成する時やファイルバックアップを使用した時に作成できます。メインウィンドウでは、［トラックのプロパティ］を表示し、［ファイル一覧（CSV形式で保存）］ボタンをクリックすることで作成できます。 ［トラックのプロパティ］の表示方法について、40ページをご参照ください。また、ファイルバックアップについては126ページをご参照ください。

ファイルからの情報登録手順

書き込み履歴ビューアーにファイルから情報を登録する時は、次の手順で行ないます。

1 B'sスタートパネルを起動し、［機能を選ぶ］-［データ］-［書き込み履歴ビューアー］をクリックします。

2 書き込み履歴ビューアーが起動したら、［ディスク登録］ボタンをクリックします。

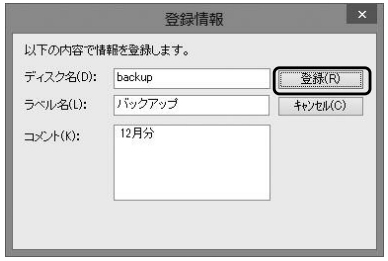


3 ［ディスク登録］ダイアログが開きます。［ファイルから登録］を選択し、［OK］ボタンをクリックしてください。

4 ［ファイルを開く］ダイアログが開きます。登録したいファイルを選択し、［開く］ボタンをクリックします。

Point

初期値では、ファイルの種類に「CSVファイル」が設定されています。拡張子「.bdb」のデータファイルを登録したい時は、［ファイルの種類］のリストボタンをクリックし、［書き込み履歴データ(.bdb)］を選択してください。



5 ［登録情報］ダイアログが開きます。ラベル名、コメントなどを入力し、［登録］ボタンをクリックしてください。書き込み履歴ビューアーに情報が登録されます。

■書き込み履歴ビューアーで検索するには

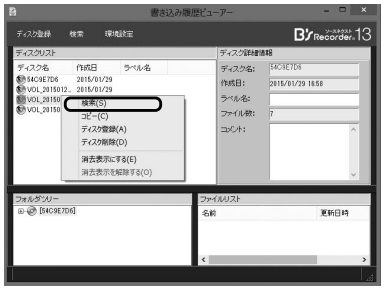
書き込み履歴ビューアーは、登録情報をもとにしたファイルやフォルダの検索機能が搭載されています。ファイル/フォルダの検索を行なう時は、次の手順で行ないます。

1 「ファイル検索画面」ダイアログを表示します。「ファイル検索画面」ダイアログは、検索対象をどこにするかによって、3種類の起動方法があります。

すべてのデータを対象に検索する場合

すべての登録データを対象に検索を行なう場合は、［検索］ボタンをクリックします。

特定のメディアを対象にして検索を行なう場合

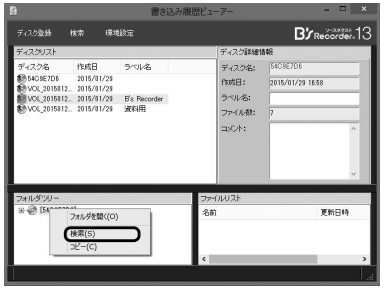


検索対象にしたいメディアを選択後、右クリックして、［検索］を選択します。

Point

検索対象にしたいメディアは、複数選択できます。複数選択する場合は、［Ctrl］キーや［Shift］キーを押しながら、選択したいメディアをクリックすることで行なえます。

特定のメディアの特定のフォルダを対象に検索を行なう場合



検索対象にしたいメディアを選択後、フォルダツリーから、検索対象にしたいフォルダを選択し、右クリックして、［検索］を選択します。

2 「ファイル検索画面」が開きます。次の項目について、検索条件を設定します。

①ファイル名に含まれる文字列	ここでは、検索対象とするファイル名に含まれる文字列を設定できます。複数の文字列も設定でき、その場合は、文字列と文字列の間を「;」（半角のセミコロン）で区切って設定します。また、［プルダウンリスト］ボタンをクリックすると、以前使用した文字列の履歴から設定する文字列を選択できます。［CLR］ボタンをクリックすると、以前使用した文字列の履歴をクリアします。
②コメントに含まれる文字列	ここでは、検索対象とするディスクのコメントに含まれる文字列を設定できます。複数の文字列も設定でき、その場合は、文字列と文字列の間を「;」（半角のセミコロン）で区切って設定します。また、［プルダウンリスト］ボタンをクリックすると、以前使用した文字列の履歴から設定する文字列を選択できます。［CLR］ボタンをクリックすると、以前使用した文字列の履歴をクリアします。
③検索対象	ここでは、検索対象を設定します。検索対象は、すべての登録情報を対象に検索を行なう「すべてのディスクから検索する」、ディスクリストで選択したメディアを対象に検索を行なう「選択したディスクから検索」、フォルダツリーで選択したフォルダを対象に検索を行なう「選択したフォルダから検索」の3種類から選択できます。 注意　**特定のメディアやフォルダから検索を行なうためには、事前に対象としたいメディアやフォルダを選択しておく必要があります。**
④ディスク	検索対象とするメディアの作成日の期間を設定できます。以降のチェックボックスを「オン」に設定し、日時を設定すると、設定した日時以降を対象に検索を行ないます。以前のチェックボックスを「オン」に設定し、日時を設定すると、設定した日時以前を対象に検索を行ないます。以降/以前の両方のチェックボックスを「オン」に設定すると、設定した日時の間を対象に検索を行ないます。
⑤ファイル	検索対象とするファイルの更新日の期間を設定できます。以降のチェックボックスを「オン」に設定し、日時を設定すると、設定した日時以降を対象に検索を行ないます。以前のチェックボックスを「オン」に設定し、日時を設定すると、設定した日時以前を対象に検索を行ないます。以降/以前の両方のチェックボックスを「オン」に設定すると、設定した日時の間を対象に検索を行ないます。

3 すべての設定を行なったら、［検索開始］ボタンをクリックします。検索結果が表示されます。［ファイル検索画面］ダイアログを終了する時は、［閉じる］ボタンをクリックします。

Column　検索されたファイル/フォルダの操作について

書き込み履歴ビューアーでは、検索されたファイル/フォルダが書き込まれたメディアをドライブに挿入することで、HDDへにコピーしたり、読み出すことができます。検索結果でリストアップされたファイルをHDDへコピーしたい時は、コピーしたいファイルを選択し、[コピー開始]ボタンをクリックするか、ファイル選択後、右クリックし、[コピー]を選択します。フォルダ/ファイルは、複数まとめて選択でき、その場合は、[Ctrl]キーや[Shift]キーを押しながら、ファイル/フォルダを選択します。詳細については、155ページをご参照ください。また、読み出したい場合は、読み出したいファイル/フォルダをダブルクリックするか、右クリックし、[開く]または[フォルダを開く]を選択します。

注意　**検索されたファイル/フォルダのコピーや読み出しは、そのファイル/フォルダが書き込まれたメディアをドライブに挿入する必要があります。また、この操作は、B's Recorder起動中には行なえません。B's Recorderを終了後、書き込み履歴ビューアーを単独で起動する必要があります。**

■ 書き込み履歴ビューアーを使用したファイル/フォルダのコピーについて

書き込み履歴ビューアーでは、登録された履歴情報を元にファイルやフォルダのコピーを行なえます。書き込み履歴ビューアーを使用したファイル/フォルダのコピーは、次の手順で行ないます。

注意　**ファイル/フォルダのコピーは、対象となるファイル/フォルダが書き込まれたメディアをドライブに挿入する必要があります。また、この作業は、B's Recorder起動中には行なえません。B's Recorderを終了後、書き込み履歴ビューアーを単独で起動する必要があります。**

1 コピーしたいメディアまたはファイル/フォルダを選択します。

① メディアに書き込まれているファイル/フォルダをすべてコピーしたい時は、ディスクリストからコピーしたいメディアを右クリックし、[コピー]を選択します。

②特定のメディアに書き込まれているフォルダをコピーしたい時は、メディアを選択後、コピーしたいフォルダを右クリックし、[コピー]を選択します。

③特定のメディアに書き込まれているファイルをコピーしたい時は、フォルダ選択後、コピーしたいファイルで右クリックし、[コピー]を選択します。

2 [フォルダの参照]ダイアログが開きます。保存先を設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

3 [ディスク挿入]ダイアログが開きます。コピーしたいファイルやフォルダが書き込まれているメディアをドライブに挿入します。

Point

環境設定で、[ディスク要求時にドライブを選択する]のチェックボックスを「オン」に設定している場合は、読み出しに使用するドライブを選択する必要があります。ドライブの選択は、「ドライブ」のリストボタンをクリックすることで行なえます。

4 ファイル/フォルダのコピーが実行されます。また、コピー作業が終了すると、書き込み履歴ビューアーに戻ります。

■ 書き込み履歴ビューアーの操作について

書き込み履歴ビューアーは、登録したデータの削除や非表示化、ラベル名やコメントの編集などの操作を行なえます。

登録情報を削除するには

登録情報を削除したい時は、ディスクリスト内の削除したい情報を右クリックし、[ディスク削除]を選択します。[消去表示にする]を選択すると、選択した情報を消去表示にします。[消去表示を解除する]を選択すると情報を表示します。

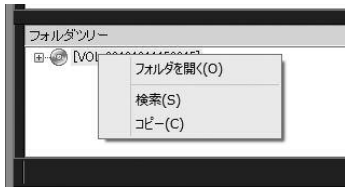
Point

消去表示を選択した場合、環境設定の消去設定で「消去したディスクを非表示にする」が「オン」に設定されているとその情報は表示されません。「オフ」になっている場合は、消去表示に設定された情報がグレーの背景色で表示されます。消去表示の解除は、「消去したディスクを非表示にする」を「オフ」に設定する必要があります。

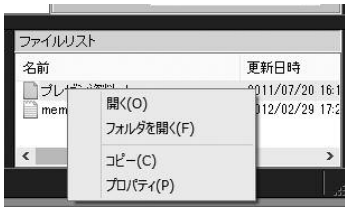
ラベル名やコメントを編集するには

ディスクリストに登録された情報は、ラベル名やコメントを自由に編集できます。編集を行なう時は、編集したいメディアを選択し、[ディスク詳細情報]ウィンドウ内の「ラベル名」および「コメント」欄に入力を行ないます。ラベル名は全角64文字、コメントは全角128文字以内で入力できます。

フォルダ/ファイルリスト内の操作について



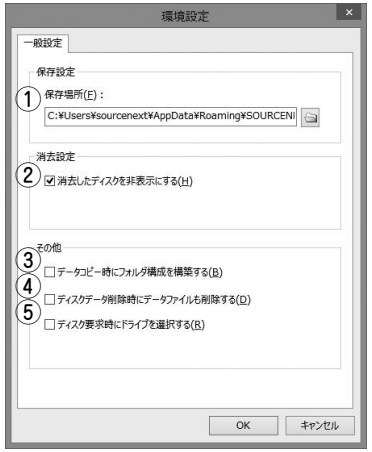
フォルダ/ファイルリスト内では、選択したフォルダ/ファイルのコピーが行なえるだけでなく、それを読み出すこともできます。フォルダ/ファイルを読み出したい時は、読み出したいファイル/フォルダを右クリックし、[開く]または[フォルダを開く]を選択します。



注意　**ファイル/フォルダの読み出しは、対象となるファイル/フォルダが書き込まれたメディアをドライブに挿入する必要があります。また、この操作は、B's Recorder起動中には行なえません。**

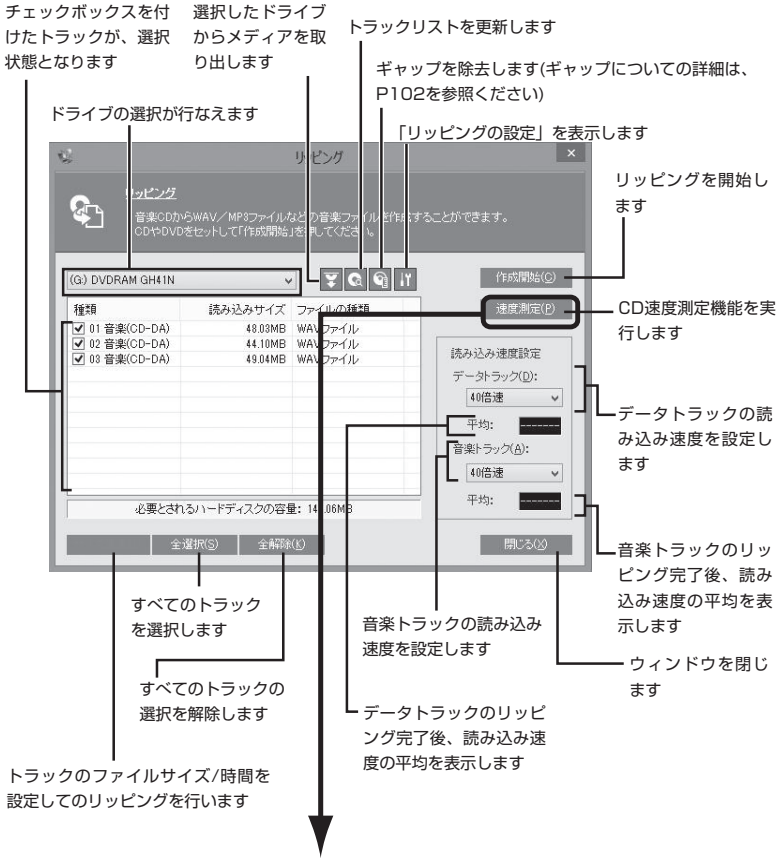
■ 書き込み履歴ビューアーの環境設定について

書き込み履歴ビューアーは、[環境設定]ダイアログで、各種設定を行なえます。[環境設定]ダイアログは、[環境設定]ボタンをクリックすることで起動し、次の項目について設定できます。

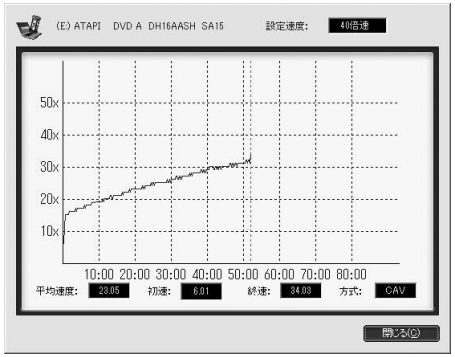


①保存場所	ここでは、書き込み履歴のデータファイル（.bdb）の保存先を設定できます。保存場所の変更は、[ ]ボタンをクリックし、[フォルダの参照]ダイアログが表示されたら、保存先を選択し、[OK]ボタンをクリックすることで行ないます。
②消去したディスクを非表示にする	このチェックボックスを「オン」に設定すると、登録された情報を書き込んだメディアが書き換え型メディアであった場合、そのメディアを消去すると、履歴情報を非表示にします。「オフ」に設定すると、メディアの消去を行なっても情報が表示されます。
③データコピー時にフォルダ構成を構築する	このチェックボックスを「オン」に設定すると、指定したフォルダ内に元のフォルダツリー構造を構築し、ファイルをコピーします。「オフ」に設定すると、すべてのファイルを指定したフォルダにコピーします。
④ディスクデータ削除時にデータファイルも削除する	このチェックボックスを「オン」に設定すると、ディスクリストから、登録情報の削除を行なった場合に、そのデータファイルの削除も行ないます。「オフ」に設定すると削除を行ないませんので、そのデータを利用して、再度、情報を登録することができます。
⑤ディスク要求時にドライブを選択する	このチェックボックスを「オン」に設定すると、ファイル/フォルダのコピーやファイル/フォルダの読み出し操作（「開く」「フォルダを開く」）を行なった時に、メディアを挿入したドライブを指定できます。「オフ」に設定すると、すべてのドライブから自動的に検索が行なわれます。

■ リッピングの画面構成について



Point



CD速度測定機能について

CD速度測定機能を使用すると、実際のリッピング時のドライブ速度を測定できます。速度は数値だけでなくグラフでも表示されますので、CDの記録時間とリッピング速度の関係が詳細にわかります。
表示された平均速度以下にドライブの読み取り速度を設定することで、より確実なリッピングが行なえます。

メディア情報の取得

B's Recorderは、[メディア]ボタンをクリックすると、ドライブに挿入されたメディアにどのような情報が書き込まれているか確認できます。また、RWメディアであれば消去を行なうこともできます。

①メディアをイジェクトします。
②最新の情報に更新します。
③メディアの消去を実行します。（書き換え型メディアのみ）
④メディアの種類などの情報を表示します。
⑤メディアに書き込まれているデータの容量などを表示します。

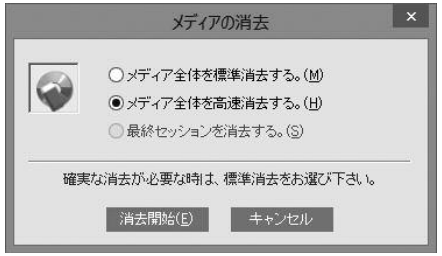
CD TEXT情報の表示

B's Recorderは、CD TEXT付きの音楽CDに書き込まれているアーティスト名や曲目などの情報を表示する機能を搭載しています。CD TEXT情報を読み出す時は、[メディア]→[CD TEXTの情報]を選択します。

メディアの消去について

CD-RWやDVD-RW、DVD-RAM、DVD+RW、BD-RE、HD DVD-RWなどの書き換え型のメディアは、書き込まれているデータを消去できます。メディアの消去は次の手順で行なえます。

[メディア]メニューから［消去］を選択します。



消去の方法を選択し、[消去開始]ボタンをクリックします。「メディアの消去」のダイアログが表示されたら、[はい]ボタンをクリックしてください。メディアの消去が始まります。

メディア全体を標準消去する	メディア全体を消去します。この方法では、2倍速CD-RWメディアの場合で約35分～40分、4倍速の場合で、約20分、10倍速の場合で、約10分ほどの時間がかかります。また、DVD-RWメディアでは、2倍速のDVD-RWとDVD+RWメディアで、約30分～40分、4倍速の場合で約15分ほど必要です。BD-REについては約1時間30分ほど、HD DVD-RWメディアでは約1時間ほどかかります。
メディア全体を高速消去する	この方法は、トラック情報に関連する部分だけを消去するため、処理に必要な時間は約1分です。トラック部分のみの消去ですが、データの書き込みに影響することはありません。
最終セッションを消去する	この方法は、CD-RWメディアでのみ使用できる機能で、メディアに書き込まれている最終セッションのみを消去します。この方法での消去には、同機能に対応したドライブが必要です。

Point

書き換え型メディアの消去は、「メディアの情報」画面から、[メディアの消去]を選択することでも行なえます。

ファイルブラウザの表示の変更

B's Recorderは、「ファイルブラウザ」とトラックウェルに登録されたファイルやフォルダのアイコンの表示を変更できます。変更は、［表示］アイコンをクリックすることで行なえ、クリックするたびに[大きいアイコン]［小さいアイコン］［一覧］［詳細]の４パターンが切り替わります。また、[表示]メニューから、［大きいアイコン]/[小さいアイコン]/[一覧]/[詳細]のいずれかを選択することでも同様の設定が行なえます。

ドライブの再検索

B's Recorderは、接続したドライブが認識できなかった場合などに対処するため、[ドライブの再検索]機能を搭載しています。ドライブを接続してもB's Recorderがそのドライブを認識できない時は、実行してください。

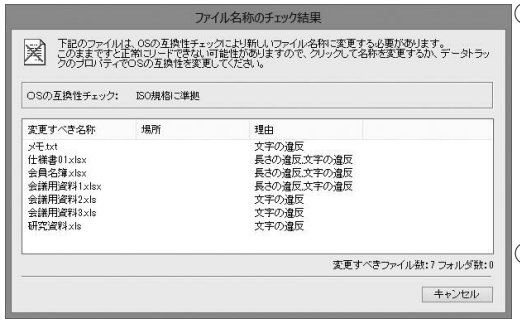
ドライブの再検索は、[ファイル]→[ドライブ設定]→[再検索]で行なえます。

ファイル名の互換性について

データCDは、使用できるファイル名の長さや文字種、フォルダの階層構造の制限などによって、いくつかの種類があります。B's Recorderでは、「ファイル名互換性の選択」を使用することで、これを選択できます。選択できるものには、次の4種類があります。また、登録されたデータのファイル名の互換性を確認するには、［実行］メニューの［ファイル名称チェック］から行なえます。

ISO規格に準拠

この設定は、「ISO9660レベル1」に準拠したデータCDを作成します。これは、どのOSでも読み出せるもっとも互換性が高い形式ですが、次のような制限があります。



①書き込めるフォルダの最大階層

書き込めるフォルダの階層は、最大8階層までです。それ以上の階層がある場合は、警告のメッセージが表示されますので、8階層以内になるように変更してください。

②使用できる文字数

ファイル名やフォルダ名に使用できる文字数は、半角（1バイト文字）で最大「8文字」まで、拡張子は、最大「3文字」までとなっています。これを超える場合は、文字数を変更するメッセージが表示されます。

③使用できる文字種

ファイル名やフォルダ名に使用できる文字種は、半角大文字の「A～Z」までのアルファベットと「0～9」までの数字、アンダーバー"_"のみです。それ以外の文字は使用できません。

MS-DOS,Windows 3.1

この設定は、「ISO規格に準拠」の制限の中から、書き込めるフォルダの最大階層と使用できる文字種のチェックをはずしたものです。ISO規格に準拠の制限のうち、②の内容のみがチェックされ、全角文字なら最大4文字をファイル名に使用できます。

Win 95/98/Me（Romeo準拠）

この設定では、ロングファイルネームを使用でき、半角文字で最大128文字、全角文字で64文字までのファイル名やフォルダ名を使用できます。この条件を超えると変更を促すメッセージが表示されます。

MS-DOS,Win 3.1/95/98/Me/NT/2000/XP（Joliet準拠）

この設定は、半角文字で最大64文字まで、全角文字で最大32文字までのファイル名やフォルダ名が使用でき、ファイル名にスペースを使用することもできます。また、この設定では、「ISO規格に準拠」を選択した場合のファイル名やフォルダ名と前述のロングファイルネームの2種類のファイル名/フォルダ名が書き込まれます。このため、ISO規格に準拠したファイル名やフォルダ名しか読み出せないOSでもこの形式で作成しておけば、読み出すことができます。通常は、この設定で使用することをお奨めします。

●a文字とd文字について

a文字

	2	3	4	5
0	(SP)*	0	@	P
1	!	1	A	Q
2	"	2	B	R
3	#	3	C	S
4	$	4	D	T
5	%	5	E	U
6	&	6	F	V
7		7	G	W
8	(	8	H	X
9	)	9	I	Y
10	*	:	J	Z
11	+	;	K	[
12	,	<	L	¥
13	-	=	M	]
14	.	>	N	^
15	/	?	O	_

d文字

	2	3	4	5
0	(SP)*	0	@	P
1	!	1	A	Q
2	"	2	B	R
3	#	3	C	S
4	$	4	D	T
5	%	5	E	U
6	&	6	F	V
7		7	G	W
8	(	8	H	X
9	)	9	I	Y
10	*	:	J	Z
11	+	;	K	[
12	,	<	L	¥
13	-	=	M	]
14	.	>	N	^
15	/	?	O	_

　　の文字は使用不可

Column

DVD、BD、HD DVDを作成する場合

DVD/BD/HD DVDメディアに記録する場合、ディスクアットワンス、トラックアットワンス、［ファイル名の互換性］の設定に関係なく、UDF/ISOブリッジが自動的に採用されます。また4GB以上のファイルを記録する場合は、UDFでの書き込みを実施する旨の警告やメッセージが表示されます。

■ DVD-R/RW/-R DLの対応について

DVD-R/RW/-R DLの注意点

DVD-R/RW/-R DLの利用にはDVD-R/RW対応ドライブとDVD-R/RW/-R DLメディアが必要です。DVD+RW/R対応のドライブあるいはDVD+RW/Rメディアとの間に互換性はありません。

DVD-Videoや著作権保護信号が書き込まれているDVDはバックアップできません。

DVDデータの書き込みやキャプチャー時のイメージ作成途中に「イメージファイルの書き込みに失敗しました。」とのメッセージが表示される場合は、ファイルシステムの制限（FAT16は2GB、FAT32は4GBなど）である可能性があります。データの書き込み時は、オンザフライを選択してください。

異なった種類のメディアに対してのバックアップはできません。

イメージ作成時には、メディア容量に相当するHDDの空き容量（推奨5GB以上）が必要です（DVD-R DLの場合は10GB以上）。

DVDからの読み込みはすべて最高速に設定されています。

DVD-R/RW/-R DLでは、セッションが「ボーダー」に、トラックが「ゾーン」と用語が異なるため、表示が変更になります。

DVD-R/RW/-R DLメディアへの書き込みは、1倍速がCDの約8倍速に相当します。例えば、2倍速の場合は、CDの約16倍速、4倍速では、CDの約32倍速に相当します。

DVD-R/RW/-R DLメディアで作成したDVD-Videoは、DVDの性質上、DVDプレーヤによっては、再生できないことがあります。

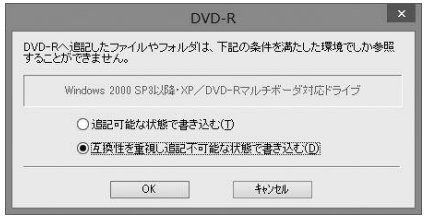
DVD-R/RW/-R DLメディアでは、ダイレクトカット機能は使用できません。

Point

DVD-R/-R DLおよびDVD-RWメディアへの書き込み時に、メディアがブランクメディアでかつ「ディスクアットワンス」と「ディスクを閉じる」のチェックボックスが「オフ」に設定されている時（追記可能な状態の時）は、確認画面が表示され、次の設定が行なえます。

●追記可能な状態で書き込む
DVD-R/-R DLの場合は、マルチボーダーで書き込みが行なわれます。書き込み後も同じメディアに対してデータ追記ができますが、メディアを読み出す場合は、それぞれのマルチボーダーに対応したドライブが必要です。
DVD-RWの場合は、書き換え可能なメディアの特性を生かし、マルチボーダーを使用することなく、追記可能な状態で書き込みが行なわれます。書き込み後も同じメディアに対してデータ追記ができます。ただし、メディアを「閉じる」ことはできません。

●互換性を重視し追記不可能な状態で書き込む
DVD-R/RWメディアいずれも、書き込み後の追記は行なえません。書き込んだメディアを他の環境で読み出す場合など、互換性を重視される場合はこちらを選択してください。



DVD-Rの場合

DVD-RWの場合

DVD+RW/+R/+R DLの対応について

DVD+RW/+R/+R DL共通の注意点

DVD+RW/+R/+R DLの利用にはDVD+RW/+R/+R DL対応ドライブとDVD+RW/+R/+R DLメディアが必要です。DVD-R/RW対応のドライブあるいはDVD-R/RWメディアとの間に互換性はありません。

UDF/UDF Bridge以外のイメージの書き込みはできません。

DVD-Videoや著作権保護信号が書き込まれているDVDはバックアップできません。

DVDデータの書き込みやキャプチャー時のイメージ作成途中に「イメージファイルの書き込みに失敗しました。」とのメッセージが表示される場合は、ファイルシステムの制限（FAT16は2GB、FAT32は4GBなど）である可能性があります。データの書き込み時は、オンザフライを選択してください。

異なった種類のメディアに対してのバックアップはできません。

イメージ作成時には、メディア容量に相当するHDDの空き容量（推奨5GB以上）が必要です（DVD+R DLの場合は10GB以上）。

DVDからの読み込みはすべて最高速に設定されています。

DVD+RW/+R/+R DLでは、トラックが「フラグメント」と用語が異なるため、表示が変更になります。

DVD+RW/+R/+R DLメディアへの書き込みは、1倍速がCDの約8倍速に相当します。例えば、2.4倍速の場合は、CDの約22倍速、4倍速では、CDの約32倍速に相当します。

DVD+RW/+R/+R DLメディアで作成したDVD-Videoは、DVDの性質上、DVDプレーヤによっては、再生できないことがあります。

DVD+RW/+R/+R DLメディアでは、ダイレクトカット機能は使用できません。

Point

DVD+RW/+R/+R DLドライブは、書き込むデータの容量が1GBに満たない時に、1GBを超えるまでダミーデータを書き込むかどうかの設定を行なえます。設定は、ツールバーの[環境設定]ボタンをクリックし、「環境設定のプロパティ」を開き、[高度なドライブ設定]ボタンをクリックすることで行ないます。「高度なドライブ設定」画面が開いたら、「DVD+RW/+R設定」タブをクリックし、「読み取り互換性を重視する」のチェックボックスを「オン」に設定します。これで、DVD-R/RWドライブ同様に1GB未満のデータを書き込む時にダミーデータを書き込むように設定されます。

DVD+R固有の注意点

・DVDマルチセッションで記録されたメディアのコピーは、DVD+Rメディア同士のみ行なえます。

・DVD+R/+R DLメディアへの書き込み時に、メディアがブランクでかつ「ディスクアットワンス」と「ディスクを閉じる」のチェックボックスが「オフ」に設定されている時（追記可能な状態の時）は、確認画面が表示され、次の設定が行なえます。

●追記可能な状態で書き込む

マルチセッションで書き込みが行なわれます。書き込み後も同じメディアに対してデータ追記ができますが、メディアを読み出す場合は、DVD+R/+R DLのマルチセッション対応ドライブが必要です。

●互換性を重視し追記不可能な状態で書き込む

書き込み後の追記は行なえません。書き込んだメディアを他の環境で読み出す場合など、互換性を重視される場合はこちらを選択してください。

DVD+RW固有の注意点

DVD+RWメディアはメディアを「閉じる」ことはできません。空き容量を使い切るまで追記が行なえます。

DVD-RAMの対応について

DVD-RAMの利用にはDVD-RAM 対応ドライブとDVD-RAM ディスクが必要です。

DVD-RAMディスクでは、ダイレクトカット機能とメディアレスキュー機能は使用できません。

DVD-RAMでは、速度設定はありません。

2.6GB DVD-RAMディスクには、対応していません。

DVDディスクのコピーを行なう場合は、読み込み側と書き込み側がそれぞれ対応するようドライブレターを選択してください。読み込み／書き込み側に対応しないディスクをセットした場合は、ディスクが認識されなかったり、ディスクのセット直後にイジェクトされることがあります。

DVD-RAM同士でのコピーの場合、コピー先の総容量がコピー元より大きい場合のみ可能です。また、DVD-Videoや著作権保護信号が書き込まれているDVDはコピーできません。

エクスプローラ上でファイルコピーを行なっている最中は、B's Recorderを起動しないでください。

B's Recorderで書き込んだディスクは、他のソフトからは一切の書き込みが行なえません。他のソフトからデータを書き込むする場合は、必ず物理フォーマット（標準消去）が必要となります。データ書き込み時のソフトと追記の可否については、次の表をご参照ください。

記録方法	書き込み形式	追記（B's Recorder）	追記（DVD-RAMドライバ）	追記（Windows XP）
B's Recorder	UDF1.02	○	×	×
DVD-RAMドライバ	FAT32、UDF1.50、UDF2.00	×	○	FAT32のみ追記可
WindowsXP	FAT32	×	×	○

DVD-RAMのベリファイ機能は他のDVD記録型ディスクと異なり、ベリファイエラーが発生した場合には交代処理（問題のあったセクターを自動的に無効にし、他の正常な代替セクターにデータを書き込むこと）が行なわれます。他のDVD記録ディスクと比較してディスクが有効活用され、より信頼性の高い書き込みが行なわれますが、ベリファイレスの状態と比べて約２倍の時間が必要です。また、ベリファイレス記録を行なうには対応したドライブが必要です。

DVD-RAMドライブでは、仕様上バッファアンダーランエラーは発生しません。書き込み完了までが比較的高速に行なえるオンザフライでの書き込みをおすすめいたします。

物理フォーマットに必要な時間は、ドライブの種類やディスクの容量により異なりますが、最長で１時間半ほどかかることがあります。

ディスクを閉じることはできません。空き容量を使い切るまで追加記録が可能です。

各種ディスク間でのコピー／バックアップの可否に関しては、次の表をご参照ください。

読み取り	書き込み	可否
DVD-ROM	CD-R/RW	×
CD-ROM	DVD-RAM	×
DVD-RAM	DVD-RAM	○
DVD-ROM	DVD-RAM	○
DVD-RAM	DVD-R	×

DVD-RAMでは、セッションが「ボーダー」に、トラックが「ゾーン」と用語が異なるため、表示が変更になります。

DVD-RAMからの読み込みは常に最高速に設定されています。

BD-Rの対応について

BD-Rの利用にはBD-R対応ドライブとBD-Rメディアが必要です。

BDデータの書き込みやキャプチャー時のイメージ作成途中に「イメージファイルの書き込みに失敗しました。」とのメッセージが表示される場合は、ファイルシステムの制限（FAT16は2GB、FAT32は4GBなど）である可能性があります。データの書き込み時は、オンザフライを選択してください。

異なった種類のメディアに対してのバックアップはできません。

イメージ作成時には、メディア容量に相当するHDDの空き容量（推奨：1層30GB/2層60GB以上）が必要です。

BDからの読み込みはすべて最高速に設定されています。

BD-Rメディアへの書き込みは、1倍速がDVDの約3倍速に相当します。

BD-Rメディアでは、ダイレクトカット機能とメディアレスキュー機能は使用できません。

BD-Rメディアのベリファイ機能はベリファイエラーが発生した場合に交代処理（問題のあったセクターを自動的に無効にし、他の正常な代替セクターにデータを書き込むこと）が行なわれます。他の記録ディスクと比較してディスクが有効活用され、より信頼性の高い書き込みが行なわれますが、ベリファイレスの状態と比べて約２倍の時間が必要です。また、ベリファイレス記録を行なうには対応したドライブが必要です。

Point

BD-Rメディアへの書き込み時に、メディアがブランクメディアでかつ「ディスクアットワンス」と「ディスクを閉じる」のチェックボックスが「オフ」に設定されている時（追記可能な状態の時）は、確認画面が表示され、次の設定が行なえます。

●追記可能な状態で書き込む
マルチセッションで書き込みが行なわれます。書き込み後も同じメディアに対してデータ追記ができます。

●互換性を重視し追記不可能な状態で書き込む
書き込み後の追記は行なえません。書き込んだメディアを他の環境で読み出す場合など、互換性を重視される場合はこちらを選択してください。

BD-Rの場合

BD-REの対応について

BD-REの利用にはBD-RE 対応ドライブとBD-RE ディスクが必要です。

BD-REディスクでは、ダイレクトカット機能とメディアレスキュー機能は使用できません。

BDディスクのコピーを行なう場合は、読み込み側と書き込み側がそれぞれ対応するようドライブレターを選択してください。読み込み/書き込み側に対応しないディスクをセットした場合は、ディスクが認識されなかったり、ディスクのセット直後にイジェクトされることがあります。

BD-RE同士でのコピーの場合、コピー先の総容量がコピー元より大きい場合のみ可能です。

エクスプローラ上でファイルコピーを行なっている最中は、B's Recorderを起動しないでください。

B's Recorderで書き込んだディスクは、他のソフトからは一切の書き込みが行なえません。他のソフトからデータを書き込むする場合は、必ず物理フォーマット（標準消去）が必要となります。データ書き込み時のソフトと追記の可否については、次の表をご参照ください。

記録方法	書き込み形式	追記（B's Recorder）	追記（BDドライバーソフト）
B's Recorder	UDF2.50	○	×
BD ドライバーソフト	FAT32、UDF1.50、UDF2.00、UDF2.50	×	○

物理フォーマットに必要な時間は、ドライブの種類やディスクの容量により異なりますが、１時間半ほどかかることがあります。

ディスクを閉じることはできません。空き容量を使い切るまで追加記録が可能です。

HD DVD-R/-R DL/-RWの対応について

HD DVD-R/-R DL/-RWの利用にはHD DVD-R/-R DL/-RW対応ドライブとHD DVD-R/-R DL/-RWメディアが必要です。

HD DVDデータの書き込みやキャプチャー時のイメージ作成途中に「イメージファイルの書き込みに失敗しました。」とのメッセージが表示される場合は、ファイルシステムの制限（FAT16は2GB,FAT32は4GBなど）である可能性があります。データの書き込み時は、オンザフライを選択してください。

異なった種類のメディアに対してのバックアップはできません。

イメージ作成時には、メディア容量に相当するHDDの空き容量（推奨：1層20GB/2層40GB以上）が必要です。

HD DVDからの読み込みはすべて最高速に設定されています。

HD DVDメディアへの書き込みは、1倍速がDVDの約3倍速に相当します。

HD DVDメディアでは、ダイレクトカット機能とメディアレスキュー機能は使用できません。

メディアのコピーの可否について

メディアのコピーの可否については次の表をご参照ください。

コピー元メディア	書き込み形式（※4）	コピー先メディア	書き込みの可否
DVD-R	追記なし（シングルボーダー）	DVD-R	○
		DVD-R DL	○
		DVD-RW	○
		DVD+R/+R DL	○
		DVD+RW	○
		DVD-RAM	○
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
	追記あり（マルチボーダー）	DVD-R	○
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	×
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	×
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
DVD-R DL（※1）	追記なし（シングルボーダー）	DVD-R	○（※5）
		DVD-R DL	○
		DVD-RW	○（※5）
		DVD+R/+R DL	○（※5）
		DVD+RW	○（※5）
		DVD-RAM	○（※5）
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
	追記あり（マルチボーダー）	DVD-R	×
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	×
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	×
		BD-R/BD-R DL	×

コピー元メディア	書き込み形式（※4）	コピー先メディア	書き込みの可否
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
DVD-RW（※2）	追記なし（シングルボーダー）	DVD-R	○
		DVD-R DL	○
		DVD-RW	○
		DVD+R/+R DL	○
		DVD+RW	○
		DVD-RAM	○
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
	追記されている（シングルボーダー）	DVD-R	○
		DVD-R DL	○
		DVD-RW	○
		DVD+R/+R DL	○
		DVD+RW	○
		DVD-RAM	○
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
DVD+R/+R DL	追記なし（シングルセッション）	DVD-R	○（※5）
		DVD-R DL	○
		DVD-RW	○（※5）
		DVD+R/+R DL	○
		DVD+RW	○（※5）
		DVD-RAM	○（※5）
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
	追記されている（マルチセッション）	DVD-R	×
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	○
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	×
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×

コピー元メディア	書き込み形式（※4）	コピー先メディア	書き込みの可否
DVD+R/+R DL	追記されている（マルチセッション）	HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
DVD+RW（※3）	追記あり（シングルボーダー）	DVD-R	○
		DVD-R DL	○
		DVD-RW	○
		DVD+R/+R DL	○
		DVD+RW	○
		DVD-RAM	○
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
DVD-RAM	追記あり（シングルボーダー）	DVD-R	×
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	×
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	○
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
BD-R/BD-R DL	追記なし（シングルセッション）	DVD-R	×
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	×
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	×
		BD-R/BD-R DL	○（※6）
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
	追記されている（マルチセッション）	DVD-R	×
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	×
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	×
		BD-R/BD-R DL	○（※6）
		BD-RE/BD-RE DL	×

コピー元メディア	書き込み形式（※4）	コピー先メディア	書き込みの可否
	追記されている（マルチセッション）	HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
BD-RE/BD-RE DL	追記あり（シングルセッション）	DVD-R	×
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	×
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	×
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	○（※7）
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
HD DVD-R	追記なし（シングルボーダー）	DVD-R	×
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	×
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	×
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	○
		HD DVD-RW	○
	追記されている（マルチボーダー）	DVD-R	×
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	×
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	×
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R	○
		HD DVD-R DL	×
		HD DVD-RW	×
HD DVD-R DL	追記なし（シングルボーダー）	DVD-R	×
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	×
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	×
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×

コピー元メディア	書き込み形式（※4）	コピー先メディア	書き込みの可否
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	○（※8）
		HD DVD-RW	○（※8）
HD DVD-RW	追記なし（シングルボーダー）	DVD-R	×
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	×
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	×
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	○
		HD DVD-RW	○
	追記されている（シングルボーダー）	DVD-R	×
		DVD-R DL	×
		DVD-RW	×
		DVD+R/+R DL	×
		DVD+RW	×
		DVD-RAM	×
		BD-R/BD-R DL	×
		BD-RE/BD-RE DL	×
		HD DVD-R/HD DVD-R DL	○
		HD DVD-RW	○

※1追記されているDVD-R DLメディアは複製できません。

※2家庭用DVDレコーダーで「ビデオレコーディングフォーマット」や「VRモード」などと呼ばれる方法で録画したDVD-RWディスクは複製できません。「パケット形式でフォーマットされたディスクはコピーできません。」というエラーメッセージが表示されます。

※3家庭用DVDレコーダーで「ビデオレコーディングフォーマット」や「VRモード」などと呼ばれる方法で録画したDVD+RWディスクをDVD+RW以外のディスクに複製したものは、家庭用DVDレコーダーで再生できない可能性があります。

※4「書き込み状態」欄の（ ）内の用語は規格で決められている名称です。例えば、何度か追記したDVD-Rディスクのことは「マルチボーダー記録のDVD-R」と称します。DVD+R/DVD+RWの場合のみ「セッション」という表記になります。

※5複製元がDVD+R DL/DVD-R DLの場合、そのディスクの使用容量が複製先ディスクの容量より少なければ複製できます。

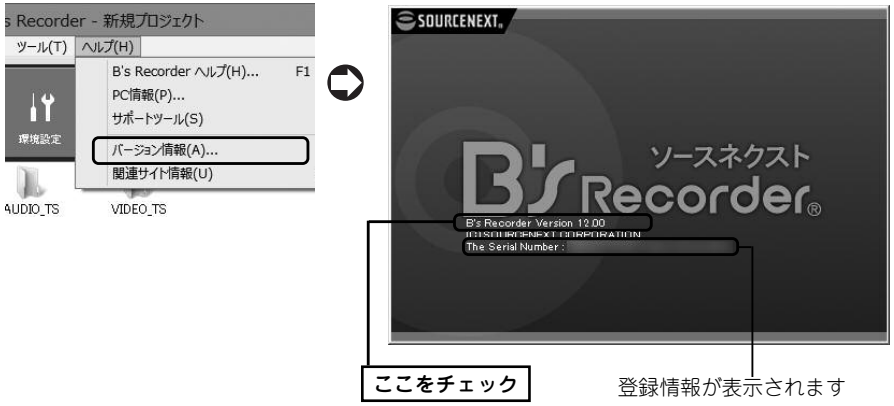
※6複製元がBD-R DLの場合、そのディスクの使用容量が複製先ディスクの容量より少なければ複製できます。

※7複製元がBD-RE DLの場合、そのディスクの使用容量が複製先ディスクの容量より少なければ複製できます。

※8複製元がHD DVD-R DLの場合、そのディスクの使用容量が複製先ディスクの容量より少なければ複製できます。

■ バージョン情報の確認

ソフトウェアのバージョン情報は、ソフトウェアのアップデータを使用したり、サポートセンターに問合せを行なう場合などでは、大変重要な情報の1つです。B's Recorderのバージョン情報は、[ヘルプ]→[バージョン情報]を選択することで表示できます。



■ サポートサービスについて

この「ユーザーズマニュアル」で疑問点が解決しない場合は、以下の方法をお試しください。

■ヘルプを使って調べる

パソコンの画面上で見られる「ヘルプ」は、「B's Recorder」の機能や設定を詳しく知りたい場合に便利です。

手順

1.「B's Recorder」を起動します。
2.ファイルメニューから［ヘルプ］-［B's Recorderヘルプ］を選択します。
3.画面左の目次からご覧になりたい項目をクリックします。

■サポートページで調べる

「B's Recorder」は、困った時にすぐ問題を解決できるようサポートページをご用意しています。

以下のURLへアクセスし、「よくあるご質問（Q&A）」をご確認ください。

専用サポートページ　URL

http://www.sourcenext.com/support/

■アップデータを適用する

アップデータを適用して現象が改善されるかご確認ください。

アップデータはマイページからダウンロードできます。

マイページ

http://www.sourcenext.com/sc/users/login_myp/

■サポートセンターへ問い合わせる

ヘルプやサポートページで解決方法が見つからない場合は、サポートセンターまでお問い合わせください。

なお、製品のサポートを受けるには、下記の条件をご確認ください。

・メーカーサポートのパソコンであること

・動作環境とOS推奨の条件を満たしていること

メールでのお問合せ

以下の方法でお問い合わせください。

1.専用サポートページを開きます。
http://www.sourcenext.com/support/

2.「よくあるご質問（Q&A)」をクリックします。

3.該当する製品名をクリックします。

4.該当するQ&Aをクリックします。該当するQ&Aがない場合は他の適当なQ&Aを選択してください。

5.Q&Aのページ下部にある「問い合わせる」ボタンをクリックします。お問い合わせフォームが表示されますので、案内に沿ってお進みください。

■カスタマーサービスのご利用に関して

ソースネクスト製品サポート規約（2013年3月26日現在）抜粋

第6条（サポートの制限事項）

弊社が以下の項目に該当すると判断する事由があった場合、サポートの利用を制限する場合があります。また、火災、停電、天変地異およびシステム上の不具合が発生した場合は、サポートが一時利用できない場合があります。

（1）弊社の規定する動作環境外あるいはお客様固有の特殊な動作環境における不具合に対する問合せの場合。
（2）弊社が規定・提供するサポート以外の対象・方法によるサポートを強要する行為。
（3）第三者または弊社の財産もしくはプライバシーを侵害する行為、または侵害する恐れのある行為。
（4）第三者または弊社に不利益もしくは損害を与える行為、またはその恐れのある行為。
（5）弊社および業務に従事する者に対し、著しく名誉もしくは信用を毀損する行為、またはその恐れのある行為。
（6）他人のメールアドレスを登録するなど、虚偽の申告、届出を行なう行為。
（7）公序良俗に反する行為、またはその恐れのある行為。
（8）犯罪行為または犯罪に結びつく行為、またはその恐れのある行為。
（9）その他法律、法令または条例に違反する行為、またはその恐れのある行為。
（10）その他弊社が不適切と判断する行為。なお、日本語版以外のOSをご利用の場合、日本国外からの問合せまたは日本語以外の言語による問合せの場合、および製品によるお客様作成の成果物に対しての問合せの場合は、一切サポートを行なっておりません。

第9条（責任の免除）

1.サポートはあくまで助言としてお客様に提供されるものであり、問合せのあった問題の解決、お客様の特定の目的にかなうこと、および不具合の修補を保証するものではありません。

2.サポートによる保証の範囲は、各製品の使用許諾条件書に準ずるものとします。また、火災、天災、地変、水害などにより生じた損傷への保証は行ないません。

詳細につきましては、下記URLよりソースネクスト製品サポート規約をご覧ください。
http://www.sourcenext.com/rule/support/